555
11

0022667000

③

0022667-000

５５５－１１

露亜経済調査叢書

南満洲鉄道株式会社総務部調査課・編

大阪毎日新聞社．東京日日新聞社

第９０編

昭和７

ADC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第６７条の規定に基づき、平成１２年５月１５日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

555
11

ろけ於に較比のと代時政帝
情事濟經邦聯トーニウソ

藏 A
26
54

南滿洲鐵道株式會社
總務部調査課編

露亞經濟調査叢書

帝政時代との比較に於けるソウェート聯邦經濟事情

才90

立憲民政黨
政務調査館

發行所　大阪毎日新聞社

555
11

國立國會圖書館
43. 1. 23

766559

例言

一、ソウェート聯邦の政府當局者は同國の國民經濟が歐洲戰前の水準迄復興した事を屢々公言した。此公言は最初は半ば宣傳的性質を帶びてゐたが、後に至つては各種統計上略々其正確なることが立證せられてゐるから吾人も之を認むるに吝ならざる者である。併し一九一三年は決して露西亞國民經濟の發達の頂點を示すものでも無ければ、また優良なる常態を示すものでも無い。そは單に發達過程の或一期に過ぎないのであつて、ボリシェウィキに據れば、壞滅に瀕せる露國資本主義經濟の斷末魔の期に外ならぬのである。たゞ一九一三年に至る迄露國々民經濟が不斷の上昇を續けた事は事實であつて、この不變の發達の趨勢が一九一三年及一九一七年の二改變期を境として激變し、一九一三年迄の趨勢と一九一七年後の趨勢との間に明確なる對照のある事も亦事實である。故に本書に於ては一九一三年及一九一七年を基準とし、其前後の日露戰爭期より露國帝政の末期、革命時代を經て現在に至る全國民經濟期を比較對照する方法により現下のソウェート國民經濟の經濟史的地位を明かにし、更にボリシェウィキの經濟政策の齎らす影響の眞の意義は、同じ期間に於て發達のテンポを緩めなかつた世界の他の諸國の經濟狀態と比較する事により一層明瞭となる事を考へ、後者との比較をも試みた。但し同一基礎の上に作成せられた正確なる比較資料を得る事が種々の事情により極めて困難であるから、本書の示す數字が蓋然性を有するもの程度に過ぎないことは勿論である。

一、本書に引用した文獻は脚註を以て之を明示し、以て該統計の信用上の價値の批判並に檢討の便に資した。參考

例言

書に就いては最初ソウェート聯邦の經濟狀態を評價する上に於て最も剴切公平且ソウェート官憲から何等の制約を受けず自由の立場に在るソウェート聯邦國外の經濟學者の著述を採る事こし、その方針の下に仕事を進めたのであつたが、斯る文獻は比較的稀であるこ共に或年代及び或經濟部門に關する資料が缺除し、而も此等の文獻の所載資料が多くの場合ソウェート聯邦內の刊行物から引用せられて居るのを發見したため、初期の計畫を改め、國外の文獻を尊重するこ共に一方ソウェート官憲の發表に係る統計資料又は國內の經濟學者の著述をも併せ利用する事こした。書中錯雜せざる程度に於て同一年代の同事項に對し多種の統計を揭載したのは、所定の對象に關し成るべく公平なる概念を與へんこする考へに外ならない。

一、本書に於ては已むを得ざる場合を除き歷史的叙述を避け、それに代へて『重要內治外交事項年表』を作成し、これを卷末に收めた。

一、本編は飜譯書ではないが、叢書に加へるここ、した。

一、擔當者　市川　倫

昭和七年四月

總務部調査課

度量衡比較表

1) 尺度

露里	粁	哩	里・町
1	1.0668	0.662879	0.27164里 9.77899町
0.937383	1	0.62137	0.25463里 9.1666町
1.50857	1.609344	1	0.40979里 14.753町
3.68135	3.92727	2.4403	1里

2) 重量

布度	フント	基瓦	キンタル	セントナル	瓲	貫
1	40	16.380496	0.1638	0.1638	0.01612	4.36813
0.025	1	0.40951	0.004095	0.004095	—	0.1092
0.061	2.44	1	0.01	0.01	0.001	0.26667
6.1048	—	100	1	1	0.1	26.667
6.1048	—	100	1	1	0.1	26.667
62.0280128	—	1000	10	10	1	266.667
0.22875	9.1575	3.75	0.0375	0.0375	0.003749	1

3) 地積

デシャチン	平方露里	平方粁	ヘクター	エイカー	町歩	平方里
1	—	—	1.09254	2.69972	1.14615	—
—	1	1.13806	113.806	281.221	—	0.07379
—	0.878687	1	100	247.106	—	0.06484
0.9153	—	0.01	1	2.47106	1.00833	—
0.37048	—	—	0.404686	1	0.408	—
0.8735	—	—	0.99174	2.45064	1	—
—	13.5523	15.42345	—	—	—	1

帝政時代との比較に於ける

ソウェート聯邦經濟事情

目次

第一章　面積及人口……一
　第一節　面積……一
　第二節　人口……三
第二章　農業……一二
　第一節　穀物……一二
　　第一項　播種面積……一二
　　第二項　收量……一二
　第二節　工藝用農作物……二一
　　第一項　播種面積……三二
　　第二項　收量……三二

第三章 林業……五六
第四章 畜產業……六一
第一節 家畜數……六一
第二節 畜產物產額……六七
第五章 漁業……七四
第六章 狩獵業……七八
第七章 工業……八一
第一節 總生產額……八一
第二節 重工業……八八
第一項 石炭……八八
第二項 石油……九三
第三項 金……九七

第四項 鉄鐵……九八
第五項 鐵及鋼……一〇二
第三節 輕工業……一〇五
第一項 紡績……一〇五
第二項 製紙……一〇八
第三項 煙草製造……一一〇
第四項 製糖……一一二
第八章 外國貿易及國內商業……一一五
第一節 外國貿易……一一五
第一項 外國貿易總額……一一五
第二項 農產物……一二四
第三項 木材……一二八
第四項 石炭……一三一
第五項 石油……一三四
第六項 鐵及鐵製品……一三七
第二節 國內商業……一四二

第九章 交通……一四九
第一節 鐵道……一四九
第一項 軌道……一四九
第二項 車輛……一五三
第三項 運轉及運輸成績……一五七
第四項 收入及支出……一六五
第二節 河川運輸……一七二
第一項 船舶……一七二
第二項 輸送……一七五
第三節 海運……一七七
第一項 船舶……一七七
第二項 輸送……一八〇
第十章 財政……一八四

第一節 歲計……一八四
第二節 國債……一九八
附記 國民所得
第十一章 貨幣及金融……二一一
第一節 通貨……二一一
第二節 金融……二一九
第三節 物價……二三一
第十二章 勞働……二四一
第一節 勞働者數……二四一
第二節 勞銀……二四五
第三節 生產率……二五〇
第四節 失業者數……二五四

目次

附錄第一 自一九〇三年至一九二七年 **經濟統計一覽表**……一

第一表 一九〇三年——一九一三年國民經濟主要部門動態

第二表 一九一三年——一九二七年國民經濟主要部門動態

附錄第二 日·英·米·佛諸國との比較……四

統計表

第一 農業統計(イ)播種面積……五

第二 同 上(ロ)穀物收量……七

第三 家畜統計……一〇

第四 鑛業及工業生產統計……一三

第五 貿易統計……一六

第六 鐵道統計……一九

第七 歲計及通貨統計……二二

圖表

第一 穀物收量

第二 重工業產額(イ)石炭

第三 同 上(ロ)石油

第四 同 上(ハ)銑鐵

第五 貿易額(イ)總額

第六 同 上(ロ)輸出及輸入額

第七 歲計

附錄第三 內治外交重要事項年表……二六

帝政時代との比較に於けるソヴエート聯邦經濟事情

帝政時代との比較に於ける

ソウェート聯邦經濟事情

第一章　面積及人口

第一節　面積

露國の版圖は日露戰爭前に於て一九、七〇九、二九四平方露里（二二、四三〇、〇〇四平方基米）を算したが、日露戰爭に於ける敗戰の結果、ポーツマス條約に據り樺太島の南半三三、〇〇〇平方露里餘を日本に割讓せるため一九〇五年末に於ける露國の國土面積は約一九、六七六、〇〇〇平方露里となつた。[1]

露國の版圖は歐洲戰爭と露國革命に依り著しき變化を見た。即ち一九一七年十二月十八日ソウェート政府は芬蘭の獨立を承認し、一九一八年三月三日には協商國との間にブレスト媾和條約を調印し、次いで同年八月二十七日伯林に於て獨逸との間に追加協定を結び、この條約及協定の結果波蘭の九縣、ウクライナの九縣、リトワの三縣、バルチック海沿岸の三縣（以上面積合計六九九、〇〇〇平方露里、人口合計五二、九四五、〇〇〇人）が露國から分離した。

本條約及協定は協商國の降服後露國はその失效を宣し、一九一八年十二月以降ウクライナ及其他該條約及協定に依り分離したる區域の獨立を取消し、同時にラトヴィヤ及リトワの兩ソウェート共和國の獨立

1) Большая энциклопедія. № 22. Россія.

帝政時代との比較に於けるソウエート聯邦經濟事情

を承認した。斯してエストニヤ、ラトヴィヤ及びリトワ各獨立共和國が出現したのである。波蘭は一九一八年十一月獨立を宣し、ヴェルサイユ講和條約に於て承認せられた。

今左に歐洲戰爭及露國革命に依り露國より獨立分離したる諸國の面積を掲ぐるに左の如くである。

國別	1)（平方露里）	2)（平方基米）
芬蘭（ペチェンガを含む）	二九五、三〇〇	三二六、〇三七(註)
波蘭	二一八、五〇〇	二四八、六五三
ラトヴィヤ	六一、〇〇〇	六九、四一八
リトワ	五一、五〇〇	五八、六〇七
エストニヤ	三六、〇〇〇	四〇、九六八
カルス州（土耳古領）	一七、五〇〇	一九、九一六
ベスサラビヤ（ルーマニヤ領）	三九、〇〇〇	四四、三八二
合計	七一八、八〇〇	八〇七、九八一
戰前領土に對する％	三・八％	三・八％

（註）一說には三八七、〇〇〇平方基米とある。3)

斯くて現在ソウエート聯邦の版圖の總面積は二一、二七四、二八六平方基米（註）となつたが、これを七加盟共和國に區分するに左の如くである。4)（單位平方基米）

露西亞社會主義聯邦ソウエート共和國　一九、七〇七、四〇九

白露社會主義ソウエート共和國　二二六、七九二

ウクライナ社會主義ソウエート共和國　四五一、七六七

後高架索社會主義聯邦ソウエート共和國　一八七、一二九

ウズベク社會主義ソウエート共和國　一六八、一三四

トルクメン社會主義ソウエート共和國　四九一、二一六

タジク社會主義ソウエート共和國　一四一、八三九

（註）ソ聯中央執行委員會統計局發表によれば、一九三一年一月一月現在二一、二三六、一〇〇平方基米である。1)

1) Записки института изученія Россіи. I. 133-4 頁
2) Торгово-промышленный и финансовый словарь. III. 145-6 頁
3) А. И. Стецкий. Политическій словарь. 594 頁
4) Календарь коммуниста на 1931 год. 381-382 頁

第二節　人口

一九〇五年一月一日現在人口は左の如くである。2)

地方別	實數	一平方露里當人口
歐露	一〇七、六二五、八〇〇	二五・四
波蘭	一〇、七七四、九〇〇	九六・六
高架索	一〇、二五九、六〇〇	二五・〇
西比利亞	六、五六八、〇〇〇	〇・六
細亞草原地方	三、八〇六、五〇〇	二・〇
トルケスタン	四、九四五、三〇〇	四・六
芬蘭	二、八五七、〇〇〇	九・八
合計	一四六、八三七、一〇〇	七・七

1) Известия. 9 апреля 1931. г.
2) Большая энциклопедія. № 22. Россія.

次に一九一三年一月一日現在の人口は、中央統計委員會の算定に依るに左の如くである。[1]

地方別	總人口（單位千人） 男	女	計	都市人口（單位千人） 男	女	計	面積（單位平方露里）	一平方露里當人口（單位人）
歐露	六二、一七八・〇	六三、五〇五・八	一二五、六八三・八	八、六五七・九	八、二〇七・六	一六、八六五・五	四、二五〇、五七四・八	三一・六
波蘭	六、〇〇九・八	五、九五〇・七	一一、九六〇・五	一、四七三・〇	一、四三六・〇	二、九〇九・〇	九九、六九一・一	二九・六
高架索	六、五五六・九	五、九五五・九	一二、五一二・八	九二〇・五	七三三・八	一、六五三・三	四一二、三一〇・八	三〇・三
西比利	五、〇三五・三	四、七五三・一	九、七八八・四	六三七・二	五一六・二	一、一五三・四	一〇、九九六、三四五・五	〇・九
中央亞細亞	五、八五六・四	五、一〇一・〇	一〇、九五七・四	八五二・〇	七二四・二	一、五七六・二	三、一一〇、六三三・七	三・五
計	八五、六三六・四	八五、二六六・五	一七〇、九〇二・九	一二、五九〇・六	一一、六一六・八	二四、一五七・四	一八、八六九、五四五・九	九・一
芬蘭	一、五九四・〇	一、六〇二・七	三、一九六・七	二三三・五	二五七・五	四九一・〇	二八六、〇四一・八	一一・二
總計	八七、二三〇・四	八六、八六九・二	一七四、〇九九・六	一二、七七四・一	一一、八七四・三	二四、六四八・四	一九、一五五、五八七・七	九・一

歐洲戰爭初年即ち一九一四年に於ける露國の總人口は芬蘭を加へて一七八、三七八、八〇〇人（男子八九、三五六、六〇〇人、女子八九、〇二二、二〇〇人、都市住民二六、八〇〇、四〇〇人）であつて、[2] 現在のソウェート聯邦の領土に於ける同年の人口は一三八、五〇〇、〇〇〇人である。[3]

他の資料に依るに、一九一四年一月一日現在の人口は一三八、二〇〇、〇〇〇人にして、これをソウェート聯邦の行政區劃に基いて見るに左の如くである。[4]（單位千人）

露西亞社會主義聯邦ソウェート共和國	九四、三〇〇
ウクライナ社會主義ソウェート共和國	二七、七〇〇
白露社會主義ソウェート共和國	四、七〇〇
後高架索社會主義聯邦ソウェート共和國	五、五〇〇
トルクメン社會主義ソウェート共和國	
ウズベク社會主義ソウェート共和國	六、〇〇〇
タジク社會主義ソウェート共和國	

1) Ежегодник министерства финансовъ. Вып. 1915 г. 3-5 頁
2) Ежегодник министерства финансовъ. Вып. 1915 г. 569 頁
3) Записки института изученія Россіи. I. 134 頁
4) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917-1927 гг. 32 頁

歐洲戰爭に依る露國の人口の損消數は相當完全に調査されてゐるが、その公表せられたる數字は左の如くである。[1]

一九一四―一五年	三、〇七二、〇〇〇人
一九一六年	二、七六八、〇〇〇人
一九一七年	一、一九六、〇〇〇人
合計	七、〇三六、〇〇〇人

右の中、戰死者及行方不明及捕虜は四、三二〇、〇〇〇人（後送後死亡したる負傷者及病死者を含まない）、負傷者は二、七一六、〇〇〇人である。

左表は露國が小共和國の分離に依つて失つた人口を示すものである。[2]

國別	人口（單位人） 一九一四年	一九二〇年
芬蘭	三、一九七、〇〇〇	三、三四八、〇〇〇

1) Записки института изученія Россіи. I. 136 頁
2) Торгово-промышленный и финансовый словарь. III. 145-146 頁

發見するのである。[1]

前記一九二〇—二一年は恰かも所謂戰時共産主義時代の末期に饑饉の年に相當するのであるが、この年々に關する數字に歐洲戰爭前の數字にを對照する時、我々は人口動態に於て左の如き興味ある現象を

地方別	男	女	計
歐露諸縣其各共和國及自治州	二六、四八七	三三、三二八	五九、八一五

一九二〇年の現在ソヴェート聯邦領土に於ける總人口は左の如くである。[2]（單位千人）（註）

左の數字は比較的信を措き得るものとして掲ぐることゝする。

官廳自身も亦久しきに亙つて登錄を拋棄した。[1] 一九二〇年に關する人口統計は極めて不完全であるが、出生、死亡及婚姻の登錄の全く行はれざるに至つたゝめであつて、官憲は教會の登錄を禁止するに共に事は恐らく無からう。それは人口の動態を算定する資料及び書類の革命當時に失はれたるもの多く且つ歐洲戰爭及革命の當時に於ける人口の動態は全然不明であつて、將來に於てもこれが明かにせられる

帝政時代との比較に於けるソヴェート聯邦經濟事情			
歐露諸縣西亞領土の人口に對する百分比	合計	ルーマニヤの占領區域	土耳古
	三一、三九八、〇〇〇	二、四五八、〇〇〇	四八〇、〇〇〇
	二三・二	二三・二	二・三
	二八、五七一、〇〇〇	二、二一三、〇〇〇	四九二、〇〇〇
	二・七	二・七	二・七

帝政時代との比較に於けるソヴェート聯邦經濟事情			
歐洲戰爭及革命の當時に於ける人口の動態は全然不明であつて、將來に於てもこれが明かにせられる	一、一五〇、〇〇〇	一、七五〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇
	二、三七二、〇〇〇	二、二四六、〇〇〇	二、二四六、〇〇〇
	二、七四一、〇〇〇	一、六〇二二、〇〇〇	一、六〇二二、〇〇〇
	一九、〇〇〇、〇〇〇	一九、〇〇〇、〇〇〇	一九、〇〇〇、〇〇〇
	四八〇、〇〇〇	四九二、〇〇〇	四九二、〇〇〇
	二、四五八、〇〇〇	二、二一三、〇〇〇	二、二一三、〇〇〇
	三一、三九八、〇〇〇	二八、五七一、〇〇〇	二八、五七一、〇〇〇
	二三・二	二一・七	二一・七

1) Записки института изученія Россіи. I. 136 頁

2) Ежегодник коминтерна. 1923 г. 284-289 頁

1) Записки института изученія Россіи. I. 136 頁

年度別	人口一萬人に對する年平均增加數又は減少數	
	出生	死亡
A. 一九一一—一三年（五十箇縣調査）	四四一	二七二
B. 一九二〇—二一年（二十行政單位調査）（註）	三三〇	三三二
BがAに對する差	一一一	六〇
	(−)	(+)

年度別	人口一萬人に對する年平均增加數又は減少數	
	增又は減	
A. 一九一一—一三年（五十箇縣調査）	一六九	
B. 一九二〇—二一年（二十行政單位調査）（註）	二	
BがAに對する差	一七一	
	(−) (−)	

帝政時代との比較に於けるソヴェート聯邦經濟事情

（註）モスクワ市、レニングラード市及十六箇縣州

次に一九二三年（五月十五日）に於けるソヴェート聯邦の總人口は左の如くである[1]。

共和國別	男	女	計
露西亞共和國（註）	四七、四四七、五九五	五三、三〇九、一七二	一〇〇、七五六、七六七
白露共和國	七四一、四七五	七八九、七九五	一、五三一、二七〇
ウクライナ共和國	二二、五〇四、三〇一	二三、五一九、六四四	四六、〇二三、九四五
後高架索共和國	二、八三三、二七	二、八一一、六二九	五、六三五、四五六
ウズベク共和國	四、九〇三、九七一	五、〇一七、五六九	九、九二一、四七〇
トルクメン共和國	九七一、九八九	一、〇一一、九四〇	一、九八一、九二九
合計	六三、五一七、一九八	七〇、四三〇、一四〇	一三三、九四七、三三八

（註）キルギズ自治共和國及トルケスタン自治共和國を含む。

斯の如く一九二三年に於けるソヴェート聯邦の人口は約一三三、九〇〇、〇〇〇人であつて、約十年前一九一四年（一三八、五〇〇、〇〇〇人）に比して四百六十萬即ち三・三パーセントを減じてゐる。而も歐洲戰爭前の自然增加率を一・六九パーセント（一九一一—一三年歐露五十箇縣の調査）にすれば、一九一四年乃至一九二三年の九箇年に現在の領域に於て二千百萬强の增加を見るべきであらうが、事實は上述の如き減少を示してゐる。從つて人口の減少は約二千六百萬人に見るべきであつて、この人口減少の原因は、（イ）歐洲戰爭及內亂の直接の被害、（ロ）避難民の國外脫出、（ハ）死亡率の增加、（ニ）歐洲戰爭、內亂及饑饉の當時に於ける出生率の減少に歸すべきである[1]。

一九二四年、一九二五年及一九二六年の各一月一日現在並に一九二六年十二月十七日現在人口は左の如くである[2]。（單位千人）

共和國別	一九二四年	一九二五年	一一月九二六日	十二月九十七日二六年（註）
露西亞共和國	九四、四一九	九六、四二二	九八、五七一	一〇〇、八五六
白露共和國	二七、二五〇	二七、八六六	二八、四八二	二九、〇二〇
ウクライナ共和國	四、六五二	四、七六六	四、八七五	四、九八四
後高架索共和國	五、四六二	五、五六九	五、七一〇	五、八五二
ウズベク共和國	四、九〇三	五、〇一七	五、一四七	五、二七〇
トルクメン共和國	九七一	一、〇一一	一、〇二一	一、〇三二
合計	一三七、六二一	一四〇、六一九	一四三、七九六	一四七、〇二四

1) Записки института изученія Россіи. I. 134 頁
2) Итоги десятилетія советской власти в цифрах. 1917-1927 гг. 32 頁

（註）一九二六年十二月十七日國勢調査に依つて得たる結果である。

各年四月一日現在を取り、一九一三年の人口を約一億四千萬と認め、一九二五―二六年度乃至一九二九―三〇年度の人口を一九一三年に比較するに左の如くである。[1]

	實數（單位百萬人）		一九一三年に對する百分比	
	總數	都市住民	總數	都市住民
一九一三年	一四〇・〇	二五・八	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一九二五―二六年度	一四四・五	二五・三	一〇三・二	九八・一
一九二六―二七年度	一四七・九	二六・七	一〇五・六	一〇三・四
一九二七―二八年度	一五一・三	二七・九	一〇八・七	一〇八・一
一九二八―二九年度	一五四・八	二九・三	一一〇・六	一一三・六
一九二九―三〇年度	一五八・五	三〇・七	一一三・二	一一九・〇

次に一九三〇年四月一日及一九三一年一月一日現在ソ聯の人口を加盟共和國別すれば、左の如くである。

	一九三〇年四月一日現在[2]	一九三一年一月一日現在[3]
ロシヤ社會主義聯邦ソウエート共和國	一〇八、九二八、二〇〇	一〇九、九三二、五〇〇
白露社會主義ソウエート共和國	五、三〇〇、六〇〇	五、二四六、四〇〇
ウクライナ社會主義ソウエート共和國	三一、一九〇、二〇〇	三一、四〇三、二〇〇
後高架索社會主義聯邦ソウエート共和國	六、三四四、八〇〇	六、四二六、七〇〇
トルクメン社會主義ソウエート共和國	一、〇九八、一〇〇	一、一三七、九〇〇
ウズベク社會主義ソウエート共和國	五、六五二、四〇〇	四、六八五、四〇〇
タジク社會主義ソウエート共和國	不詳	一、一七四、一〇〇
合計	一五八、五一四、三〇〇	一六一、〇〇六、二〇〇

民族の點に於てソウエート聯邦は頗る複雜してゐるが、いま一九二六年現在ソ聯の總人口に對する各種族の有する百分比を示すに、スラヴ人―七八・一、トュルク人―一一・六、高架索人―三・二、フィン人―二・二、セミチック人―一・九、獨逸・希臘・ロマン人―一・二、イラン人―一・〇、レット・リトワ人―〇・一である。[1]

左に掲げたる二十九種はその主なるものにして全人口の九七％を占めてゐる。

以上を綜合して過去二十數年の露國の人口增加率を擧げんに、一九〇數年乃至一九一三年の八年間に於ける增加率は一八・六パーセントにして、一九一三年以後に於ては歐洲戰爭及革命中に人口は激減し、その漸やく戰前の人口數に恢復せるは一九二五年にして、一九三一年に於ては一九一三年に對して一五・五パーセントを增加してゐる。

1) 2 год пятилетки (Народное хозяйство СССР в 1929-30 гг.) 3 頁
2) Календарь коммуниста на 1931 год. 381-382 頁
3) Известия. 13 апреля 1931 г.

1) Календарь коммуниста на 1930 год. 745 頁

第二章　農業

第一節　穀物

第一項　播種面積

農村經濟は其の使用面積及びそれに從事する人口より見て露國の産業中最も主なるものであつて、十九世紀末の露國の人口一億（男女合算）は農村經濟殊に農業に從事してゐた。當時歐露の五十箇縣に於ける耕地面積は一〇五、五二八、〇〇〇デシャチンであつて、同じく五十箇縣の播種總面積は六千五百萬デシャチン、その中四千七百萬デシャチン若しくは總面積の七二・五パーセントは農民に屬し、他の一千八百萬デシャチン即ち二七・五パーセントは地主に屬した。播種面積が全耕地面積に對する割合は六〇・六パーセントである。農作物の主なるものは穀物（秋蒔裸麥、小麥、燕麥、大麥、黍、蕎麥）であつて、その播種面積は總播種面積の九一・五パーセントを占めてゐる。就中裸麥播種地は播種面積の三七パーセント（二千四百萬デシャチン）を占め、小麥は總播種面積の一六・六パーセント即ち一千百萬デシャチン（春蒔を主とし八、一七四、〇〇〇デシャチン、秋蒔は二、五四七、〇〇〇デシャチンである）を示し、燕麥は總播種面積の二〇パーセント（一千三百萬デシャチン）即ち穀物中の第二位にあり、大麥は總播種面積の七・一パーセント（四百六十一萬二千デシャチン）、黍は黑土地帶に於てのみ栽培せられ、總播種面積の七乃至一二パーセントを示し、蕎麥は總播種面積の五・七パーセントを占めてゐる。スペルト小麥は東部諸縣（ウフィムス

自一九〇一年至一九一一年 穀物播種面積一覽表1)

(単位千デシャチ)

地帯	年次	大麦	燕麦	裸麦	小麦	裸麦	小麦	玉蜀黍	蕎麦	豌豆	大豆	馬鈴薯	亜麻
黒土帯	一九〇一―一五年	三、九四五・三	四、九四〇・三	一〇・一	二、四九五・九	一、四九五・九	三、九四五・三	四三・四	一、三五八・八	四三五・八	三三・九	一、三三・二	三五・四
	一九〇六―一〇年	四、三七一・三	四、九六二・一	九一・〇	二、四九五・九	一、四九五・九	三、九四五・三	四三・四	一、三五八・八	四三五・八	三三・九	一、三三・二	三五・四
	一九一一―一五年	四、六四〇・一	五、〇七八・七	一〇一・一	二、四九五・九	一、四九五・九	三、九四五・三	四三・四	一、三五八・八	四三五・八	三三・九	一、三三・二	三五・四
	一九一六年	四、八六六・四	五、三六六・四	一〇一・一	二、四九五・九	一、四九五・九	三、九四五・三	四三・四	一、三五八・八	四三五・八	三三・九	一、三三・二	三五・四
	一九一七年	四、三七一・三	四、九六二・一	九一・〇	二、四九五・九	一、四九五・九	三、九四五・三	四三・四	一、三五八・八	四三五・八	三三・九	一、三三・二	三五・四
非黒土帯	一九〇一―一五年	六、六三五・五	四、三五・三	六一・三	三、〇・三	五六・三	四、三五・三	〇・一	一、三五・〇	〇・一	一・一	〇・一	〇・一
	一九〇六―一〇年	六、五六八・八	五、三六・八	六一・三	三、〇・三	五六・三	四、三五・三	〇・一	一、三五・〇	〇・一	一・一	〇・一	〇・一
	一九一一―一五年	六、六七九・一	五、〇七・七	七〇・〇	三、〇・三	五六・三	四、三五・三	〇・一	一、三五・〇	〇・一	一・一	〇・一	〇・一
	一九一六年	六、六三・三	五、三六・一	六一・三	三、〇・三	五六・三	四、三五・三	〇・一	一、三五・〇	〇・一	一・一	〇・一	〇・一
	一九一七年	六、六三五・五	四、三五・三	六一・三	三、〇・三	五六・三	四、三五・三	〇・一	一、三五・〇	〇・一	一・一	〇・一	〇・一
亜露合計	一九〇一―一五年	一一、六四五・四	一一、三五・六	一六一・四	六、四四〇・一	一、九四〇・一	七、九四五・三	四三・四	一、三五八・八	四三五・八	三三・九	一、三三・二	三五・四
	一九〇六―一〇年	一一、二三八・六	一一、三六・一	一五一・三	六、四四〇・一	一、九四〇・一	七、九四五・三	四三・四	一、三五八・八	四三五・八	三三・九	一、三三・二	三五・四
	一九一一―一五年	一一、三一〇・八	一一、三五・六	一五一・三	六、四四〇・一	一、九四〇・一	七、九四五・三	四三・四	一、三五八・八	四三五・八	三三・九	一、三三・二	三五・四
	一九一六年	一一、五三五・九	一一、三六・一	一五一・三	六、四四〇・一	一、九四〇・一	七、九四五・三	四三・四	一、三五八・八	四三五・八	三三・九	一、三三・二	三五・四
	一九一七年	一一、三七一・三	一一、三六・一	一五一・三	六、四四〇・一	一、九四〇・一	七、九四五・三	四三・四	一、三五八・八	四三五・八	三三・九	一、三三・二	三五・四
計トソ欄外地域1	一九〇一―一五年	三、一四〇・一	二、一四〇・一	一・一	一、一四〇・一	一・一	一、一四〇・一	〇・一	一・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
	一九〇六―一〇年	三、一四〇・一	二、一四〇・一	一・一	一、一四〇・一	一・一	一、一四〇・一	〇・一	一・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
	一九一一―一五年	三、一四〇・一	二、一四〇・一	一・一	一、一四〇・一	一・一	一、一四〇・一	〇・一	一・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
	一九一六年	三、一四〇・一	二、一四〇・一	一・一	一、一四〇・一	一・一	一、一四〇・一	〇・一	一・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
	一九一七年	三、一四〇・一	二、一四〇・一	一・一	一、一四〇・一	一・一	一、一四〇・一	〇・一	一・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一

(註) 本表は後高粱粟(アルジャ及ダスタン)、トルケスタン及露領極東を含まず。

自一九〇一年
至一九二一年

穀物播種面積一覽表[1]

（單位千デシャチン）（註）

年次	裸秋麥蒔	小秋麥蒔	裸春麥蒔	小春麥蒔	燕麥	大麥	蕎麥	黍	玉蜀黍	豌豆	大扁豆及豆豆	馬鈴薯	亞麻	大麻	向日葵	合計
九〇一—五年	一四、九五四・三	二、四九五・九	九一・〇	一一、一〇四・九	七、六〇八・〇	四、九〇八・〇	一、四五八・八	二、三六九・八	四二一・四	四五七・八	三三三・九	一、三四九・二	三四三・四	五三七・五	—	四八、四一四・七
九〇六—一〇年	一四、七二二・七	二、四九六・五	八〇・六	一二、二〇二・三	七、六九一・一	五、六二一・三	一、三六九・四	二、四五三・八	四二一・四	四二六・一	三三一・九	一、四〇六・一	二二二・八	四八一・〇	—	四九、九〇八・〇
九一一—五年	一四、八二四・一	二、八〇七・七	八〇・三	一二、八四〇・七	七、七三二・三	六、四〇九・一	一、三三五・八	二、一五七・八	五一〇・〇	四八四・五	三六九・一	一、五四六・七	二二八・八	四一九・〇	五三四・五	五二、二七〇・四
九一三年	一四、八五六・八	二、七六六・五	七五・五	一三、〇二四・〇	七、七七二・二	六、五三〇・九	一、四〇四・六	二、二〇八・三	五一五・一	五二六・九	三六三・八	一、六〇七・七	二二四・六	四一八・五	五二六・三	五二、八二一・七
九一六年	一四、〇五二・三	三、七七四・八	一九八・五	九、〇〇〇・三	七、四七八・七	六、〇一二・八	一、四七三・七	二、〇七八・五	五九三・五	二六四・〇	二六二・九	一、三三八・〇	二二五・八	三七一・四	六四二・九	四七、七五八・一
九一七年	一四、五一四・六	三、九三〇・九	二二四・四	八、二三六・九	七、六三三・五	五、八四六・一	一、四六七・三	二、二六一・八	五五四・三	二一〇・六	二八九・七	一、二四〇・八	二〇二・〇	三六一・六	七一七・五	四七、五九二・〇
九二〇年	一一、四六七・八	二、三六七・七	五七・九	六、二一八・三	四、四六八・九	四、〇三八・三	一、四四八・〇	三、〇一六・四	五六二・八	一五九・六	一六四・八	八八二・九	一七〇・八	一六一・四	五三〇・九	三五、七一六・五
九二一年	一〇、七九六・二	二、三二二・二	五四・一	四、四四九・四	三、九九一・五	三、九七〇・六	一、二八九・五	二、七八八・八	五六三・一	一三三・一	一四四・〇	八三一・七	一七三・六	一六七・七	五五八・八	三三、二二四・四
九〇一—五年	六、六九三・五	三〇・三	八六・二	五九六・六	四、六三七・三	一、〇五四・四	三八三・七	二九・〇	〇・二	一九六・九	三一・九	七九四・五	七四四・八	一一一・二	—	一五、三九〇・五
九〇六—一〇年	六、五五八・八	二六・八	七八・二	六七〇・五	四、六四三・九	一、〇一六・一	三四六・四	二二・二	〇・一	一四九・四	二五・四	八四三・一	七五一・一	九九・〇	—	一五、二三一・〇
九一一—五年	六、七九五・一	二九・六	八〇・七	七四四・五	四、五九二・九	一、〇五七・四	二九三・一	二〇・三	〇・一	一五七・二	二四・一	九三二・〇	七九二・三	八七・八	—	一五、六〇七・一
九一三年	六、八七五・四	三三・八	八六・九	七三六・一	四、五七九・二	一、〇八六・五	三〇〇・五	二二・三	〇・一	一六二・七	二三・二	九四四・九	八三二・五	八八・〇	—	一五、七七一・一
九一六年	五、六五三・四	三一・六	六五・五	七四九・四	四、二七七・四	一、一三九・四	三一〇・〇	三九・四	—	一三九・〇	二五・七	八一八・五	九八二・七	八二・九	—	一四、三一四・九
九一七年	五、四三四・三	四五・九	五六・七	六五三・四	四、一五四・七	一、〇二八・〇	二九一・三	二六・三	—	九七・四	二〇・九	七六〇・〇	八六九・九	六八・四	—	一三、五〇七・二
九二〇年	四、四二七・八	二四・八	四〇・四	五六九・五	二、八五六・四	六二七・一	二〇一・四	七一・三	—	七三・四	六・六	四四一・九	三九九・九	一五・一	—	九、七五五・七
九二一年	四、三三六・二	二八・三	四七・〇	四九三・一	二、七四〇・三	六六六・二	一八三・五	八四・四	—	七五・二	八・一	四六五・九	三八〇・二	二〇・六	—	九、五二九・〇
九〇一—五年	二一、六四七・八	二、五二五・九	一七七・二	一一、七〇一・五	一二、二四五・〇	五、九六二・四	一、八四二・五	二、三九八・九	四二一・六	六五四・七	三六五・八	二、一四三・七	一、〇八八・二	六三八・七	—	六三、八〇五・二
九〇六—一〇年	二一、二七一・五	二、五二三・三	一五八・八	一二、八七二・八	一二、三三五・〇	六、六三七・四	一、七一五・八	二、四七六・〇	四二二・五	五七五・五	三五七・三	二、二四九・二	九六三・九	五八〇・〇	—	六五、一三九・〇
九一一—五年	二一、六一九・二	二、八三七・三	一六一・〇	一三、五八五・二	一二、三三五・二	七、四六六・五	一、六一八・九	二、一七八・一	五一〇・一	六四一・七	三九三・二	二、四七八・七	一、〇二一・一	五〇六・八	五三四・五	六七、八七七・五
九一三年	二一、七三二・二	二、七九九・三	一六二・四	一三、七六〇・一	一二、三五一・四	七、六一七・四	一、七〇五・一	二、二三〇・六	五一五・二	六八九・六	三八七・〇	二、五五二・六	一、〇五七・一	五〇六・五	五二六・三	六八、五九二・八
九一六年	一九、七〇五・七	三、八〇六・四	二六四・〇	九、七四九・七	一一、七五六・一	七、一五二・二	一、七八三・七	二、一一七・九	五九三・五	四〇三・〇	二八八・六	二、一五六・五	一、一九八・五	四五四・三	六四二・九	六二、〇七三・〇
九一七年	一九、九四八・九	三、九七六・八	一八一・一	八、八九〇・三	一一、七八八・二	六、八七四・一	一、七五八・六	二、二八八・一	五五四・三	三〇八・〇	三一〇・六	二、〇〇〇・八	一、〇七一・九	四三〇・〇	七一七・五	六一、〇九九・二
九二〇年	一五、八九五・六	二、三九二・五	九八・三	六、七八七・九	七、三三五・三	四、六六五・四	一、六四九・四	三、〇八七・七	五六二・八	二三三・〇	一七一・四	一、三二四・八	五七〇・七	一七六・五	五三〇・九	四五、四七二・二
九二一年	一五、一三二・八	二、三四〇・五	一〇一・一	四、九四一・〇	六、七三一・八	四、六三六・八	一、四七三・〇	二、八七三・一	五六三・一	二〇八・三	一五二・一	一、二九六・九	五五三・八	一八八・五	五五八・八	四一、七五三・四
九〇一—五年	八六一・一	一、八五五・一	三九四・九	三、七二〇・九	一、七二〇・七	九七四・三	七〇・〇	六六五・六	二〇九・七	三五・一	三・七	一七七・七	一八〇・三	八二・二	—	一〇、九五一・八
九〇六—一〇年	八三七・二	二、一一六・六	三七四・〇	四、七六〇・八	二、三六九・二	一、三二八・〇	五六・八	七三五・七	二五四・〇	三三・一	三・九	一七七・八	一二四・四	七七・七	—	一三、二五〇・六
九一一—五年	一、〇二九・三	二、四二五・五	三四六・七	六、八八二・一	二、八七一・七	一、八八九・三	四三・四	七四六・三	三〇二・六	三三・九	二・九	二四三・一	一七六・八	七一・二	二九一・六	一七、三五六・四
九一三年	一、一六九・八	二、五四二・三	三九七・三	七、〇二一・五	二、七八五・一	一、九四七・六	四五・六	七七七・五	三二二・〇	三一・八	三・〇	二四四・九	一九二・七	七七・六	二九〇・五	一七、八三九・二
九一六年	七七八・八	二、〇一六・八	三一二・五	七、四三〇・四	三、〇五四・二	一、七二二・四	三九・四	六六八・八	三〇一・九	三二・九	一・一	一六六・九	一三二・八	六三・七	三七一・六	一七、〇九四・二
九一七年	七三四・三	二、〇二九・二	三二六・三	七、八八七・七	三、三八三・三	一、七五四・三	四八・三	六八一・四	三〇二・一	三〇・七	一・一	一七八・二	一三九・三	七六・五	三八〇・九	一七、九五三・六
九二〇年	五四三・五	一、四九七・七	三二〇・八	六、八九一・〇	三、一八二・九	一、二五五・八	四五・五	四四四・六	三二八・一	一七・三	〇・六	一二九・〇	一一七・三	六〇・八	二〇六・〇	一五、〇四〇・三
九二一年	五三七・〇	一、四五〇・七	二七二・九	五、〇五一・八	二、〇一八・一	八八九・二	五六・〇	三八五・七	三三九・七	一九・七	一・七	一一〇・六	一〇三・五	五七・四	一七〇・四	一一、四六四・四
九〇一—五年	二二、五〇八・九	四、三八一・二	五七二・一	一五、四二二・四	一三、九六六・〇	六、九三六・七	一、九二二・五	三、〇六四・五	六二二・三	六八九・八	三六九・五	二、三二一・四	一、二六九・〇	六二〇・九	—	七四、七五七・〇
九〇六—一〇年	二二、一〇八・七	四、六三九・九	五三三・七	一七、六三三・六	一四、七〇四・二	七、九六五・四	一、七七二・六	三、二一一・七	六七六・五	六〇八・六	三六一・二	二、四二七・〇	一、〇八八・三	六五七・七	—	七八、三八九・一
九一一—五年	二二、六四八・五	五、二六二・八	五〇七・七	二〇、四六七・三	一五、一九六・九	九、三五五・八	一、六六二・三	二、九二四・四	八二一・七	六七五・六	三九六・一	二、七二一・八	一、一九七・九	五七八・〇	八二六・一	八五、二三三・九
九一三年	二二、九〇二・〇	五、三四一・六	五五九・七	二〇、七八一・六	一五、一三六・五	九、五六五・〇	一、七五〇・七	三、〇〇八・一	八二七・二	七二一・四	三九〇・〇	二、七九七・五	一、二四九・八	五八四・一	八一六・八	八六、四三二・〇
九一六年	二〇、四八四・五	五、八二三・二	五七六・五	一七、一八〇・一	一四、八一〇・三	八、八七四・六	一、八二三・一	二、七八六・七	八九五・四	四三五・九	二八九・七	二、三二三・四	一、三三一・三	五一八・〇	一、〇一四・五	七九、一六七・二
九一七年	二〇、六八三・二	六、〇〇六・〇	五〇七・四	一六、七七八・〇	一五、一七一・五	八、六二八・四	一、八〇六・九	二、九六九・五	八五六・四	三三八・七	三一一・七	二、一七九・〇	二一一・二	五〇六・五	一、〇九八・四	七九、〇五二・八
九二〇年	一六、四三九・一	三、八九一・六	四一九・一	一三、四九一・八	一〇、五〇八・二	五、九二一・三	一、六九四・九	三、五三二・三	八九〇・九	二五〇・三	一七二・三	一、四五三・八	六八八・〇	二三七・三	七三六・九	六〇、五二五・〇
九二一年	一五、六六九・四	三、七九一・二	三七四・〇	九、九九四・三	八、七四九・九	五、五二六・〇	一、五二九・〇	三、二五八・九	九〇二・八	二二八・〇	一五三・八	一、四〇七・五	六五七・三	二四六・五	七二九・二	五三、二二七・八

1)Сельское хозяйство России в XX веке. 102—7頁

は後高架索（ダルジヤ及ダゲスタン）、トルケスタン及露領極東を含まず。

カヤ、カザンスカヤ、シムビルスカヤ及サマルスカヤの諸縣にのみ栽培せられ、その總播種面積の四・一パーセントを占め、玉蜀黍は殆ごべスサラブスカヤ縣にのみ屬し、同縣の播種面積の二四・六パーセントを示してゐる。[1]

十二頁折込表[2]は一九〇一年よりして一九一三年を過ぎ、歐洲戰爭より革命に次ぐ戰時共產主義時代を一括して、その農業の大勢を示せるものであつて、ソウェート側の編纂に係るこはいへ相當貴重なる數字たるを失はない。殊にソウェート聯邦總計の欄に於て主要穀物播種面積の減少の顯著なるに對し、第二義的作物播種面積の增加せるは注目すべき點である。尙穀物及工業用農作物を通じての總播種面積を示すの便を慮り、亞麻、大麻及日向葵は後節と重複するの嫌ひはあるが、特に之れを併載するこゝ、した。

左記の表は上記の折込表の數字を基礎として作物別播種面積の百分比をこつたものである。[3]（註）

年次	秋蒔裸麥	秋蒔小麥	春蒔裸麥	春蒔小麥	燕麥	大麥	蕎麥	黍	玉蜀黍	豌豆	扁豆及大豆	馬鈴薯	亞麻	大麻	向日葵
一九〇一—一五年	三〇・一	五・九	〇・八	二〇・六	一八・六	九・三	二・六	四・一	〇・八	〇・九	〇・五	二・一	一・七	一・〇	—
一九〇六—一〇年	二八・三	五・九	〇・七	二二・四	一八・七	一〇・二	二・三	四・二	〇・九	〇・八	〇・五	二・一	一・四	〇・八	—
一九一一—一五年	二六・六	六・三	〇・七	二三・九	一七・六	一一・〇	二・〇	三・四	一・〇	〇・八	〇・五	二・二	一・四	〇・七	〇・九
一九一三年	二六・六	六・二	〇・六	二四・〇	一七・五	一一・一	二・〇	三・五	一・〇	〇・八	〇・五	二・二	一・四	〇・七	〇・九
一九一六年	二五・九	七・四	〇・七	二一・七	一八・七	一一・三	二・三	三・五	一・一	〇・六	〇・四	二・九	一・七	〇・七	一・二
一九一七年	二六・二	七・六	〇・六	二一・二	一九・二	一〇・九	二・三	三・八	一・二	〇・四	〇・四	二・八	一・五	〇・六	一・四

1) Большая энциклопедія. № 16. 465-6 頁
2) Сельское хозяйство России в XX веке. 102-7 頁
3) Сельское хозяйство России в XX веке. 116 頁

一九二〇年	二七・二	六・四	〇・七	三・六	一七・四	九・八	二・八	五・八	一・五	〇・四	〇・三	二・四	一・二	〇・四	一・二
一九二一年	二九・五	七・一	〇・七	一八・八	一六・四	一〇・四	二・九	六・一	一・七	〇・四	〇・三	二・六	一・二	〇・五	一・四

(註) 本表は後高架索（グルジヤ及ダゲスタン）、トルケスタン及露領極東を含まず。

左表は一九一三年を一〇〇として前掲諸年の播種面積の百分比例をこつたものである[1]（註）

年次	秋蒔裸麥	秋蒔小麥	春蒔裸麥	春蒔小麥	燕麥	大麥	蕎麥	黍
一九〇一—五年	九八・三	八二・〇	一〇二・二	七四・九	九二・三	七二・五	一〇九・三	一〇一・九
一九〇六—一〇年	八六・五	八六・九	九五・四	八四・八	九七・一	八三・二	一〇一・二	一〇六・八
一九一一—一五年	九八・八	九八・三	九〇・七	九八・五	九九・八	九七・七	九四・九	九七・二
一九一三年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一九一六年	八九・四	一〇九・〇	一〇三・〇	八二・七	九七・九	九二・五	一〇四・二	九二・六
一九一七年	九〇・三	一一二・四	九〇・七	八〇・七	八〇・二	九〇・二	一〇三・二	九八・七
一九二〇年	七一・八	七二・八	七四・八	六五・八	六九・四	六一・九	九六・八	一一七・四
一九二一年	六八・四	七〇・九	六六・八	四八・一	五七・八	五七・八	八七・四	一〇八・一

年次	玉蜀黍	豌豆	扁豆及大豆	馬鈴薯	亞麻	大麻	向日葵	合計
一九〇一—五年	七五・二	九五・六	九四・七	八三・〇	一〇一・五	一二三・四	—	八六・五
一九〇六—一〇年	八一・八	八四・三	九二・六	八六・八	八七・一	一一二・六	—	九〇・七

1) Сельское хозяйство России в XX веке. 112-3 頁

一九一一—一五年	九八・二	九三・六	一〇一・六	九七・三	九五・八	一〇〇・二	一〇一・一	九八・六
一九一三年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一九一六年	一〇八・二	六〇・四	七四・三	八三・一	一〇六・五	九七・六	一二四・二	九一・六
一九一七年	一〇三・五	四六・九	七九・九	七七・九	九六・九	八六・七	一三四・五	九一・五
一九二〇年	一〇七・七	三四・七	四四・二	五二・〇	五五・一	四〇・六	九〇・二	七〇・〇
一九二一年	一〇九・一	三一・六	三九・四	五〇・三	五二・六	四二・二	八九・三	六一・六

(註) 本表は後高架索（グルジヤ及ダゲスタン）、トルケスタン及露領極東を含まず。

一九〇一年、一九一二年、一九一六年及一九一七年の飼料播種面積を左に掲げる[1]。（單位千デシャチン）（註）

	一九〇一年	一九一二年	一九一六年	一九一七年
黑土帶	二五二・二	四二五・四	八八三・八	七七九・三
非黑土帶	二六六・三	四九一・七	七〇九・二	七九〇・五
歐露通計	五一八・五	九一七・一	一、五九三・〇	一、五六九・八
亞露	—	—	一一二・〇	一〇六・九
ソウェート聯邦通計	—	—	一、七〇五・〇	一、六七六・七

(註) 本表は後高架索（グルジヤ及ダゲスタン）、トルケスタン及露領極東を含まず。

一九一三年及び一九二〇—二五年の穀物播種面積は左の如くである[2]。（單位百萬デシャチン）

1) Сельское хозяйство России в XX веке. 198-201 頁

2) 滿鐵調査課出版露亞經濟調査叢書ソウェート聯邦の輸出入貿易 103頁

蕎麥	二、〇〇〇	二、七四〇	二、八二一	二、八四〇
スペルト小麥	二〇〇	七一	一三四	一九一
米	二〇〇	(一九六)	(二四二)	(二五六)
食糧品合計	**六三、二〇〇**	**五三、六五八**	**五六、六八七**	**六〇、六九一**
燕麥	一七、〇〇〇	一一、二四八	一二、五二〇	一二、二三九
大麥	一一、三〇〇	七、三六三	七、三三八	六、二五〇
玉蜀黍	一、三〇〇	二、三七八	二、二六〇	三、二六八
豆類	一、二〇〇	一、二九一	一、四六二	一、四四五
飼料合計	**三〇、八〇〇**	**二二、二八〇**	**二三、五八〇**	**二三、二〇二**
穀物總計	**九四、〇〇〇**	**七五、九三八**	**八〇、二六七**	**八三、八九三**
馬鈴薯	三、六〇〇	三、九〇〇	四、二〇〇	四、五二〇
向日葵	一、二八二	一、八〇六	二、一一〇	二、五四一
亜麻	一、七〇〇	(一、〇〇四)	(一、二四〇)	(一、五五〇)
大麻	六六〇	五四〇	六五七	七九〇
其他油性植物	一〇〇	一一四	(一一七)	一三一
牧草	一、七七〇	八五七	一、一一九	一、三〇五
甜菜	五六九	二四〇	三四五	四七〇

第二章 農業

一七

帝政時代との比較に於けるソウエート聯邦經濟事情

一六

一九一三年	八七	一九二三年	六九
一九二〇年	七四	一九二四年	七七
一九二一年	六六	一九二五年	八三
一九二二年	五八		

他の最も信憑すべき資料によるに、一九一三年乃至一九二五年の播種面積は左の如くである。[1]

(單位百萬デシャチン)

年次	實數	百分比	年次	實數	百分比
一九一三年	八七・一	一〇〇	一九二一年	五八・三	六六・九
一九一六年	七九・〇	九〇・七	一九二二年	四九・三	五六・六
一九一七年	七九・四	九一・二	一九二三年	六一・七	七〇・八
一九一八年	—	—	一九二四年	六七・六	七七・六
一九一九年	五六・六	六八・四	一九二五年	七二・四	八一・三
一九二〇年	六三・〇	七二・三			

一九二三年、一九二四年及一九二五年の農作物別總播種面積を一九一三年に比較するに左の如くである。[2]

(單位千デシャチン)

作物別	一九一三年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
裸麥	二六、〇〇〇	二七、五二〇	二八、四六八	二八、七二六
小麥	三一、三〇〇	一六、七八九	一九、九一六	二二、六八三
黍	三、五〇〇	六、三四二	五、一〇六	五、九九五

1) Русский экономический сборник. № 3. 60 頁

2) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1926-1927 год. 337 頁

棉花	五二七	一九五	四六一	五九八
煙草及マホルカ	六〇	四四	四九	六九
果樹園及菜園	一、八〇〇	一、四九三	一、七八六	二、〇〇五
其他	六四〇	六八九	六三一	六九一
總計	**一〇六、七〇八**	**八六、八二〇**	**九二、九八〇**	**九八、五六三**

（註）表中一九一三年に關する數字は中央統計委員會の資料を用ひ、その他に關しては中央統計局の資料を使用した。

一九二五年乃至一九二七—八年度穀物播種面積並に總播種面積は左の如くである。[1]（單位千デシャチン）

	一九一三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
裸麥	二六、一九八	二六、六七八	二六、四四三	二六、三三七
小麥	三二、四三七	二二、六八六	二六、九〇〇	二八、七五三
燕麥	一七、四三九	一一、九二三	一四、二三三	一六、二五五
大麥	一一、四九一	五、九六四	六、九一二	六、六三八
蕎麥	一、九九六	二、六七八	二、六五二	二、五八五
黍	三、五二九	五、七九九	四、九二九	三、九六三
玉蜀黍	一、三二六	三、一四六	二、七二八	二、七一〇
其他穀物	一、七六九	二、一二六	二、四〇七	二、二一八
穀物播種面積計	**九六、二三一**	**八一、〇〇〇**	**八七、二〇四**	**八九、四六一**
工藝用農作物	四、九一一	六、五八八	六、一〇七	六、六六四
馬鈴薯	三、六〇〇	四、六三二	四、八二二	五、〇二九

1) Календарь коммуниста на 1929 г. 284 頁

また上記年間に關し『一九二八—二九年度國民經濟統制數字』に依れば左の如くである。[1]（單位千ヘクター）

	一九一三年	一九二五—二六年度	一九二六—二七年度	一九二七—二八年度
裸麥	—	二九、三五三	二八、八五六	二八、五五〇
小麥	—	二五、四二四	二九、七一九	三一、九一四
大麥	—	六、三四三	七、二八九	六、九六一
燕麥	—	一三、三二八	一六、三四六	一八、一六八
蕎麥	—	二、八八六	二、八九二	二、七六一
黍	—	六、三七八	五、一三四	三、九七六
玉蜀黍	—	三、三〇五	二、八九二	二、七三一
其他穀物	—	二、〇六八	二、二九〇	二、一四八
穀物計（百分比）	**一〇二、七〇〇**（一〇〇）	**八九、〇八五**（八六・七）	**九五、四一八**（九二・九）	**九七、二〇九**（九四・七）
工藝用農作物	五、四七五	七、一五二	六、七五九	七、一八五
馬鈴薯	—	五、〇八四	五、二六七	五、五二四
其他	—	四、六九四	四、九〇八	五、一九三
合計（百分比）	**一一六、七〇〇**（一〇〇）	**一〇六、〇一五**（九〇・八）	**一一二、三五二**（九六・三）	**一一五、一一一**（九八・六）

1) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928-1929 г. 408. 474 頁

エス・ゲ・ストルミーリン氏の監修に係る共產主義アカデミイ出版『五年計畫の第二年』に依ると、一九一三年及び一九二五年乃至一九三〇年の穀物播種面積及總播種面積は左の如くである。[1]

（單位百萬ヘクター）

	一九一三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年（註）
穀物播種面積	一〇〇・二	八九・一	九五・四	九七・一	九四・九	九八・二	一〇五・五
內—裸麥及小麥	—	五四・七	五八・七	六〇・三	五五・一	五六・七	—
總播種面積	一一四・二	一〇六・三	一一二・三	一一五・〇	一一五・七	一二〇・四	一三〇・四

（註）一九三〇年に關する數字は統制數字である。

尙國家計畫院機關誌『計畫經濟』に依ると、一九二八、二九、三〇各年の播種面積は左の如くである。[2]

（單位千ヘクター）

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年（註）
穀類	九二、一七三	九六、〇一二	一〇二、〇四一	一〇八、六五〇
工藝作物	八、六二〇	八、八四〇	一〇、六六八	一三、四九六
蔬菜類	七九七	八三四	一、一四六	一、八〇〇
飼料作物	三、八七一	四、九八三	六、六〇九	八、六八〇
總播種面積	一一二、九六〇	一一八、〇三四	一二七、七六七	一四〇、四一五

1) 2 год пятилетки. ст 17. Коммунистическая Академия.

2) Жур. Плановое хозяйство. 1930. № 12. 149頁

（註）一九三一年に關する數字は統制數字である。

即ち本資料に依りて見れば、一九二八年より以前の播種面積に關してはその限りでないが、それ以後に於ては前掲『五年計畫の第二年』に示されたる所よりも若干少く算定せられてゐる。

これを要するに、一九〇一—五年平均乃至一九一三年の期間に於て穀物播種面積は一五・一パーセント增加せるに對し、一九一三年乃至一九二九年に於けるそれは二パーセントの減少を示し、一九三〇年に及んで略々戰前の域に達してゐる。而して總播種面積に於ては一九〇三—一三年に於て一一五・六パーセントに增加し、一九二九年は戰前に對する一〇三・四パーセント弱、一九三〇年は一一一・九パーセント弱を示してゐる。

第二項　收量

一九〇一年乃至一九〇五年の五箇年平均及一九〇六年の露國（芬蘭を除く）の穀類產額は左の如くである。[1]（單位千布度）

品種	歐露 五年平均	歐露 一九〇六年	波蘭 五年平均	波蘭 一九〇六年	北高架索及黑海地方 五年平均	北高架索及黑海地方 一九〇六年
小麥	七三四、三九六・〇	五七二、八一五・六	三一、七二四・四	三五、一四三・〇	一三二、九八〇・五	一四一、四八一・三
裸麥	一、一八三、七八九・一	八六一、七二〇・二	一〇五、七〇五・四	一一四、九〇七・三	一三、〇九四・一	一三、七八五・八
燕麥	六六六、二七二・六	四八二、八七三・二	五〇、四〇〇・〇	五八、八六〇・〇	一四、八五二・一	一九、四六五・五

1) 博文館發行世界年鑑明治四十三年版 600 頁

一九〇一年乃至一九〇六年の五主要穀物（裸麥、小麥、大麥、燕麥及玉蜀黍？）の收量並に其人口一人當收量は左の如くである[1]。

品種	西比利		ステップ地方		合計	
	五年平均	一九〇六年	五年平均	一九〇六年	五年平均	一九〇六年
裸麥	三、四三五、〇	三、〇四四、七	一、一〇〇、一	一、〇九一、五	四、五三五、一	四、一三五、二
小麥	三、四三一、三	四、〇三五、一	一、一四七、六	八四九、三	四、五七九、九	四、八八四、四
燕麥	四、一四九、三	六、一九五、一	一、三〇一、三	一、三九一、八	五、四五一、六	七、五八七、九
他麥	三、六九六、三	五、一六六、八	九三五、一	一、一四一、四	四、六三二、四	六、三〇八、二
計	一四、六四〇、九	一八、四一八、五	四、四八四、一	五、一六四、四	一九、一二五、一	二三、五八三、三
馬鈴薯	一、三四六、四	一、六八一、五	一、六四八、八	一、八六四、四	三、〇一五、二	三、五四五、九
乾草	四、三七〇、七	一〇、四五六、九	一、一四四、一	一、四三八、〇	五、五一四、八	一一、八九五、九

一九〇九年の露國（芬蘭を除く）の穀類產額は左の如くである[1]。（單位千布度）

穀類	數量（單位百萬布度）	一人當（單位布度）
年次		
一九〇四年	四、一六九、〇	一八・九
一九〇五年	三、五四三、一	一四・二
一九〇六年	三、〇三五、四	一二・四

一九〇一年乃至一九〇六年の五主要穀物（裸麥、小麥、大麥、燕麥及玉蜀黍？）の收量並に其人口一人當收量は左の如くである[1]。

品種	歐露		波蘭		黑北海高架地索方及		西比利		ステップ地方		合計	
	五年平均	一九〇六年	五年平均	一九〇六年	五年平均	一九〇六年	五年平均	一九〇六年	五年平均	一九〇六年	五年平均	一九〇六年
裸麥	二、一三九、四七〇	二、一三九、四七〇	一三〇、四五九、五	一三〇、四五九、五	一、三〇五、五五一	一、三〇五、五五一	四五七、一四四、八	四五七、一四四、八	四、一〇三、五	四、一〇三、五	一、三〇一、三五九、一	一、三〇一、三五九、一
小麥	九四、九三五、九	九四、九三五、九	一三、四三一、四	一三、四三一、四	一一、四四一、四	一一、四四一、四	二六、一四九、〇	二六、一四九、〇	四四、九三、五	四四、九三、五	一、三〇六、六六、七	一、三〇六、六六、七
燕麥	八四、一〇六、八	八四、一〇六、八	九、三五〇、〇	九、三五〇、〇	二、三四六、四	二、三四六、四	三五、九六七、七	三五、九六七、七	三、八四二、三	三、八四二、三	一、〇四四、二一八、八	一、〇四四、二一八、八
他麥	三四、九五七、七	三四、九五七、七	三、四四九、三	三、四四九、三	三、三四八、四	三、三四八、四	六、一四二、一	六、一四二、一	三、四三、八	三、四三、八	五六、九三二、〇	五六、九三二、〇
計	二九、三四九、六九〇	二九、三四九、六九〇	一三、九四八、四	一三、九四八、四	一一、四四一、四	一一、四四一、四	四五、七四九、九	四五、七四九、九	四、一〇三、五	四、一〇三、五	一、三〇一、三五九、一	一、三〇一、三五九、一
馬鈴薯	一、三一九、四七〇	一、三一九、四七〇	一三〇、四五九、五	一三〇、四五九、五	一、三〇五、五五一	一、三〇五、五五一	四五七、一四四、八	四五七、一四四、八	四、一〇三、五	四、一〇三、五	一、三〇一、三五九、一	一、三〇一、三五九、一
乾草	二、一三九、四七〇	二、一三九、四七〇	一三〇、四五九、五	一三〇、四五九、五	一、三〇五、五五一	一、三〇五、五五一	四五七、一四四、八	四五七、一四四、八	四、一〇三、五	四、一〇三、五	一、三〇一、三五九、一	一、三〇一、三五九、一

一九〇八年—一九一二年の五箇年間の粒穀收穫高は平均四、五五五、〇〇〇、〇〇〇布度であつて、一九一三年のそれは五、六三七、〇〇〇、〇〇〇布度である。中央統計委員會及トルゴウヤ・プロムイシレンナヤ紙

1) Большая энциклопедія. № 22. Россія.

1) 博文館發行世界年鑑大正二年版 567 頁

の資料に依れば一九一二年及一九一三年の穀物收穫高は左の如くである。[1]（單位百萬布度）

品種	中央統計委員會		トルゴウィ・プロムイシレンナヤ紙	
	一九一二年	一九一三年	一九一二年	一九一三年
秋蒔裸麥	一、五九九・九	一、五二八・〇	一、四五六	一、三一二・九
秋蒔小麥	四〇六・一	四九二・九	三五九	三六二・九
春蒔小麥	八〇一・八	一、一〇〇・二	七五八	七九四・九
大麥	六一六・九	七五〇・四	五五八	六一〇・六
燕麥	九四七・〇	一、〇八七・〇	八七二	九三九・七

二四頁折込表[2]は一九〇一年より一九二一年に至る全期間を一括して穀物及工藝用農作物の收穫高を示せるものである。本表は後高架索、トルケスタン及露領極東を含まないが、然しソ聯農業の全豹を察する上に於て貴重なる資料である。

左の資料は前掲資料とその出所を等しくし、主なる農作物の一デシャチン當收穫高を示せるものであつて、表中後高架索（グルジヤ及ダゲスタン）、トルケスタン及露領極東を含まない。[3]（單位布度）

地帶	年次	秋蒔裸麥	秋蒔小麥	春蒔小麥	燕麥	大麥	蕎麥	黍	馬鈴薯
一九〇一―五年		五五		四四		五〇			
一九〇六―一〇年		四六	（六三）	四一	（五四）	五〇	四八	二九	四四	三八〇
							三三	四七	四〇六

1) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. VII 頁
2) Сельское хозяйство России в XX веке. 192-7 頁
3) Сельское хозяйство России в XX веке. 156-8 頁

（單位千布度）（註一）

地帶	年次	玉蜀黍	豌豆	扁豆及大豆	穀物計	馬鈴薯
一九〇一―五年						
一九〇六―一〇年						

自一九〇一年
至一九二一年

農産收穫量一覧表(1)

地帶	年次	秋蒔裸麥	秋蒔小麥	春蒔小麥	春蒔小麥	燕麥	大麥	スペルト小麥	蕎麥	黍	玉蜀黍	豌豆	扁豆及
黒土帶	一九〇一—五年	七五九、四四一・三	一七〇、三八七・五	二、九三七・八	四二四、四八七・三	三六八、八二四・四	二四四、〇二三・四	一三、八一二・六	四一、二八七・二	九四、〇五六・六	二二、〇四〇・六	一八、四五六・五	一二、五
	一九〇六—一〇年	六八三、二六六・八	一四八、八三一・六	二、四二一・六	四五一、四八九・七	三八一、五八一・一	二九八・八〇二・二	一〇、〇七七・一	四五、八〇二・九	一〇六、七二六・三	二九、五四七・六	一九、八三一・三	一五、一
	一九一一—五年	八〇四、二二九・三	二〇〇、七〇九・四	三、二八三・八	四八六、四三三・四	四一七、〇三八・〇	三四〇、一三八・二	六、四三二・七	四九、五四四・三	一〇二、〇六八・九	三九、八七〇・二	二四、二四一・六	一五、〇
	一九一三年	八六九、五二六・二	二二八、一七四・一	三、八八二・六	六六五、〇七八・一	五〇五、六七七・〇	四二二、六〇一・五	八、七五二・八	五二、三八八・四	一二二、〇三四・六	三八、九五二・九	二九、六九九・六	一七、六
	一九一六年	九四〇、五六八・二	二九五、〇九〇・七	七、九二九・五	三三五、四七八・一	四四八、二八九・四	三六一、一九九・四	—	七三、八九二・六	一〇七、〇〇九・四	三五、九〇九・九	一四、一〇六・六	一一、七
	一九二〇年(註二)	二〇三、三六八・九	三、五七〇・一	三四五・一	五三、六四二・四	九五、一六六・〇	四、〇四六・三	—	一五、九一二・二	六〇、五六八・三	—	—	
	一九二一年	三二八、六八〇・〇	六九、六〇七・〇	一〇八・〇	七二、九四〇・〇	一二一、五一〇・〇	八一、一一三・〇	—	三六、九七五・〇	八七、五一三・〇	四六九	—	
非黒土帶	一九〇一—五年	二九四、七九六・二	一、五五八・三	三、三七九・三	三一、六〇〇・二	二二〇、二六八・五	四八、七二八・六	一、三五三・一	九、九三三・七	一、〇四九・九	五・一	六、三一九・三	一、一
	一九〇六—一〇年	二六三、七九八・七	一、三三七・八	三、〇九二・八	三六、二七四・二	二一五、七四二・一	四九、二九五・三	九六九・九	九、〇九七・七	八七五・五	三・三	五、九五一・九	一、〇
	一九一一—五年	三四二、五七九・五	一、七六九・八	三、二一九・九	三七、八七一・七	二一八、八八四・二	五一、四七九・〇	六四六・九	八、七四三・九	一、〇四三・七	六・四	五、九六九・一	一、〇
	一九一三年	三三六、一九〇・〇	二、〇一八・〇	四、二一三・七	五〇、七七九・三	二六六、五八三・一	六三、三〇五・四	八七四・三	八、六五一・八	一、一一九・一	六・五	七、二六一・〇	一、一
	一九一六年	三一八、九九二・一	一、七三九・〇	二、九六〇・二	三七、〇〇六・二	二四二、六一五・六	五五、七三四・三	—	一二、五七四・二	一、八七二・七	—	五、一〇三・〇	一、一
	一九二〇年	一六八、三三九・五	八四三・一	一、七〇五・九	一八、二五七・七	一〇九、四五四・〇	二〇、六九〇・〇	—	三、一七七・〇	一、二一一・八	—	—	
	一九二一年	一八九、二九二・〇	一、五二四・〇	一、四〇五・〇	二二、九三四・〇	一二三、〇二六・〇	三一、八四七・〇	—	五、六七八・〇	三、一三一・〇	—	—	
歐露通計	一九〇一—五年	一、〇五四・二三七・五	一七一、九四五・八	六、三一七・一	四五六、〇八七・五	五八九、〇九二・九	二九二、七五二・〇	一五、一六五・七	五一、二一〇・九	九五、一〇六・五	二二、〇四五・七	二四、七七五・八	一三、
	一九〇六—一〇年	九四七、〇六五・四	一五〇、一六九・四	五、五一四・四	四八七、七六三・九	五九七、三三三・二	三四八、〇九七・五	一一、〇四六・七	六四、九〇〇・六	一〇七、六〇一・八	二九、五五〇・九	二五、七八三・二	一六、
	一九一一—五年	一、一四六、八〇八・八	二〇二、四七九・二	六、五〇三・七	五二四、三〇四・一	六三五、九二二・二	三九一、六一七・三	七、〇七九・六	五八、二八八・二	一〇三、一一五・六	三九、八七六・六	三〇、二一〇・七	一六、
	一九一三年	一、二〇五、七一六・二	二三〇、一九二・六	八、〇九六・三	七一五、八五七・四	七七二、二六〇・一	四八五、九〇六・九	九、六二七・一	六一、〇四〇・二	一二三、一五三・七	三八、九五九・四	三六、九六〇・六	一八、
	一九一六年	一、二五九、五六〇・三	二九六、八二九・七	一〇、八八九・七	三六二、四八四・三	六九〇、九〇五・〇	四一六、九三三・七	—	八六、四六六・八	一〇八、八八二・一	三五、九〇九・九	一九、二〇九・六	一二、
	一九二〇年(註二)	三七一、七〇八・四	四、四一三・二	二、〇五一・〇	七一、九〇〇・一	二〇四、六二〇・〇	二四、七三六・三	—	一九、〇八九・二	六一、七八〇・一	—	—	
	一九二一年	五一七、九七二・〇	七一、一三一・〇	一、五一三・〇	九五、八七四・〇	二四四、五三六・〇	一一二、九六〇・〇	—	四二、六五三・〇	九〇、六四四・〇	四六九	—	
亜露	一九〇一—五年	三九、八四三・二	九四、四一六・三	一五、七七二・三	一五四、九一二・七	七七、七三六・〇	五四、八二二・一	六三三・七	二、一一三・五	一九、五三三・一	一三、四二二・九	二、一八三・一	
	一九〇六—一〇年	三九、〇四三・四	一一〇、八三八・七	一五、九九七・一	二〇〇、八三二・〇	一一〇、九四〇・二	七六、三二五・二	三七八・四	一、八七七・一	二七、三九一・六	一七、七三四・四	一、一六二・九	
	一九一一—五年	四一、七四六・五	一三五、二五六・二	一二、九一二・三	二八五、五七九・二	一二八、三八七・三	一一二、〇五五・七	二四六・六	一、二九〇・四	三〇、九三四・八	二五、六九九・八	一、三一七・八	
	一九一三年	五一、八四六・七	一七七、七四五・三	一六、一六八・三	三三二、五五六・五	一四九、九三九・六	一三六、四五六・四	一九〇・〇	一、四〇三・〇	二七、七六一・〇	二二、五八〇・六	一、五三七・六	
	一九二〇年	二一、五七八・四	四七、六一一・一	一四、四四四・一	一一八、四七三・四	九七、六四三・七	三三、七七三・九	—	一、〇五五・三	一一、九四一・九	二〇、二三六・六	—	
	一九二一年	一七、一五五・〇	二九、九八七・〇	一〇、三九六・〇	一五九、七四一・〇	七四、四四三・〇	二七、〇〇一・〇	—	一、四九九・〇	一一、二九七・〇	一九、六八四・〇	—	
通ソトウ聯ニ計邦	一九〇一—五年	一、〇九四、〇八〇・七	二六六、三六二・〇	二二、〇八九・四	六一一、〇〇〇・二	六六六、八一八・九	三四七、五七四・一	一五、七九九・四	五三、三二四・四	一一四、六三九・五	三五、四六八・六	二六、九五八・九	一三、
	一九〇六—一〇年	九八六、一〇八・八	二六一、〇〇八・一	二一、五一一・五	六八八、五九五・九	七〇八、二六三・四	四二四、四二二・七	一一、四二五・一	五六、七七七・七	一三四、九九三・四	四七、二八五・三	二六、九四六・一	一六、
	一九一一—五年	一、一八八、五五五・三	三三七、七三五・四	一九、四一六・〇	八〇九、八八三・三	七六四、三〇九・五	五〇三、六七三・〇	七、三二六・二	五九、五七八・六	一三四、〇五〇・四	六五、五七六・四	三一、五二八・五	一六、
	一九一三年	一、二五七、五六二・九	四〇七、九三八・九	二四、二六四・六	一、〇四八、四一三・九	九二二、一九九・七	六二二、三六三・三	九、八一七・一	六二、四四三・二	一五〇、九一四・七	六一、五四〇・〇	三八、四九八・二	一九、〇
	一九一六年(註三)	一、二五九、五六〇・三	二九六、八二九・七	一〇、八八九・七	三六二、四八四・三	六九〇、九〇五・〇	四一六、九三三・七	—	八六、四六六・八	一〇八、八八二・一	三五、九〇九・九	一九、二〇九・六	一二、
	一九二〇年(註二)	三九三、二八六・八	五二、〇二四・七	一六、四九五・一	一九〇、三七三・五	三〇二、二六三・七	五八、五一〇・二	—	二〇、一四四・五	七三、七二二・〇	二〇、二三六・六	—	
	一九二一年	五三五、一二七・〇	一〇一、一一八・〇	一一、九〇九・〇	二五五、六一五・〇	三一八、九七九・〇	一三九、九六一・〇	—	四四、一五二・〇	一〇一、九四一・〇	二〇、一五三・〇	—	

(註一) 本表は後高架索(グルジヤ及ダゲスタン)トルケスタン及露領極東を含まず。 (註二) 南西地方、小露西亜地方及ノヴオロシヤ地方を含まず。 (註三) 亜露を含まず。

收穫量一覧表1)

（單位千布度）（註一）

秋蒔小麥	春蒔小麥	燕麥	大麥	スペルト小麥	蕎麥	黍	玉蜀黍	豌豆	扁豆及大豆	穀物計	馬鈴薯
二,九五七・八	四二四,四八七・三	三六八,八二四・四	二四四,〇三三・四	一三,八二三・六	四一,二八七・二	九四,〇五六・六	三三,〇四〇・六	一八,四五六・五	三,五五八・二	二,一七二,三二三・四	五五四,三二六・〇
二,四三一・六	四五一,四八九・七	三八一,五八一・一	二九八,八〇二・二	一〇,〇七七・一	四五,八〇二・九	一〇六,七三六・三	二九,五四七・六	一九,八三一・三	一五,一九七・八	二,一九二,五七六・〇	六〇九,一四九・七
三,二八三・八	四八六,四三三・四	四一七,〇三八・〇	三四〇,一三八・二	六,四三三・七	四九,五四四・三	一〇二,〇六八・九	三九,八七〇・二	二四,二四一・六	一五,〇九九・七	二,四八九,〇八八・六	七五〇,九八九・九
三,八八三・六	六六五,〇七八・一	五〇五,六七七・〇	四三三,六〇一・五	八,七五三・八	五二,三八八・四	一三三,〇三四・六	三八,九五二・九	二九,六九九・六	一七,六六〇・六	二,九六四,四二八・四	七六〇,九〇五・八
七,九二九・五	三三五,四七八・一	四四八,二八九・四	三六一,一九九・四	—	七三,八九二・六	一〇七,〇〇九・四	三五,九〇九・九	一四,一〇六・六	二一,七六五・二	二,六二一,二三九・〇	六九二,三五三・六
三四五・一	五三,六四二・四	九五,一六六・〇	四,〇四六・三	—	一五,九二三・二	六〇,五六八・三	—	—	—	四三六,六一九・三	一〇〇,三〇三・六
一〇八・〇	七二,九四〇・〇	一三一,五一〇・〇	八一,一一三・〇	—	三六,九七五・〇	八七,五一三・〇	四六九	—	—	七九八,九一五・〇	一八一,〇九二・〇
三,三七九・三	三一,六〇〇・二	二三〇,二六八・五	四八,七二八・六	一,三五三・一	九,九三三・七	一,〇四九・九	五・一	六,三一九・三	一,一八四・四	六三〇,一六六・六	三三四,五三一・八
三,〇九三・八	三六,二七四・二	二二五,七四二・一	四九,二九五・三	九六九・九	九,〇九七・七	八七五・五	三・三	五,九五一・九	一,〇五五・五	五八七,四九四・三	三四二,三六二・七
三,二二九・九	三七,八〇一・七	二一八,八八四・二	五一,四七九・〇	六四六・九	八,七四三・九	一,〇四三・七	六・四	五,九六九・一	一,〇三九・八	六七三,二五三・九	四三四,六〇六・一
四,二二三・七	五〇,七七九・三	二六六,五八三・一	六三,三〇五・四	八七四・三	八,六五一・八	一,一一九・一	六・五	七,二六一・〇	一,一〇一・七	七四二,三〇四・四	三九二,六八三・六
二,九六〇・二	三七,〇〇六・二	二四二,六二五・六	五五,七三四・三	—	一二,五七四・二	一,八七二・七	—	五,一〇三・〇	一,一三七・六	六七九,七三四・〇	三三八,三三一・一
一,七〇五・九	一八,二五七・七	一〇九,四五四・〇	二〇,六九〇・〇	—	三,一七七・〇	一,一二一・八	—	—	—	三三三,六七九・〇	一七一,〇九六・一
一,四〇五・〇	三二,九三四・〇	一三三,〇二六・〇	三一,八四七・〇	—	五,六七八・〇	三,一三一・〇	—	—	—	三七八,八二七・〇	二七四,八四四・〇
六,三二七・一	四五六,〇八七・五	五八九,〇九二・九	二九二,七五二・〇	一五,一六五・七	五一,二二〇・九	九五,一〇六・五	三三,〇四五・七	二四,七七五・八	一三,七四二・六	二,七九三,四八〇・〇	八八八,八六八・八
五,五二四・四	四八七,七六三・九	五九七,三三三・二	三四八,〇九七・五	一一,〇四六・七	六四,九〇〇・六	一〇七,六〇一・八	二九,五五〇・九	二五,七八三・二	一六,二五三・三	二,七八一,〇七〇・三	九五一,五三三・四
六,五〇三・七	五二四,三〇四・一	六三五,九二三・二	三九一,六一七・三	七,〇七九・六	五八,二八八・二	一〇三,一一五・六	三九,八七六・六	三〇,二一〇・七	一六,一三九・五	三,一六三,三四五・五	一,一八五,五九六・〇
八,〇九六・三	七二五,八五七・四	七七二,二六〇・一	四八五,九〇六・九	九,六二七・一	六一,〇四〇・二	一三三,一一五・七	三八,九五九・四	三六,九六〇・六	一八,八六二・三	三,七〇六,六三三・八	一,一五三,五八九・四
一〇,八八九・七	三六二,四八四・三	六九〇,九〇五・〇	四一六,九三三・七	—	八六,四六六・八	一〇八,八八二・一	三五,九〇九・九	一九,二〇九・六	三,九〇二・八	三,三〇〇,九七三・九	九三〇,七二四・七
二,〇五一・〇	七一,九〇〇・一	二〇四,六二〇・〇	二四,七七六・三	—	一九,〇八九・二	六一,七八〇・一	—	—	—	七六〇,二九八・三	一八一,三九九・七
一,五一三・〇	九五,八七四・〇	二四四,五三六・〇	一三,九六〇・〇	—	四三,六五三・〇	九〇,六四四・〇	四六九	—	—	一,一七七,七五三・〇	四五五,九三六・〇
一五,七七三・三	一五四,九二二・七	七七,七三六・〇	五四,八二三・一	六六三・七	二,一一三・五	一九,五三三・一	一三,四二三・九	二,一八三・一	一六四・六	四七五,五四三・四	五六,一二八・一
一五,九九七・一	二〇〇,八三三・〇	一一〇,九四〇・二	七六,三二五・二	三七八・四	一,八七七・一	二七,三九一・六	一七,七三四・四	一,一六三・九	一八五・〇	六〇二,七〇六・〇	五七,九八九・二
一三,九二二・三	二八五,五七九・二	一二八,三八七・三	一二三,〇五五・七	二四六・六	一,二九〇・四	三〇,九三四・八	二五,六九九・八	一,三一七・八	一四六・一	七七五,五七三・七	九二,九五〇・三
一六,一六八・三	三三二,五五六・五	一四九,九三九・六	一三六,四五六・四	一九〇・〇	一,四〇三・〇	二七,七六一・〇	三三,五八〇・六	一,五三七・六	一五八・一	九一八,三四四・一	九一,五七一・四
一四,四四四・一	一一八,四七三・四	九七,六四三・七	三三,七七三・九	—	一,〇五五・三	一一,九四一・九	二〇,二三六・六	—	—	三六六,七五八・四	五三,〇四五・三
一〇,三九六・〇	一五九,七四一・〇	七四,四四三・〇	二七,〇〇一・〇	—	一,四九九・〇	一一,二九七・〇	一九,六八四・〇	—	—	三五一,二〇三・〇	四〇,〇五三・〇
二三,〇八九・四	六二一,〇〇〇・二	六六六,八一八・九	三四七,五七四・一	一五,七九九・四	五三,三三四・四	一一四,六三九・五	三五,四六八・六	二六,九五八・九	三,九〇七・二	三,二六八,〇三三・四	九四四,九九六・九
二一,五二一・五	六八八,五九五・九	七〇八,二六三・四	四二四,四三三・七	一一,四三五・一	五六,七七七・七	一三四,九九三・四	四七,二八五・三	二六,九四六・一	一六,四三八・三	三,三八三,七七六・三	一,〇〇九,五〇一・六
一九,四一六・〇	八〇九,八八三・三	七六四,三〇九・五	五〇三,六七三・〇	七,三三六・二	五九,五七八・六	一三四,〇三〇・四	六五,五六六・四	三一,五二八・五	一六,二八五・六	三,九三七,九一八・二	一,二七八,五四六・三
二四,二六四・六	一,〇四八,四一三・九	九二三,一九九・七	六二三,三六三・三	九,八二七・一	六二,四四三・二	一五〇,九二四・七	六一,五四〇・〇	三八,四九八・二	一九,〇三〇・四	四,六二四,九七六・九	一,二四五,一六〇・八
一〇,八八九・七	三六二,四八四・三	六九〇,九〇五・〇	四一六,九三三・七	—	八六,四六六・八	一〇八,八八二・一	三五,九〇九・九	一九,二〇九・六	三,九〇二・八	三,三〇〇,九七三・九	九三〇,七二四・七
一六,四九五・一	一九〇,三七三・五	三〇三,二六三・七	五八,五一〇・二	—	二〇,一四四・五	七三,七二二・〇	二〇,二三六・六	—	—	一,一三七,〇五六・七	二三四,四四五・〇
二,九〇九・〇	二五五,六二五・〇	三二八,九七九・〇	一三九,九六一・〇	—	四四,一五三・〇	一〇一,九四一・〇	二〇,一五三・〇	—	—	一,五三八,九六〇・〇	四九五,九八八・〇

ケスタン及露領極東を含まず。（註二）南西地方、小露西亜地方及ノヴォロシヤ地方を含まず。（註三）亜露を含まず。

1) Сельское хозяйство России в XX веке. 192—7頁

	非黑土帶						黑土帶					
	一九二一—二五年	一九二六—一〇年	一九三一—三五年	一九一七—一八年	一九一九—二〇年	一九二一—二二年	一九一七—一八年	一九一九—二〇年	一九二一—二二年	一九一七—一八年	一九一九—二〇年	一九二一—二二年
一	五九	五五	四九	四九	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
六	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
七	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
八	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
九	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
一〇	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
一一	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
一二	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
一三	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
一四	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
一五	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
一六	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
一七	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
一八	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
一九	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二〇	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二一	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二二	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二三	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二四	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二五	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二六	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二七	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二八	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
二九	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三〇	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三一	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三二	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三三	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三四	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三五	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三六	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三七	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三八	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
三九	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四〇	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四一	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四二	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四三	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四四	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四五	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四六	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四七	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四八	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
四九	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五〇	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五一	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五二	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五三	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五四	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五五	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五六	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五七	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五八	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
五九	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六
六〇	五六	五五	四八	四八	四四	四九	一四	一六	二六	一四	一六	二六

年	實數	戰前に對する百分比
一九一一年	四五,二二	一〇八
一九一二年	三三,七九四	七四・四
一九一三年	三三,三五七	七三・六
一九一四年	二七,九六九	六〇・九
一九一五年	三一,七九九	六九・八
一九一六年	三三,一七九	七三・五
一九一七年	二九,二〇〇	六四・一
一九一八年	二五,〇〇〇	五五・二
一九一九年	二四,〇〇〇	五三・〇
一九二〇年	二三,〇〇〇	五〇・八
一九二一年	二三,〇〇〇	五〇・八

穀物たる麥の並作は一九〇九―一三年の平均收穫率たる四九布度から一九一八年には四四布度に低下し、一九一九年には更に四三布度に減少した。[1] 收穫率は戰時共產主義時代に至つて著しく低下した。シャウタ教授によれば、播種面積は一九一四年に於て既に二九一六年に比して殆ど一四パーセントを減じたが、これ亦共に農民自からの基本的需要

ソ聯の穀物收穫量は一九二〇―二一年に至つてその最低を示してゐる。[2] 一九一三年乃至一九二〇年の穀物收穫高並にその戰前との比較は左の如くである。(單位百萬度)

年	戰前（註）	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
總量	八〇	六二・九	四三・六	四二・七	五一・八	五〇・七
麥	一〇	一一・二	一一・二	一一・二	一一・二	一一・二

（註）括弧内數字は概數である。

1) Шапиро Г. Г. проф. Революція и народное хозяйство въ Россіи/1917-1921. 157 頁

2) Экономическое положение СССР и неурожай. 5 頁

年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
一九一三年	四三	三八	三九	三五	三六
一九一四年	四三	三八	三九	三五	三六
一九一五年	四〇	三八	三九	三五	三六
一九一六年	四〇	三八	三九	三五	三六
一九一七年	四〇	三八	三九	三五	三六
一九一八年	四二	三八	三九	三五	三六
一九一九年	四三	三八	三九	三五	三六
一九二〇年	四五	三八	三九	三五	三六
一九二一年	四三	三八	三九	三五	三六
一九二二年	四二	三八	三九	三五	三六

帝政時代との比較に於けるソヴェート聯邦經濟情

年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
一九一三年	五九	五六	五九	四六	四六	四六
一九一四年	五九	五六	四五	四六	四六	四六
一九一五年	五九	五六	四五	四六	四六	四六
一九一六年	五九	五六	四五	四六	四六	四六
一九一七年	五九	五六	四五	四六	四六	四六
一九一八年	五九	五六	四五	四六	四六	四六
一九一九年	五九	五六	四五	四六	四六	四六
一九二〇年	五九	五六	四五	四六	四六	四六
一九二一年	五九	五六	四五	四六	四六	四六
一九二二年	五九	五六	四五	四六	四六	四六

（註）　戰前の收穫高は一九一三年の播種面積と一九〇六―一四年の平均收穫高に基くものであつて、一九二〇―二三年の資料は國家計畫委員會の資料である。

而して右年間に於けるデシャチン平均粒穀收穫高を見るに左の如くである。（單位布度）

年次	A 1)（註二）	B 2)
一九一一―一五年平均	五一・八	四八（註三）
一九一六年	三七・五	三六
一九一七年	二九・五	三三
一九一八年	五五・七	三一
一九一九年	四五・六	四二
一九二〇年		三六（？）

（註二）　國家計畫委員會の資料に據る。

（註三）　一九〇五―一四年平均。

左の資料はトルケスタン及び極東地方を含まないが、一九一一年以後の穀物收穫量を作物別に示せる點に於て興味あるが故に特に茲に掲げた[3]。（單位百萬布度）

年次	裸麥	小麥	燕麥	大麥	玉蜀黍	黍	蕎麥	總量（註一）
一九一一―一五年	二、三〇六	二、一四七	二、三六四	二、四三四	二、〇五六	一、三五	一、三五	一四、六四二
一九一六年	一、九〇四	一、三三七	一、六一一	一、八一四	一、三四二	一、〇一二	一、〇一二	一〇、二四六
一九一七年	一、四二九	一、三三七	一、六一一	一、八一四	一、三四二	一、〇一二	一、〇一二	一〇、五〇六
一九一八年	一、〇四二	一、〇一二	一、二一四	一、三五〇	一、〇一二	七五九	七五九	七、六八四
一九一九年	一、〇一二	一、〇一二	一、二一四	一、三五〇	一、〇一二	七五九	七五九	七、六八四
一九二〇年	一、〇一二	一、〇一二	一、二一四	一、三五〇	一、〇一二	七五九	七五九	七、六八四
一九二一年	一、〇一二	一、〇一二	一、二一四	一、三五〇	一、〇一二	七五九	七五九	七、六八四
一九二二年	一、〇一二	一、〇一二	一、二一四	一、三五〇	一、〇一二	七五九	七五九	七、六八四
一九二三年	一、〇一二	一、〇一二	一、二一四	一、三五〇	一、〇一二	七五九	七五九	七、六八四
一九二四年	一、〇一二	一、〇一二	一、二一四	一、三五〇	一、〇一二	七五九	七五九	七、六八四
一九二五年	一、〇一二	一、〇一二	一、二一四	一、三五〇	一、〇一二	七五九	七五九	七、六八四
一九二六年	一、〇一二	一、〇一二	一、二一四	一、三五〇	一、〇一二	七五九	七五九	七、六八四
一九二七年	一、〇一二	一、〇一二	一、二一四	一、三五〇	一、〇一二	七五九	七五九	七、六八四

（註一）　內譯と符合せざるも、その理由不明。

（註二）　ソヴェート聯邦全體の收穫高は三、八五九、〇〇〇、〇〇〇布度である。

一九二四年乃至一九二七年の穀物收穫並に各前年度に對する百分比は左の如くである[1]。（單位百萬布度）

品種	實數				前年度に對する百分比		
	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
玉蜀黍	一、四三・八	一、三五九・九	一、三五八・一	一、四〇〇・四	一〇五・〇	一〇三・八	一〇四・三
粟	三九八・八	四一〇・一	四一〇・一	四一〇・一	一〇三・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
蜀黍	三三・〇	三五・九	三五・八	三六・四	一〇六・〇	一〇一・九	一〇二・八
蕎麥	八九・九	一〇一・二	一一五・四	一一八・四	一一三・八	一一四・〇	一〇二・八
燕麥	五四・六	五〇・〇	五五・三	五六・八	九二・三	一一〇・六	一〇二・九
大麥	二四〇・二	二三一・一	二三五・三	二六六・四	九六・三	一〇一・九	一一三・六
小麥	六四・七	七三・七	七三・五	八四・五	一一三・七	九九・七	一一四・九
裸麥	一、一四・九	一、二五九・九	一、二五八・一	一、三〇〇・四	一一二・〇	一〇三・八	一〇三・三

（註三）　一九一一―一五年平均。

1) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917–1927 гг. 119 頁

1) Экономическое обозрение. Вып. I. 68 頁
2) Записки института изучения России. № 1. 151 頁
3) 滿鐵調査課發行露領經濟調査叢書ソヴェート聯邦の資源と產業・穀類編 30–33 頁

其他穀物	八七・〇	一三六・六	一四五・〇	二四四・七	二三〇・六	二三九・九	八七・三
合計	三、一四九・〇	四、〇四〇・四	四、〇五五・二	四、三五五・七	二三五・七	一四三・四	九二・五
馬鈴薯	二、三三・三	二、五九・九	二、七八・四	—	二八・五	—	—

次にクルジジャノフスキイ氏は一九一三年及一九一七年乃至一九二六—二七年度の穀物收量を左の如く表はしてゐるが、總體に於て他の資料に示す數字よりも多額である。[1]（單位百萬布度）（括弧內計數は推定）

年次	實數	百分比	年次	實數	百分比
一九一三年	五、八九六	一〇〇	一九二二—二三年度	(三、六〇〇)	—
一九一七年	(三、九八七)	—	一九二三—二四年度	三、三六四	五七・一
一九一八年	(三、四五八)	—	一九二四—二五年度	三、一六六	五三・七
一九一九年	(三、五二四)	—	一九二五—二六年度	四、五七八	七七・六
一九二〇年	(二、七九〇)	—	一九二六—二七年度	四、七七七	八一・〇
一九二一—二二年度	(二、一六〇)	—			

前揭資料ご年代に於て重複するが、國家計畫委員會の作成せる一九二八—二九年度ソ聯統制數字によるご、一九一三年及一九二五—二六年度乃至一九二七—二八年度の穀物及び馬鈴薯の收穫量は左の如くである。[2]（單位百萬噸）

年次	一九一三年	一九二五—二六年度	一九二六—二七年度	一九二七—二八年度
穀物（百分比）	八一・六	七四・五	七八・三	七三・六
	(一〇〇)	(九一・三)	(九六・〇)	(九〇・二)
馬鈴薯	二九・九(註)	三八・九	四三・三	四一・五

（註）一九〇九—一三年平均數。一九〇四—一三年平均は七六・六百萬噸である。

最近年間に於ける全聯邦の穀物並に馬鈴薯收穫量は左表に於て窺はれる。

年次	一九二三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
穀物(1)（單位百萬噸）	八〇・一	七四・七	七六・四	七三・六	七二・七	六六・三	八八・九(註)	—
穀物(2)（單位百萬セントネル）	—	—	—	—	—	—	八五二・六	九六八・六(註)
馬鈴薯(1)（單位百萬噸）	二九・九	三九・五	四二・八	七七・四	四二・九	五二・六(註)	—	—

（註）統制數字。

以上穀物收穫量に關する諸統計を綜合するに、一九〇一—五年平均收穫量に對する一九一三年のそれは四一・九パーセントの增加を示し、最近年の一九一三年に對する比率は、一九二九年に於て八九・四パーセント（一〇・六パーセント減）、一九三〇年は一一〇・九パーセント（一〇・九パーセント增）を示してゐる。從つてソ聯の穀物收穫量は一九三〇年に於て戰前の域に達し得たものご見てよい。

1) 2 год пятилетки. ст 18.

2) Жур. Плановое хозяйство. 1930. № 12.

1) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウエート聯邦經濟十年史 151及155 頁

2) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928-1929 г. 409 頁

第二節　工藝用農作物

第一項　播種面積

歐露五十縣に於ける十九世紀末の油性農作物中亞麻の播種面積は百四十萬デシャチン即ち總播種面積の二・二パーセントをなし、その栽培の最も旺なるものはプスコフスカヤ縣及びリフリャンドスカヤ縣である(縣内播種面積の一三パーセント)。亞麻にはドルグーネッ及びクドリャシの二種あり、前者は主として纖維、後者は種實を目的とし、播種面積に於て前者は七十五萬デシャチン、後者は六十五萬デシャチンを示した。[1]

次に大麻は農民の宅地附近又は肥料の最も良く利きたる田畑に於て歐露到る處に栽培せられ、その播種面積は五一二、〇〇〇デシャチン、その八四・一パーセントは黑土地帶に屬してゐる。[2]

甜菜の播種面積は二十四萬デシャチンであつて、その中キエフスカヤ縣、ボドリスカヤ縣、ヴォルィンスカヤ縣、ハリコフスカヤ縣及びクールスカヤ縣が八七パーセントを占めてゐる。[3]

煙草の播種面積は四五、〇〇〇デシャチンであつて、その四四・二パーセントは小露西亞の諸縣に屬する。[4]

露國に於て亞麻作の最も旺なる二十七縣(註)に於ける一九〇一年乃至一九一三年の亞麻作地面積は左の如くである。(單位デシャチン)[1]

一九〇一年	一、〇一四、一四一
一九〇二年	一、〇五五、二五八
一九〇三年	九八三、七六九
一九〇四年	一、〇一六、六三一
一九〇五年	一、〇一八、八八七
一九〇六年	一、〇三二、八六二
一九〇七年	一、〇七〇、九一九
一九〇八年	一、〇〇六、五一九
一九〇九年	九八二、一〇三
一九一〇年	九六八、六一〇
一九一一年	一、〇二六、三六八
一九一二年	一、〇三九、三〇五
一九一三年	一、〇九九、四四二

(註)　ヴャトスカヤ、プスコフスカヤ、トヴェルスカヤ、スモレンスカヤ、リフリャンドスカヤ、ヴィテブスカヤ、ペルムスカヤ、コヴェンスカヤ、コストロムスカヤ、ヤロスラフスカヤ、ウラヂミルスカヤ、ヴォロゴドスカヤ、モギレフスカヤ、ニジェゴロドスカヤ、ノヴゴロドスカヤ、ミンスカヤ、ヴィレンスカヤ、トムスカヤ、カルジスカヤ、トボリスカヤ、クルリャンドスカヤ、モスコフスカヤ、ペトログラドスカヤ、グロドネンスカヤ、エトリャンドスカヤ、オロネツカヤ、アルハンゲリスカヤ諸縣。

八十五箇縣州の(註)一九一一、一九一二、一九一三各年の亞麻播種面積は左の如くである。(單位デシャチン)[2]

一九一一年	一、四一八、四三三
一九一二年	一、四一九、二八〇
一九一三年	一、五一五、四九四

(註)　戰前露國の縣州の數は、七十九縣、十八州及一區であつた。この場合八十五箇縣州は亞麻の栽培せらるゝ縣州を採つたものと思はれる。

一九〇〇年乃至一九一二年の亞麻、大麻及び向日葵の播種面積は左の如くである。[3]

1) Большая энциклопедія № 16. 466-7 頁
2) Большая энциклопедія № 16. 466-7 頁頁
3) Большая энциклопедія № 16. 466-7 頁頁
4) Большая энциклопедія № 16. 466-7 頁

1) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 150 頁
2) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 148 頁
3) Сельское хозяйство России в XX веке. 102-7 頁

（單位千デシャチン）（註）

地帶	黑土帶								非黑土帶							
年次	一九〇一年	一九〇六年	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九〇一年	一九〇六年	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年
亞麻	三四三・四	二二二・八	二三八・八	二三四・六	二二五・八	二〇二・〇	一七〇・八	一七三・六								
大麻	五二七・五	四八一・〇	四一九・〇	四八一・五	三七一・四	三六一・六	一六一・四	一六七・七	一一一・二	九九・〇	八七・八	八二・九	八六・〇	七五一・二	七四四・八	六二・九
向日葵	一	一	五三四・五	五二六・三	六四二・九	七一七・五	五三〇・九	五五八・六								
歐露合計	一九〇一年	一九〇六年	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九〇一年	一九〇六年	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年
	五三六・八	五〇六・八	四五四・三	五〇六・五	五七〇・七	四三〇・〇	一七六・五	一八八・五	六三八・七	五八〇・〇	五三四・五	五二六・三	六四二・九	七一七・五	五三〇・九	五五八・六
亞露	二〇六・〇	一七〇・四	三七一・六	二九〇・五	三八〇・九	二七一・六	一九二・六	一八〇・三	八二・二	七七・七	七一・二	七七・六	六三・七	七六・五	七三・九	六五・八
歐露合計	一九〇一年	一九〇六年	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九〇一年	一九〇六年	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年
	一〇八・二	九六三・九	一〇八・二	一〇五・一	九六・五	一〇二・一	九六・五	一〇五・一	六三八・七	五八〇・〇	五三四・五	五二六・三	六四二・九	七一七・五	五三〇・九	五五八・六
亞露	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	八二六・一	七一〇・九	六五七・七	七一・二	七七・六	六三・七	七六・五	七三・九	八二・二	七七・七	七一・二	七七・六	六三・七	七六・五	七三・九	六五・八

一九一〇年乃至一九一三年並に一九一四年以降一九二一年に至る甜菜播種面積は左の如くである[2]。

（単位デシャチン）　（註二）

年次	露西亜	大麻	向日葵
一九〇九―一〇年	五五二・六	四〇五・四	八九三・二
一九一〇―一一年	五五五・一	四〇六・七	九〇二・三
一九一一―一二年	六〇一・五	四二三・四	八九三・五
一九一二―一三年	六二五・九	四二三・六	八九四・二
一九一三―一四年	六五七・三	四二六・五	七三九・二
一九一四―一五年	六四七・三	四二六・五	七三九・二
一九一五―一六年	六〇九・四	四二三・五	七三六・九
一九一六―一七年	六〇七・四	四二三・五	七三六・九
一九一七―一八年	六〇九・四	四二三・五	七三六・九
一九一八―一九年	六〇九・四	四二三・五	七三六・九
一九一九―二〇年	六〇九・四	四二三・五	七三六・九
一九二〇―二一年	六〇九・四	四二三・五	七三六・九
一九二一―二二年	六〇九・四	四二三・五	七三六・九
一九二二―二三年	六〇九・四	四二三・五	七三六・九

（註）　本表は後高架索（グルジヤ及ダゲスタン）、トルケスタン及露領極東を含まず。

一九一三年を一〇〇として前後約十年間の亜麻、大麻及向日葵の播種面積の動態を見るに左の如くである[1]。

（註）

年次	亜麻	大麻	向日葵
一九〇九―一〇年	一〇一・五	一三三・四	一〇一・一
一九一〇―一一年	八七・一	一一三・六	一〇〇・〇
一九一一―一二年	九五・八	一〇〇・二	一〇〇・〇
一九一二―一三年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一九一三―一四年	一〇六・五	九七・六	一三四・二
一九一四―一五年	九六・九	八六・七	一三四・五
一九一五―一六年	五五・一	四〇・六	八九・三

（註）　本表は後高架索（グルジヤ及ダゲスタン）、トルケスタン及露領極東を含まず。

全露製糖業者協會の蒐集せる資料に依らば、一九一三年以前十箇年に於ける甜菜播種面積は左の如くである[1]。

（単位デシャチン）

年次	作付當時	収穫當時
一九〇九年	四三八、一五九	四三〇、二九七
一九一〇年	四九三、一七一	四八一、六五一
一九一一年	五三五、〇八九	五二〇、四〇九
一九一二年	五六八、七九九	五五五、九一〇
一九一三年	五〇九、三四九	四七七、三九三
一九一四年	四九四、七八八	四七九、四八一
一九一五年	四八一、四一〇	四六〇、四〇一
一九一六年	四八一、四一〇	四六〇、四〇一
一九一七年	四八一、四一〇	四六〇、四〇一
一九一八年	四八一、四一〇	四六〇、四〇一
一九一九年	四八一、四一〇	四六〇、四〇一
一九二〇年	四八一、四一〇	四六〇、四〇一
一九二一年	四八一、四一〇	四六〇、四〇一
一九二二年	四八一、四一〇	四六〇、四〇一
一九二三年	四八一、四一〇	四六〇、四〇一

（註）　本表は後高架索（グルジヤ及ダゲスタン）、トルケスタン及露領極東を含まず。

前戰時代との比較に於けるソウェート聯邦經濟事情

年次	邦ソウェート總計額
一九一一年	一、二四九・八
一九一二年	一、三三一・三
一九一三年	一、二一一・二
一九一四年	一、〇六八・〇
一九一五年	一、〇六六・五
一九一六年	九三七・九
一九一七年	七三六・九
一九一八年	一、〇九八・四
一九一九年	一、〇一四・五
一九二〇年	八一六・八

1) Сельское хозяйство России в XX веке. 112-3 頁

1) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 123 頁

2) Сельское хозяйство России в XX веке. 206 頁

年次	工場業入高（単位千布度）	収穫 当時	作付 当時
一九一一年	五九二、八三〇	—	五五八、二一〇
一九一二年	六〇五、五八〇	—	六五五、二三九
一九一三年	四五二、七二〇	—	六三三、〇四四
一九一四年	五四八、八五〇	—	五九五、七五四
一九一五年	六一七、八三〇	—	七〇一、二六六
一九一六年	五六〇、五六〇	六六三、三三五	六六八、二一七
一九一七年	四四一、六八〇	五八九、八七〇	六一三、一一四
一九一八年	三七五、五七〇	五二三、四三八	五九一、一一〇
一九一九年	一七六、八八〇	三六〇、二八四	三八七、四三〇
一九二〇年	一八、一五〇	二六一、三一七	一四八、三三八
一九二一年（註二）	三〇、七一〇（註一）	一〇三、二三四（註二）	一八四、七九一

（註一）本表は後高架索、トルケスタン及露領極東を含まず。

（註二）概算。

戦前十箇年の煙草の播種面積は左の如くである[1]。

年次	除ヤイ蔵ナ、ク及高架ウクラミ	ウクライナ	クリミヤ	カクバンス州	高架索	西東比利部	西比利部	タトルケンス	聯ソ邦ウ合ー計ト
一九〇一—一〇年	九六六・一	三六三	三二三	三六五	八四三	二四	三四	五〇	五六八・一
一九一一—一五年	一〇五・一	三四一	三二三	三六五	三四五	二四	三四	五〇	五四四・一
一九一三年	一六六・八	三六三	三二三	三六五	三四五	二四	三四	五〇	五四四・一
一九一四年	一二三・一	三六三	三二三	三六五	三四五	二四	三四	五〇	五四四・一
一九一五年	一〇五・一	三六三	三二三	三六五	三四五	二四	三四	五〇	五四四・一

他の資料に據らば、一九〇一年乃至一九一一年の煙草播種面積は左の如くである[1]。（単位デシャチン）

年次	作地 作数	播種面積（単位デシャチン）
一九一一年	四八九、二六五	六五、〇八八
一九一〇年	四六五、〇三六	六二、四五二
一九〇九年	四三九、四〇三	七〇、三五七
一九〇八年	三九六、九七七	五三、五五八
一九〇七年	三七七、四六九	六〇、八九四
一九〇六年	三四一、九六六	六二、〇二三
一九〇五年	三三八、五四八	六〇、二五七
一九〇四年	三〇七、二九四	六六、八五〇
一九〇三年	二六五、六三四	七四、二〇八
一九〇二年	二一七、六〇四	六五、八二六

1) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 131 頁

1) Сельское хозяйство России в XX веке. 203–4 頁

一九一四年	一三、五九六	一六、三八八	二、九四〇	一一、五七四	二〇、六六二	一五一	三三〇	七五	四五、六六六
一九一五年	一三、二三四	一六、一九八	二、八四三	一六、八七三	一四、九九八	一七七	二六七	八七	六四、〇七七
一九一六年	一三、三二六	一四、〇〇四	二、九〇四	一七、八二八	一三、六九九	一四一	七〇	—	六〇、九七二
一九一七年	—	一五、五〇〇	—	一九、七六八	—	—	—	—	—
一九一八年	一一、四一七	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一九年	七、七三一	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二〇年	二、三〇一	—	二、〇〇〇	一、八五一	—	—	—	—	六、九八〇(註一)
一九二一年	六三一	二六一	五八四	一、〇四四	—	五九	三二〇	四四九	二、五二〇(註二)

(註一)　ウクライナ及高架索を含まず。

(註二)　高架索、西比利及トルケスタンを含まず。

露國に於て棉花栽培の最も旺なるはトルケスタン地方にして、歐洲戰爭直前同地方は露國の棉花需要高の約半數を供給した。トルケスタン地方に於て斯業の最も發達せるはフェルガンスカヤ州である。今同地方の一九〇〇年、一九〇五年及び一九一〇年の棉花播種面積を示せば左の如くである。[1]（單位千デシャチン）

	トルケスタン四州	その中フェルガンスカヤ州
一九〇〇年	二三四・三	一八六・三
一九〇五年	二〇九・七	一六六・八
一九一〇年	三三三・〇	二三七・二

一九一三年乃至一九二一年のトルケスタン地方に於ける棉花播種面積は左の如くである。[2]（單位デシャチン）

1) Экономическое обозрение. 1923 г Вып. I. 79 頁

2) Сельское хозяйство России в XX веке. 205頁

一九一三年	四九七、八四八	一九一七年	四二五、〇〇〇	
一九一四年	五六六、三二八	一九一八年	八〇、〇〇〇	
一九一五年	六七八、九三三	一九二〇年	一〇九、三三六(註)	
一九一六年	七一四、三四六	一九二一年	八六・四(註)	

(註)　ヒワ及びブハラを含まず。一九二一年は概數である。

一九一二年及一九一三年に於ける棉花播種面積に關しては中央統計委員會の調査と農務局所屬中央棉花委員會の調査があるが、各々その數量を異にしてゐる。即ち左の如くである。[1]（單位デシャチン）

地方別	中央統計委員會調査 一九一二年	中央統計委員會調査 一九一三年	中央棉花委員會調査 一九一二年	中央棉花委員會調査 一九一三年
中央亞細亞	四〇一、九五五	四三七、五三六	三八五、五〇九	四一六、一七五
後高架索	八八、六五〇	七〇、七二九	—	—
タゲスタンスカヤ州	—	一五〇	—	—
合計	四九〇、六〇五	五〇八、四一五	—	—

中央亞細亞の棉花栽培は一九一八年頃より需要の減少、中央地方よりの穀物供給の杜絶、灌漑組織の縮小等の原因のため頓に頽調を示すに至つたが、一九二二年中央地方との物資需給關係の復活すると共に、その栽培は漸次復興に向つた。一九一五年乃至一九二三年の棉花作付面積に關してグラナト百科辭典は左の數字を掲げてゐる。[2]（單位デシャチン）

1) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 171-2 頁

2) Энциклопедический словарь "Гранат". 41-II 20 頁

年次	トルケスタン	ヒワ及ブハラ	後高架索
一九一五年	五二四	一四五	一一一
一九一六年	五三四	一四七	八六
一九一七年	三三九	八七	五八
一九一九年	八四	二五	二五
一九二二年	五四	資料無し	一
一九二三年	一五〇	三〇	二五

上記年間に於ける亞麻、大麻及向日葵の播種面積を問ふに左の如くである。[1]（單位千デシャチン）

年次	露西亞共和國 消費地方	生産地方	東南地方	キルギズ自治共和國	西比利	計	ウクライナ共和國	ソウエート聯邦總計
亞麻 一九一六年	八一七・一	三〇二・七	三五・七	二〇・一	六一・七	一、二三七・三	八〇・一	一、三一七・四
一九二〇年	三〇五・八	二一一・七	二〇・三	一九・二	六一・一	六一八・一	（七五・八）	（六九三・九）
一九二一年	三三一・三	二一一・七	二五・六	一五・二	六一・一	六五五・九	七一・五	七二七・四
一九二二年	三七九・〇	二二五・九	一九・五	四八・七	六一・七	七三四・八	八四・二	八一九・〇
大麻 一九一六年	一二八・〇	二六五・六	五・〇	三・四	四六・一	四四八・一	七一・一	五一九・二
一九二〇年	八一・三	二三七・〇	一一・九	九・九	五六・八	三九六・九	（七五・五）	（四七二・四）
一九二一年	八二・五	二三八・二	一四・八	八・六	五六・八	四〇〇・九	七九・九	四八〇・八

1) Экономическое обозрение. 1923 г. Вып. III. 14 頁

一九二二年	九五・八	二七七・四	一三・四	七・七	六一・五	四五五・八	七七・七	五三三・五
向日葵 一九一六年	—	四三四・五	三六六・〇	二三・三	二四・七	八四八・五	一六六・七	一、〇一五・二
一九二〇年	—	二二八・一	一九三・八	二二・一	一七・〇	四六一・〇	（三二七・〇）	（七八八・〇）
一九二一年	—	二六〇・三	二〇〇・四	一六・二	二二・四	五〇九・三	四八七・二	九九六・五
一九二二年	—	五〇一・五	三二八・一	九八・六	一二・三	九四〇・五	六〇七・一	一、五四七・六

一九一六年の實際の播種面積は本表數字を超えるものと思はれる。何故ならば同年の調査には屋敷内の耕地に關して特に項を設けなかつたため、屋敷内の大麻作地が洩れてゐるからである。然し亞麻と向日葵とは主として田作りであるから大なる誤差は無いと思はれる。尙本表所載の文献によると、一九一三年の亞麻作地面積は一、三一七、〇〇〇デシャチンであつて、その中八一七、〇〇〇デシャチン即ち同面積の三分の二は需要地方に集中せられてゐる。[1]

一九二四年、一九二五年、一九二六年及び一九二七年に於ける亞麻、大麻、向日葵、甜菜及棉花の播種面積並に各前年度に對する百分比は左の如くである。[2]（單位千デシャチン）

品種	實數 一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	前年度に對する百分比 一九二五年	一九二六年	一九二七年
亞麻	一、二八〇・八	一、五七一・一	一、五四四・〇	一、六一一・六	一二二・七	九八・三	一〇四・四
大麻	七三一・〇	八六四・四	八六八・八	八五九・八	一一八・二	一〇〇・五	九九・〇

1) Экономическое обозрение. Вып. III. 14 頁

2) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917-1927 гг. 118 頁

品種	一九一三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年(註)
亞麻	一、八六〇・〇	一、六三九・〇	一、六二九・〇	一、六二九・〇	一、七三〇・〇	一、九七七・〇	二、一四〇・〇
棉花	七〇一・〇	六〇〇・〇	六六〇・〇	七四九・〇	九二五・〇	一、〇三六・〇	一、三七七・〇
甜菜	六三一・〇	五四四・〇	五三八・〇	六六五・〇	七七〇・〇	七八四・〇	九六二・〇

(註) 統制數字。

雜誌『計畫經濟』によれば、一九二八、二九、三〇年の棉花及甜菜の播種面積並に工藝作物の總播種面積は左の如くである。[1] (單位千ヘクター)

品種	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年(註)
工藝作物總計	八、六二〇	八、八四〇	一〇、六六八	一三、四九六
棉花	九二六	一、〇三二	一、五六六	二、三〇〇
甜菜	七七〇	七七一	一、〇三四	一、三五四

(註) 統制數字。

上掲資料の一九二八年及一九二九年に關する數字は前掲資料こ多少相異してゐるが、特に注目に値する事は一九三〇年の實績が同年の統制數字を著しく凌駕し、良好なる播種成績を收めて居る點である。

以上の資料により、工藝用農作物の代表的、なるものを亞麻、大麻、甜菜及棉花こ見て、一九一三年以前及以後に於けるその播種面積を比較するに、亞麻は一九〇三—一三年の期間に於て一五パーセントを減

1) Плановое хозяйство. № 12. 1930. 359 頁

合計	棉花	甜菜	向日葵
五、三〇八・五	四六〇・八	三四六・八	二、四八九・一
六、四七九・〇	五九七・三	四八八・六	二、九五七・六
六、〇一九・七	六四一・二	四九二・三	二、四七三・四
六、五八六・五	七三六・二	六〇八・五	二、七七〇・四
一二二・〇	一二九・六	一四〇・九	一一八・八
九二・九	一〇七・三	一〇〇・八	八三・六
一〇九・四	一一四・八	一二三・六	一一二・〇

右の亞麻播種面積の中、纖維を目的こするものは左の如くである。[1] (單位千デシャチン)

一九二四年	一、一七五・〇	一九二六年	一、四四〇・七
一九二五年	一、四七二・二	一九二七年	一、四六一・八

一九二五年乃至一九二七年に關する統計は左の如くである。[2] (單位千デシャチン)

	一九一三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
向日葵	一、二八〇	二、九五八	二、四七八	二、七七〇
亞麻	一、七〇〇	一、五七二	一、五四四	一、六一二
大麻	六六〇	八六四	八六九	八六〇
棉花	六四二	五九七	六四一	七三六
甜菜	五六九	四八九	四九二	六〇九
煙草	六〇	七八	八三	七七
工藝用農作物計	四、九一一	六、五八八	六、一〇七	六、六六四

一九二八—二九年の亞麻、棉花及甜菜の播種面積は左表に於て之を窺ふ事こする。[3] (單位千ヘクター)

1) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917-1927 гг. 119 頁
2) Календарь коммуниста на 1929 г. 284 頁
3) 2 год пятилетки. ст 17.

じ、一九一三―二九年に於て六・三パーセントを增加し、大麻は一九〇三―一三年に於て一九パーセントを減じたるに、一九一三―二七年に於ては三〇・三パーセントの增加を示してゐる。甜菜の栽培は戰前戰後を通じてその發達は極めて著しく、一九〇三―一三年に於て五〇・七パーセントの大增加を示し又一九一三―三〇年に於ては六六・二パーセントを增加してゐる。概して工藝用農作物の栽培は一九一三年以後に於て寧ろ旺であつて、棉花の如きは一九一三―三〇年に於て一〇九・一パーセント、油性種子の播種面積は一九二七―二八年度に於て一九一三年に對して三八・五パーセントを增加し、工藝用農作物總體の播種面積は一九一三年乃至一九三〇年に於て約二倍に增加してゐる。

第二項　收　量

十九世紀末の工藝用農作物の年平均收穫高を示すに、亞麻は種子二百五十萬チェトウェルチにして一デシャチン當二六布度、同纖維は千八百萬布度にして一デシャチン當一八・五布度、大麻は種子二百十萬布度にして一デシャチン當三〇布度、同纖維は一萬五十布度にして一デシャチン當二〇布度、棉花は三百萬布度、甜菜の一デシャチン當收穫は九六〇布度である。[1]

歐露五十箇縣、波蘭十箇縣及高架索三箇縣（スタヴロポリスカヤ、クバンスカヤ及テールスカヤ諸縣）に於ける一九〇三年より一九一二年に至る十箇年の亞麻及大麻の纖維及種子の收量は左の如くである。[2]

（單位千布度）

年次	亞麻 種子	亞麻 纖維	大麻 種子	大麻 纖維
一九〇三年	二八、七〇三	三〇、六九三	二四、四九一	一九、〇九七
一九〇四年	三〇、〇八八	三二、三一一	二二、八七〇	二〇、三六二
一九〇五年	三四、五九六	三〇、三三九	二一、三五八	一六、七七三
一九〇六年	二八、七三五	四〇、一七五	二二、六〇〇	二七、二七四
一九〇七年	三一、八九三	四六、二二九	二三、七八三	二八、五六一
一九〇八年	二八、九〇三	四四、八四三	二〇、四二四	二六、六四八
一九〇九年	三三、一二五	三〇、二一七	一九、八八三	一七、二八一
一九一〇年	二八、一四三	二六、〇八〇	二四、七五三	一六、三四五
一九一一年	三一、八五七	四一、八二〇	二〇、五〇〇	一五、一二七
一九一二年	三四、三九一		二三、五九四	二三、三六二

1) Большая энциклопедія. № 16. 466-7 頁

2) Статистическій ежегодникъ на 1914 г. 90-1 頁

八十五箇縣州の一九一一―一九一三各年の亞麻纖維收穫高は左の如くである。[1]（單位布度）

年次	實數（一デシャチン當）
一九一一年	二一・九
一九一二年	三二・三
一九一三年	三三・九

1) Народное хозяйства въ 1913 году. Министерство финансовъ. 148 頁

一九〇一年乃至一九二〇年を綜合したる亞麻、大麻及び向日葵の收穫高は左の如くである。[1)]

(單位千布度)(註一)

地帶	年次	亞麻	大麻	向日葵	計
黒土帶	一九〇一―一五年	八、六二九・一	一七、五五八・二	—	二六、一八七・三
	一九〇六―一〇年	六、二三八・四	一七、八五九・七	—	二四、〇九八・一
	一九一一―一五年	七、二九七・二	一八、〇七三・九	二六、四三五・七	五一、八〇六・八
	一九一三年	九、〇八七・九	一九、六六四・五	二七、九五七・八	五六、七一〇・二
	一九一六年	四、一五一・四	一二、四〇五・〇	—	一六、五五六・四
	一九二〇年(註二)	一、七八二・九	一、三〇三・四	六、六三五・九	九、七二二・二
非黒土帶	一九〇一―一五年	一三、六一〇・〇	三、五四八・三	—	一七、一五三・三
	一九〇六―一〇年	一五、七〇二・四	三、二三七・三	—	一八、九三九・七
	一九一一―一五年	一六、七八〇・〇	三、一五二・一	—	一九、九三二・一
	一九一三年	一九、七九五・五	三、四五七・九	—	二三、二五三・四
	一九一六年	一七、〇九九・五	八〇五・八	—	一七、九〇五・三
	一九二〇年	四、九八六・二	一九九・三	—	五、一八五・五
歐露通計	一九〇一―一五年	二二、二三九・一	二一、一〇六・五	—	四三、三四五・六
	一九〇六―一〇年	二一、九四〇・八	二一、〇九七・〇	—	四三、〇三七・八
	一九一一―一五年	二四、〇七七・二	二一、二二六・〇	二六、四三五・七	七一、七三八・九
	一九一三年	二八、八八三・四	二三、一二二・四	二七、九五七・八	七九、九六三・六
	一九一六年	二一、二五〇・九	一三、二一〇・八	—	三四、四六一・七
	一九二〇年(註二)	六、七六九・一	一、五〇二・七	六、六三五・九	一四、九〇七・七
亞・露	一九〇一―一五年	三、一三〇・五	二、二〇一・二	—	五、三三一・七
	一九〇六―一〇年	三、〇四六・〇	二、四七五・五	—	五、五二一・五
	一九一一―一五年	四、一八三・九	二、二三二・八	一八、四一六・三	二四、八三三・〇
	一九一三年	四、五四六・二	二、五二一・九	一四、〇三三・三	二一、一〇一・四
	一九二〇年	一、四四二・四	九二八・二	五、六五五・八	八、〇二六・四
ソウエート聯邦通計	一九〇一―一五年	二五、三六九・六	二三、三〇七・七	—	四八、六七七・三
	一九〇六―一〇年	二四、九八六・八	二三、五七二・五	—	四八、五五九・三
	一九一一―一五年	二八、二六一・一	二三、四五八・八	四四、八五二・〇	九六、五七一・九
	一九一三年	三三、四二九・六	二五、六四四・三	四一、九九一・一	一〇一、〇六五・〇
	一九一六年(註三)	二一、二五〇・九	一三、二一〇・八	—	三四、四六一・七
	一九二〇年(註二)	八、二一一・五	二、四三〇・九	一二、二九一・七	二二、九三四・一

1) Сельское хозяйство России в XX веке. 192-7 頁

(註一) 本表は後高架索、トルケスタン及露領極東を含まず。
(註二) 南西地方、小露西亞及びノヴォロシヤ地方を含まず。
(註三) 亞露を含まず。

上記の各資料は甜菜に觸れてゐないが、茲に全露製糖業者協會の蒐集せる資料を見るに、一九一三年以前十箇年に於ける甜菜收穫高は左の如くである。[1)] (單位布度)

1) народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 123 頁

次に戰前六箇年の葉煙草收穫高は左の如くである。[1] （單位布度）

年次	上等品級	下等品級	合計	チーンゾヽデシャ當
一九一一年	二一三四九七二	三一八一九三七〇	六一一六九一四二	九四
一九一二年	一四八五八〇八	四一七一四一六	五六五七二三四	
一九一三年	二一五八七一四四	三三四〇一〇八	五九二七三一五二	
一九一四年	二一八〇一一六七	四一八四八六四八七	六一〇九一四八四	

（註）一九一〇年の數字はヒヲ及びアバラを含まず且つ概算である。一九一三年、一九一四年及一九一六年の資料はヒヲ及びアバラを除く。

一九一三年乃至一九二〇年のトルケスタンに於ける棉花收穫は左の如くである。[2] （單位千布度）（註）

年次	數量
一九一三年	二五、五六八、〇〇九
一九一四年	二五、三〇九、〇〇〇
一九一五年	二九、六九五、〇〇〇
一九一六年	三一、三七四、〇〇〇
一九一七年	二一、一〇八、〇〇〇
一九一八年	一一、一一一、〇〇〇
一九一九年	一一、一一一、〇〇〇
一九二〇年	四七、八二八、〇〇〇

（註）一九一三年乃至一九二〇年のトルケスタンに於ける棉花收穫は左の如くである。[2] （單位千布度）（註）

年次	數量
一九一三年	三五、五六八、〇〇九
一九一四年	三五、三〇九、〇〇〇
一九一五年	二九、六九五、〇〇〇
一九一六年	三一、三七四、〇〇〇
一九一七年	二一、一〇八、〇〇〇
一九一八年	一一、一一一、〇〇〇
一九一九年	一一、一一一、〇〇〇
一九二〇年	四七、八二八、〇〇〇

（註）ヒヲ及びアバラを除く。

中央統計委員會の資料に依らば、一九一二年及一九一三年の棉花收穫高は左の如くである。[1] （單位布度）

地方別	中央亞細亞棉（註）合計	後高棉
一九一二年	二六、四六九、〇〇〇	二、七八四、〇〇〇
一九一三年	二八、七八五、〇〇〇	二、七七九、三七〇

（註）ヒヲ及びアバラを除く。

年次	實數	チーンゾヽデシャ當
一九一一年	三九四、五一八、六七二	九一六、八三
一九一二年	四七八、八九九、七八八	九九四、三〇
一九一三年	六二六、〇二七、〇〇〇	一二〇二、九五
一九一四年	五三〇、〇九三、六三〇	九五九、一〇
一九一五年	五〇三、四〇一、三四〇	一、〇五四、五〇
一九一六年	四二一、九五一、一〇四	八五二、七九
一九一七年	八〇八、四二八、九六	一、三四六、五〇
一九一八年	八二五、五三八、一六八	一、一六六、九〇
一九一九年	六九二、九一三、一九〇	一、三九、九〇
一九二〇年	七五四、二五一、〇〇〇	一、六四、四〇

年次	實數	チーンゾヽデシャ當
一九一一年	四、三九四、八七二	八、三〇
一九一二年	五、七四三、八二三	一〇、八七
一九一三年	五、七二九、八九〇	一〇、七七
一九一四年	五、三九九、八八〇	一〇、一七
一九一五年	五、七四三、六〇四	一〇、七七
一九一六年	五、七二五、二九四	一〇、七七
一九一七年	三、七四八、四七二	七、〇五
一九一八年	三、六五三、七二一	六、九〇
一九一九年	二、七九六、七九四	五、二九
一九二〇年	二、〇二一、九五六	三、八二

1) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 172-3 頁

2) Сельское хозяйство России в XX веке. 205 頁

帝政時代との比較に於けるソウエート聯邦經濟事情　　五二

Сборник статистико-экономических сведений по сельскому хозяйству России и иностранных государств. に依る。

歐洲戰爭中、殊に露國革命戰時代に於ける工藝農作物の收穫量に關する調査資料は殆ど之を有せず、僅に亞麻及大麻に關して前掲せるところあるのみであつて、統計はこの頃ご一九二三年との間に白紙を殘してゐる。

一九二四年乃至一九二七年の工藝用農作物の收量及び各前年度に對する百分比は左の如くである。[1]

(單位百萬布度)

品種	實數				前年度に對する百分比		
	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
一、油性種子							
亞麻	二六・三	三七・二	三一・八	三四・九	一四一・四	八五・五	一〇九・七
大麻	一九・六	三四・一	三〇・八	三三・九	一七四・〇	九〇・三	一一〇・一
向日葵	八三・八	一六二・一	九五・一	一五一・五	一九三・四	五八・七	一五九・三
合計	一二九・七	二三三・四	一五七・七	二二〇・三	一八〇・〇	六七・六	一三九・七
二、纖維							
亞麻	一八・五	二二・八	二〇・二	二〇・九	一二三・二	八八・六	一〇三・五
大麻	一六・三	二九・七	二六・六	三一・二	一八二・二	八九・六	一一七・三
棉花	二一・一	三三・二	三三・〇	三八・六	一五七・三	九九・四	一一七・〇
三、甜菜	二〇六・二	五一二・一	三七四・七	六〇二・一	三四八・四	七三・二	一六〇・七

1) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917-1927 гг. 119 頁

他の資料に依るに、一九一三年及一九二三—二五年の收量は左の如くである。[1] (單位百萬布度)

年次	棉花	亞麻纖維	大麻纖維	油性種子	甜菜	葉煙草	マホルカ煙草
一九一三年	三八・六	二七・七	二四・九	一五五・九	六二二・四	一・七	四・六
一九二三—二四年度	九・四	一四・六	二〇・八	一五二・九	一七二・九	一・六	三・九
一九二四—二五年度	二二・六	一八・七	一八・八	一四〇・七	一九八・四	一・五	四・一
一九二五—二六年度	三四・五	二三・二	二八・〇	二一三・八	五〇四・〇	二・八	八・〇

共產主義アカデミイの調査によれば、一九二五年乃至一九二九年の亞麻纖維、棉花及甜菜の收穫量の一九一三年に對する比較は左の如くである。[2] (單位千噸)

品種	一九一三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年(註)
亞麻纖維	四五三・七	三六二・三	三一〇・〇	二六六・〇	三五二・四	四二七・八	四六八・二
棉花	七四三・七	五六五・一	五五九・四	七一八・三	八三二・〇	九六六・六	一、四五一・九
甜菜	10、九00	九、100	六、四00	10、四00	10、100	八、四00	一四、九00

(註) 統制數字。

ゴスプラン機關誌『計畫經濟』によるこ、一九二八、二九及び三〇年の工藝農作物收穫量は左の如くである。[3] (單位千セントネル)

1) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1926-1927 год. 340 頁
2) 2 год пятилетки. ст 18.
3) Жур. Плановое хозяйство. № 12. 1930.

品種	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年(註)
棉花	八、二一五	八、六四〇	一三、四六三	二一、〇一八
亞麻纖維	三、二三八	三、六〇六	四、二八六	五、六八二
甜菜	一〇一、四三〇	六二、四七八	一五一、六九六	二一四、三六五
油性種實	三三、九四八	三〇、〇五二	三一、二三九	五一、九九〇

(註)　統制數字。

『計畫經濟』誌の資料を前揭共產主義アカデミイの數字に比較し得る一九二八年及一九二九年に於て兩者の數字は相異り、一九二八年の亞麻纖維及一九二九年の三者全體に亙り共產主義アカデミイに依る數字が多額である。

一九三〇年度統制數字の履行狀態は概して良好であるが、亞麻纖維の收穫量は實數に於て一九一三年に遠く及ばざるのみならず、その收穫率の如きは、一九二四年以來最近に至るまで絕えず低下し、一九一三年に於ける千ヘクター當收穫量は二四四噸を示せるに對し、一九二九年に於ては二一六噸を示すに過ぎない。(一九三〇年度統制數字—二一三噸)

戰前に比較しての收穫率の低下は棉花及甜菜に於ても認められる。即ち棉花播種面積千ヘクター當收穫量は、一九一三年—一、〇六二噸、一九二九年—九四三噸にして、甜菜の一ヘクター當收穫量は一九一三年—一七・五噸強、一九二九年—一〇・七噸強を示してゐる。

以上の資料に基づき工藝用農作物の主要なるものを亞麻、大麻、棉花及甜菜に見て、一九一三年以前及以後のその收量を比較するに下の如くである　即ち亞麻纖維は一九〇三—一三年に於て三一・八パーセントを增收せるに對し、一九一三—三〇年に於て五・五パーセントを減收し、大麻は一九〇三—一三年に於て一〇パーセント、一九一三—二七年に於て二五・三パーセントを各々增收し、甜菜は一九〇四—一三年に於て九一・二パーセントを增收し、一九一三—三〇年に於ては三九・二パーセントを增加してゐる。一九一三—三〇年に於ける棉花收量の八一パーセント增は異彩を放つてゐるが、工藝用農作物の收穫率は播種面積の增加に較べて明瞭なる低下を示し、目下ソウエート當局が收穫率の向上を旺に宣傳しつゝあるのは大いに故あるのである。

第三章　林　業

ロシアに於ては十八世紀に既に林業の發現を見たのであるが、その發達の初めは鐵道の建設と都會の發達に關聯し、一八六〇年代に屬してゐる。[1] ロシアの森林面積は地球上全森林の二七パーセント、溫帶森林の五三パーセントを占め、ロシアは世界有數の森林國である。その面積は、一說には、八億二千四百萬デシャチン、その中利用可能面積は五億三千八百萬デシャチンとせられてゐるが、[2] 最近の資料に依ると、一九二八年十月一日現在の森地面積は左の如く算定せられてゐる。[3] （單位百萬ヘクタール）

共和國々別	國有林	地方林	合計
ロシヤ共和國	八五七・三	三〇・七	八八七・九
ウクライナ共和國	二・六	一・〇	三・六
白露共和國	三・二	〇・五	三・七
後高架索共和國	三・九	〇・四	四・三
トルクメン共和國	六・四	三・六	一〇・〇
ウズベク共和國	四・〇	—	四・〇
合計	八七七・三	三六・二	九一三・五

而してこの廣大なる森林の大半は未調査であつて、經營せられるものは未だ二六・三パーセントに過ぎず、調査濟森林に於ての利用可能面積は三億八千四百四十萬ヘクタルと稱せられる。[1] 一九〇一年乃至一九一三年の伐木高に關する資料を有しないが、木材輸出高は或る點まで同期間の露國の林業の消長を物語るものであるが故に左に之を掲げる。[2]

年次	數量（單位百萬布度）	價格（單位百萬留）
一九〇一—五年	二四二・四	六五・九
一九〇六—一〇年	三七九・二	一一六・四
一九一〇年	四一四・〇	一三八・二
一九一一年	四二五・四	一四二・四
一九一二年	四六〇・六	一五三・四
一九一三年（註）	四三三・〇	一六四・九

（註）ソウエート小百科辭典は一九一三年の木材輸出品を數量に於て千三百十萬立方米とし、その價格を本表と同じく一億六千四百九十萬留と認めてゐる。

一九一三年の林業產額は、手製木工品—八千九百三十萬留、製年度用原料—一億二千八百萬留、挽材及ベニヤ板—一億五千八百六十萬留、機械製木工品—六千二百四十萬留である。[3]

ソウエート聯邦の戰後の年別伐採高を見るに左の如くである。[4]（單位百萬立方サージェン）

年度	薪材	建築材	合計
一九一三年	三八・四八	八・九七	四七・四五

1) Малая советская энциклопедия. № 4. 604. 606頁
2) Записки института изученія Россіи. I. 155頁
3) Малая советская энциклопедия. № 4. 605頁

1) Малая советская энциклопедия. № 4. 605頁
2) П. Дербер и М. Шер. Очерки хозяйственной жизни Дальнего Востока. 1927 г. 124-5頁
3) Малая советская энциклопедия. №4. 604頁
4) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1926-1927 год. 340-1頁

一九二三—二四年度	四〇・七二	八・八七	四九・五九
一九二四—二五年度	四〇・七〇	一〇・五八	五一・二八
一九二五—二六年度	四一・八二	一一・三〇	五三・一二

右數量が一九一三年の數量に對する百分比は左の如くである。

年度	薪材	建築材	合計
一九一三年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一九二三—二四年度	一〇五・八	九八・九	一〇四・五
一九二四—二五年度	一〇五・八	一一七・九	一〇八・一
一九二五—二六年度	一〇八・七	一二六・〇	一一一・九

一九二三——二四年度の林業生産額はこれを金額に就いて見るに、八億三千四百四十萬戰前留にして、[1]一九二四—二五年度乃至一九二六—二七年度のそれは左の如くである。[2] (單位百萬留)

年度	戰前留	チェルウォネツ留
一九二四—二五年度	八七一	一、四五三
一九二五—二六年度	九二三	一、五五八
一九二六—二七年度	九七七	一、六四九

1) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1926-1927 год. 339 頁
2) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928 г. 477 頁

一九二七—二八年度以後の林業生産額に關しては詳細の資料を有しないが、一九二七—二八年度に關しては一、七六五、〇〇〇、〇〇〇留[1]の數字があり、また一九三〇年に關しては二、〇二四、〇〇〇、〇〇〇留(一九三一年度統制數字は三、二八五、〇〇〇、〇〇〇留にして前年度に對し六二・三パーセント增)の數字がある。[2]

これを數量的に見るに、一九二九年及一九三〇年の最高國民經濟院並に配給人民委員部管下の林業產額は左の如くである。[3] (單位百萬立方米)

年次	原木	薪材	挽材	ベニヤ板 (單位千立方米)
一九二九年	七二・三	四七・二	—	—
一九三〇年	一四三・二	六九・六	一九・八	三九四・九
一九三一年(註)	一六〇・二	八〇・〇	三〇・五	五四一・〇

(註) 統制數字

右の外產業組合の經營する木工業の產額は左の如くである。[4] (單位當該年度の市價による、百萬留)

年次	生產手段	日用品
一九二九年	五八・〇	八三・〇
一九三〇年	一〇五・五	一五二・六

1) Экономическая жизнь. 16 окт. 1928.
2) Экономический бюллетень КВжд № 8. 1931. 18 頁
3) „Плановое хозяйство" № 12. 1930. 344 頁
4) „Плановое хозяйство" № 12. 1930. 358 頁

一九三一年(註)	一九〇・〇
	三二五・〇

(註) 統制數字

林業に關しては資料不充分にして且つ統計に一貫せる基礎を缺くため比較を取るに困難であるが、然し木材伐採高に於て又林業に對する收支に於て諸般の計數の增加せるを見る。殊に一九一三年以後最近に至るまでの發達は極めて著しく、『一九二八―二九年度國民經濟統制數字』[1]に依れば、一九二六―二七年度の木材產額は一九一三年に對し一六一パーセントを增加してゐる。

1) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928-1929 г. 392 頁

第四章 畜產業

第一節 家畜數

十九世紀末葉に於ける歐露五十箇縣の家畜總數は一億六千萬頭にして、これを種類別し、これを人口及耕地面積に對比し見るに左の如くである。[1]

類別	頭數(單位百萬頭)	人口百人當頭數(單位頭)(註)	耕地面積百デシヤチン當頭數(單位頭)
馬	三三	二二・九	一八・二
牛	四〇	三〇・六	二三・一
羊	六五	五二・九	四四・九
豚	一五	一一・八	八・七
山羊	四	—	—
駱駝	二	—	—
鹿	〇・五	—	—

(註) 歐露六十箇縣採算

獸醫局の調査に依るに、歐露五十一箇縣の一九〇三年、一九〇八年及一九一三年の家畜數は左の如くで

1) Большая энциклопедія. № 16. 468頁

ある。[1]（單位千頭）（註）

年次	牛	馬	羊種	羊山
一九一三年	三一、八四四	二〇、三四八	四六、九二六	一、〇〇六
一九一八年	二九、六八七	二〇、九五八	四三、九一六	七四九
一九二〇年	三一、九七四	二二、七七一	四一、四二七	八七三

一九二二年乃至一九二一年の家畜頭數は左の如くである。[2]（單位千頭）（註）

年次	馬					牛		羊			豚
	役用馬	幼馬	仔馬	合計	（乳牛を含む）	乳牛	種羊	山羊	豚
一九一二年	三三、三五五・三	三、〇六六・三	一、七五五・四	三六、四八九・九	五〇、三〇六・九	三、〇四二・三	五、六三五・三	一、四五五・三	三、四〇一・七
一九一六年	三四、八九五・七	三、〇〇六・三	一、八三五・六	三七、一三七・六	五〇、三一一・六	三、〇四四・四	五、六三五・三	一、四五〇・九	三、四〇一・八
一九一七年	三三、三五一・四	二、九〇〇・八	一、三六五・九	三六、八五一・一	四八、一五一・三	二、九四四・四	五、五五〇・六	一、三五一・三	三、三〇一・〇
一九二〇年	一九、六五六・八	四、八〇〇・八		二四、四五六・六	三五、八三二・六	二、〇三三・一	四、四五〇・九	一、一五一・六	二、七〇一・八
一九二一年	二〇、三五一・一	三、一五五・四		二三、四五〇・四	三六、一三五・三	二、一五一・八	四、七五一・〇	一、二四四・三	二、九三一・七

（註）本表は後高架索、トルケスタン及露領極東を除く。

一九一六年及一九二一—二三年の家畜頭數は左の如くである。[3]（單位百萬頭）（註）

年次	馬		牛			種羊及山羊	豚
	總數	內、役用馬	總數	內、役用牡牛	內、牝牛		
一九一六年	三五・五	二七・三	六〇・三	五・五	二五・九	二〇・九	二〇・三
一九二三年	三三・三	一八・九	五〇・六	四・五	二五・〇	一四・七	一〇・五
一九二四年	二五・三	一九・六	五五・九	四・六	二五・七	一八・八	一七・二
一九二五年	二六・六	二〇・二	五八・九	五・一	二七・一	二〇・二	一七・七
一九二六年	二八・二	二〇・六	六三・〇	五・五	二七・六	二一・五	二〇・七

（註）後高架索、トルケスタン及露領極東を含まず。

一九二六年及一九二三—二六年の家畜數は左の如くである。[2]（單位百萬頭）

年次	馬	牛	羊	山羊	豚	計
一九一六年	三五・五	五〇・三	七九・九	一一・三	一九・三	一八三・九
一九二三年	三三・三	五〇・二	五五二・五	一一・二	八・六	一一七・四
一九二四年	二五・三	四九・六	四五・二	九・一	九・一	一二四・五
對一九一三年比にが	六四	七七	六九	四七		六六

1) Сельское хозяйство России в XX веке. 23頁
2) Сельское хозяйство России в XX веке. 218, 262—3頁
3) Записки института изучения России. I. 151頁

左の資料は前掲資料に比して計數は稍過大であるが（一九二四年について）、並に各前年度に對する百分比を見るに左の如くである[1]。（單位千頭）

數實	年次	馬 役用馬	馬 其他	馬 計	牛 乳牛	牛 其他	牛 計	山羊緬羊	豚
實	一九二四年	一八、六五九・九	五、一四〇・五	二三、八〇〇・四	二六、五九八・三	三、一三〇・七	三〇、七二八・九	九、六八八・九	二、三四〇・一
	一九二五年	二〇、二三・八	六、三八〇・〇	二六、四二九・八	二八、〇四七・九	三、四七〇・九	三一、五一八・八	一一、四三三・三	二、八四六・三
	一九二六年	二一、四三五・五	七、三五〇・一	二八、七八五・六	二九、三四五・九	三、五八〇・一	三二、九二六・〇	一二、三九一・〇	二、九八九・三
	一九二七年	二二、三五三・三	八、一四〇・三	三〇、四九三・五	三〇、四九五・一	三、六四〇・一	三四、一三五・二	一三、〇四三・七	三、一〇五・七
對前年百分比	一九二五年	一〇三・五	一一八・三	一〇五・八	一〇五・六	一〇三・三	一〇五・四	一一六・四	九四・四
	一九二六年	一〇五・五	一一六・一	一〇八・八	一〇四・三	一〇三・一	一〇四・四	一〇五・三	九五・三
	一九二七年	一〇五・五	一一〇・九	一〇五・九	一〇〇・九	一〇二・五	一〇四・五	一〇五・四	一一〇・〇

一九二五―二六年度乃至一九二七―二八年度の家畜數を一九二三年のそれに比較するに左の如くである[2]。（單位百萬頭）

種別	馬 總數	馬 內役用馬數
一九一三年	三五・五	一七・三
一九二五―二六年度	二六・〇	一九・八
一九二六―二七年度	二八・二	二一・一
一九二七―二八年度	三〇・六	二二・五

アカデミイの資料に依るに左の如くである[1]。（單位百萬頭）

最近の畜産狀況に關しては同一年代に關する二種類の統計を掲げて比較の便に供したい。先づ共產主義

數實	年次	馬	牛	豚	山羊緬羊	合計（牛に換算） 役畜・食用畜 計	家畜總數（牛に換算） 內役畜	家畜總數（牛に換算） 內乳牛	家畜總數（牛に換算） 豚	家畜總數（牛に換算） 山羊緬羊	家畜總數（牛に換算） 總數
一九二一年（註）		三四・〇	六八・二	三三・〇	七一・二	三二・六	五六・七	一九・三	八・九	一一・四	九二・七
一九二二年		三三・二	六七・三	二一・〇	一一・五	三一・四	五五・〇	一九・〇	八・四	一一・三	九一・七
一九二三年		三二・八	六六・三	二一・一	一一・三	三一・八	五五・七	一九・〇	八・四	一一・三	九一・八
一九二四年		三二・四	六五・九	二一・二	一一・四	三一・六	五五・二	一九・〇	八・四	一一・四	九一・九
一九二五年		三一・八	六五・八	二一・四	一一・五	三一・九	五五・七	一九・〇	八・四	一一・五	九二・〇
一九二六年		三一・六	六五・九	二一・五	一一・五	三一・九	五五・七	一九・〇	八・四	一一・五	九二・〇
一九二七年		三一・六	六五・九	二一・五	一一・五	三一・九	五五・七	一九・〇	八・四	一一・五	九二・〇

（註）一九二六年。

1) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917–1927 гг. 118頁

2) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928–1929 г. 403頁

1) 2 год пятилетки. ст 17.

	年次	役用馬	牛（乳牛を含む）	乳牛	緬羊	豚
實數	一九二八年	二二、五二五	七〇、七〇〇	三〇、八〇〇	一三三、六〇〇	二六、一〇〇
	一九二九年	二三、二八七	六七、二〇〇	三〇、三〇〇	一三四、〇〇〇	二〇、五〇〇
	一九三〇年(註一)	二一、三〇九	五三、八〇〇	二六、六〇〇	一〇〇、六〇〇	一三、二〇〇
	一九三一年(註二)	二一、三〇九	五九、二〇〇	二七、四〇〇	一〇〇、六〇〇	一九、八〇〇
前年に對する百分比	一九二九年	九五・八	九五・〇	九八・四	一〇〇・三	七八・五
	一九三〇年(註)	九九・二	八〇・一	八七・八	七五・一	六四・四
	一九三一年(註二)	一〇〇・〇	一一〇・〇	一〇三・〇	一〇〇・〇	一五〇・〇
一九二九年に對する百分比	一九三〇年(註)	九九・二	八〇・一	八七・八	七五・一	六四・四
	一九三一年(註二)	一〇〇・〇	一一〇・〇	一〇三・〇	一〇〇・〇	一五〇・〇

(註) 一九三〇年は統制數字である。

國家計畫委員會の資料によるに左の通りである。[1] (單位千頭)

	年次	役用馬	牛（乳牛を含む）	乳牛	緬羊	豚
實數	一九二八年	一三、五二五	七〇、七〇〇	三〇、八〇〇	一三三、六〇〇	二六、一〇〇
	一九二九年	一三、二八七	六七、二〇〇	三〇、三〇〇	一三四、〇〇〇	二〇、五〇〇
	一九三〇年(註一)	一二、三〇九	五三、八〇〇	二六、六〇〇	一〇〇、六〇〇	一三、二〇〇
	一九三一年(註二)	一二、三〇九	五九、二〇〇	二七、四〇〇	一〇〇、六〇〇	一九、八〇〇
前年に對する百分比	一九二九年	一〇二・三	九五・〇	九八・四	一〇〇・三	七八・五
	一九三〇年(註一)	九五・八	八〇・一	八七・八	七五・一	六四・四
	一九三一年(註二)	一〇〇・〇	一一〇・〇	一〇三・〇	一〇〇・〇	一五〇・〇
一九二九年に對する百分比	一九三〇年(註一)	九五・八	八〇・一	八七・八	七五・一	六四・四
	一九三一年(註二)	一〇〇・〇	一一〇・〇	一〇三・〇	一〇〇・〇	一五〇・〇

1) „Плановое хозяйство" № 12. 1930. 359—360頁

(註一) 推定數字

(註二) 統制數字

以上の資料を綜合して一九一三年以前及以後の家畜數の增減率を比較するに下の如くである。即ち牛の頭數は一九〇一—五年平均乃至一九一三年に於て〇・四パーセントを增加したるに對し、一九一三年乃至一九二九年に於ては四・二パーセントを減じてゐる。また緬羊及山羊の合計は、一九〇一—五年平均—一九一三年の期間に於て一二・五パーセントの減少を示し、一九一三年乃至一九二九年の期間に於ては二一・七パーセントの增加を示してゐる。豚の頭數に關しては適當の資料を缺くため戰前戰後の比較を取るに困難であるが、一九一三年乃至一九二九年の期間に於ては三パーセントの增加を示してゐる。次に役畜(牛及馬)の頭數は一九一三年乃至一九二九年に於て九・二パーセントを減じてゐるが、これは農業との關係に於て注目に値する。尚現今ソウエート聯邦に於ては家畜全部を牛に換算して家畜の總頭數を表はす試みが行はれてゐるが、それによるに一九二九年は一九一三年に比し五・二パーセント增を示してゐる。

第二節　畜產物產額

露國は牛酪の產地として有名であつて、その大部分は西比利に產出せられ、製品の大部分は外國に仕向け

西比利牛酪の輸出量は左の如くである。[1]

一九一〇年	三、一九五、六七〇	一九一五年	四八、二〇〇、〇〇〇	一九二〇年	七三、〇〇〇、〇〇〇	一九二五年	三九五、〇〇〇、〇〇〇						
一九一一年	三、七〇二、四〇〇	一九一六年	三一、七四四、〇〇〇	一九二一年	四五、〇〇〇、〇〇〇	一九二六年	四〇〇、〇〇〇、〇〇〇						
一九一二年	四、〇三二、七〇〇	一九一七年	三五、二七四、〇〇〇	一九二二年	三九、〇〇〇、〇〇〇								
一九一三年	四、八二二、五〇〇	一九一八年	一、七八三、〇〇〇	一九二三年	五八、五、〇〇〇								
一九一四年	三、八五八、〇〇〇	一九一九年	一、〇〇〇、〇〇〇										

オムスク政府時代の買上高は、（軍位布度）

にして、西比利平定後數年に於ける買上高は、（軍位布度）

歐洲戰爭並に國內戰時代には牛酪は殆ど輸出されなかつた。西比利産牛酪が漸やく輸出せらるゝに至つたのは一九二三年であつて、同年には一八、三五五布度、即ち西比利の總生產量の約三〇パーセントを輸出し、一九二四年には九月までに二十萬布度餘を輸出した。[2]

一九二四—二五年に於けるウラー聯邦の牛酪產額は左の如くである。[3]

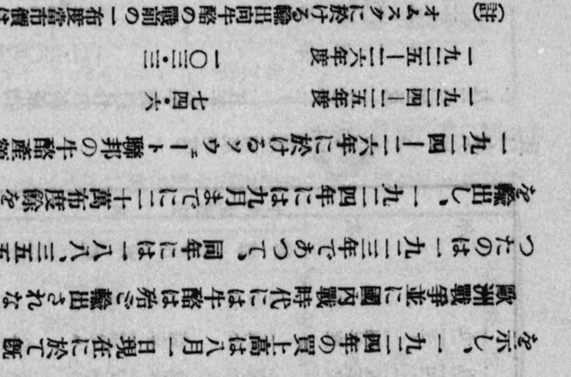
（單位戰前價格、百萬留）

一九二四—二五年度	七四・六
一九二五—二六年度	一〇三・三

（註）オムスクに於ける輸出牛酪の戰前一布度市價は左の如くである。[4]

帝國輸出產業	六九

1) 滿鐵調查課發行露亞經濟調查叢書西比利の行政經濟事情上卷85—6頁
滿鐵調查課發行露亞經濟調查叢書西比利の行政經濟事情上卷87頁
Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928 г. 499頁
4) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 234頁



露國の牛酪輸出及西比利鐵道の歐露巴向牛酪輸送數量調表(單位千布度)

一九〇一年乃至一九一二年の牛酪產額を推定する一參考ともなるものは鐵道による輸送量であつて、それは左の如くである。[1]

年		一九〇一年平均	一九〇六—一〇年平均	一九一一年	一九一二年
輸出向	歐露巴向	三、三三七、三六	四、六七三、一	四、四五二、〇	四、〇六六、六
	西比利向	三、〇〇〇、三	三、三六九、三	三、三一九、六	四、〇六六、六
國內市場向		五三、四一九	六五、四一〇	八五、〇〇〇	七九、〇〇〇
輸送高合計		六、三七、三	八、〇九、三	八、三五、六	八、一九、六

戰爭前西比利產牛酪の販路を百分比を以つて示せば左の如くである。[3]

年	一九〇九—一三年	一九一四年	一九一五—一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年
外國輸出	八五・七	八五・四	八三・七	七三	一九・九	一三・六	二一・三	二五・三
國內市場	一四・三	一四・六	一六・三	二七	八〇・一	八六・四	七八・七	七四・七

1) 滿鐵調查課發行露亞經濟調查叢書西比利の行政經濟事情上卷65頁
Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 225頁
滿鐵調查課發行露亞經濟調查叢書西比利の行政經濟事情上卷86—7頁
3) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 230頁

一九一二年　二三・〇〇乃至一八・二〇[留]
一九一三年　一二・三〇乃至一六・四〇

一九一三年及一九二三―二五年の牛酪以外の畜産物の産額（數量）並にその一九一三年に對する百分比は左の如くである。[1]（單位百萬布度）

年次	生肉及獸脂 實數	生肉及獸脂 百分比	乳汁 實數	乳汁 百分比	禽類卵 實數	禽類卵 百分比	獸糞 實數	獸糞 百分比
一九一三年	一九五・五	一〇〇	一四九・〇	一〇〇	一七・〇	一〇〇	二八・〇	一〇〇
一九二三―二四年度	三六・〇	六四・五	一四八・八	九九・七	一五・九	九三・三	一七・〇	六〇・七
一九二四―二五年度	一六五・〇	八三・五	一五七四・六	一〇五・五	一四・八	八七・一	一七・六	六二・九
一九二五―二六年度	一七八・一	九一・一	一六五二・四	一一〇・八	一四・八	八七・一	二四・二	八六・四

左表は一九二三―二五年の畜産物を戰前價額を以て示せるものである。[2]（單位百萬留）

年次	生肉及獸脂	乳汁	禽類卵	皮革及其他原料品	養蜂及養蠶產物	獸糞	蕃殖	合計
一九二三―二四年度	五五・二	八九・七	五九・四	一九・六	一一・〇	一九五・二	四〇一・八	二、四一〇・五
一九二四―二五年度	六四・二	九四四・八	八八・八	二三・五	一三・五	一八九・四	三三五・五	二、六五三・一
一九二五―二六年度	八四・二	九五二・〇	八八・八	二四〇・八	一六・四	二三二・五	三三八・七	二、八五二・七

一九二五―一九二七年の畜産物の產額は左の如くである。[3]（一九二六―二七年度市價、單位百萬留）

種別	一九二五―二六年度	一九二六―二七年度	一九二七―二八年度
生肉	一、四四五・六	一、六〇四・九	一、七四九・八
乳汁	一、七一二・三	一、八三五・五	一、八五三・二
屠禽	(二一四・六)	(一八二・一)	(二〇六・五)
禽卵	二四五・二	二七五・〇	三〇四・四
養蠶・養蜂產物	(二六・二)	(二八・八)	(三一・七)
大畜皮革	二二五・九	二三四・八	一五〇・三
小畜皮革	一四八・六	一五八・九	一七一・三
獸毛	一六三・二	一七二・七	一七九・一
其他原料品	(一一・〇)	(一一・二)	(一二・七)
獸糞	二一二・五	二三五・九	二四四・〇
蕃殖	五四七・〇	四六六・〇	二六六・〇
合計	四、八六二・一	五、一〇五・八	五、一六九・〇

左表は上記年間に於ける畜產物を數量的に示せるものであつて、牛酪及チーズの產額を一九一三年に比較せる點に特に興味がある。[1]

	一九一三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
生肉（鳥類を除く）（千噸）	一	三、四一九	三、八〇二	四、一二五	四、八六四	三、九七三

1) 2 год пятилетк. 18頁

1) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1926-1927 год. 340-1頁
2) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1926-1927 год. 339頁
3) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928-1929 г. 476頁

次に上記年間に於ける畜業の總產額は金額に於て左の如くである[2]。

（單位百萬留、一九二六―二七年度の市價による）

種別	一九二八年	一九二九年	一九三〇年（註二）	一九三一年（註二）	前年に對する百分比 一九二九年	一九三〇年	一九三一年
羊毛	一、七四五	一、六四〇	一、五四〇	一、五二五	九四・〇	九三・八	九九・〇
卵	一〇、四八六	一〇、一六六	九、八〇〇	一〇、二五〇	九六・九	九六・四	一〇四・六
乳	三一、〇五五	三一、六四四	三二、一〇〇	三一、五〇〇	一〇一・九	一〇一・四	九九・八
肉	三一、〇五五	三一、六四四	三二、一〇〇	三一、五〇〇	一〇一・九	一〇一・四	九九・八
脂	三一、〇五五	三一、六四四	三二、一〇〇	三一、五〇〇	一〇一・九	一〇一・四	九九・八

（註一）　推定額

（註二）　統制數字

一九二八年乃至一九三一年の畜產額は左表に於て略々之を窺ふことが出來る[1]。（單位千噸）

獸毛（千噸）	小形皮革（千枚）	大形皮革（千枚）	卵（十億個）	乳製品（牛乳換算）（百萬噸）
一	一	一	九・〇	二四・五
一四二・八	五七、一七八	一〇、九四四	八・五	二八・八
一五九・四	六一、七七六	一二、一〇二	九・六	三一・二
一六七・六	六八、九二〇	一三、三五九	一〇・五	三三・三
一七四・七	七八、九〇三	一六、六二二	一〇・二	三二・〇
一八〇・〇	七四、七六〇	一四、〇六八	一一・七	三三・七

帝政時代との比較に於けるソヴェート聯邦經濟事情　七二

（註一）　推定額

（註二）　統制數字

（註三）　家畜の變化を計上せず

（註四）　同上を含む

種別	一九二八年	一九二九年	一九三〇年（註二）	一九三一年（註二）	前年度に對する百分比 一九二九年	一九三〇年	一九三一年
A（註三）	五、六七八・八	六、一三五・六	四、八六六・三	五、〇六六・六	一〇八・五	八七・〇	一〇四・四
B（註四）	五、八三一・四	五、四八六・五	四、五三一・五	五、四六七・八	九三・七	八四・五	一二九・六

以上を綜合するに、一九〇三年乃至一九一三年の畜產物、例せば牛酪の如きは約二倍半の增加を示してゐる。牛酪の產額に關しては最近の數字の發表なく、少くとも未だ戰前の生產額に達し居らざるものと推せられる。

1) „Плановое хозяйство" № 12 1930, 361頁
2) „Плановое хозяйство" № 12 1930, 392頁

第五章　漁　業

オ・ア・グリム氏は一八九三年の歐露に於ける漁撈高を六千七百九十萬布度（內、裏海ー三千七十萬布度）とし、エヌ・デ・クズネツォフ氏は同年亞露に於ける漁撈高を二百二十萬布度、それより二十年を經たる一九一三年の全露の漁撈高を七千三百二十一萬九千布度としてゐる。而してこの增加はアラル海及露領極東の增產の結果であり、一方アゾフ海及內陸湖川の生產高の著しく減少せる旨を述べてゐる。[1]

一九〇〇年頃の統計に依るに、歐露の漁撈高は區域別に見て左の如くである。[2]（單位千布度）

	實數	百分比
裏海	三〇、七〇〇	四六
內陸湖川	二五、〇〇〇	三七
アゾフ海	五、四〇〇	八
黑海	二、七〇〇	四
バルト海	二、〇〇〇	三
北氷洋（白海を含む）	一、二〇〇	二
合計	六七、一〇〇	一〇〇

ペ・エフ・ウンテルベルゲル氏の著『一九〇六ー一〇年に於ける沿黑龍地方』は露領の最大漁場たる同地方の漁業に關する統計を揭げてゐるが、同氏によれば、日本の租借漁區及其他漁區の一九〇七年乃至一九一〇年に於ける露國漁業家の漁撈高及其仕向別は左の如くである。[1]（單位千布度）

年次	生魚漁撈高	日本仕向高	歐露仕向及現地需要高	
			魚類	魚卵
一九〇七年	二、二九一	一、九九一	三〇〇	
一九〇八年	二、六九一	二、二六三	三八〇	四八
一九〇九年	四、二六三	三、二三六	九三一	九八
一九一〇年	六、八九一	五、二一九	一、六七二	

この外露國の領海に於ける日本漁業會社の收獲を見るに左の如くである。（單位千布度）

年次	租借漁區に於ける漁撈高	黑龍江地方に於ける買收高	合計
一九〇七年	八二二	一、二二一	二、〇四三
一九〇八年	一、〇〇四	一、四五三	二、四五七
一九〇九年	一、八六一	一、七七七	三、六三八
一九一〇年	二、四二一	一、八七四	二、四九五
一九一一年	四、六三二	一、七一七	六、三四九

『露國及諸外國の農村經濟統計集』（農務局發行）は漁業產額に關し統計の出所を異にする場合幾多の相違せる數字を併載してゐるが、これに據るに、一九一四年の漁撈高は金額に於て約五千萬留と見られ、ま

1) П. Дербер и М. Шер. Очерки хозяйственной жизни Дальнего Востока. 1927 г. 145頁
2) Большая энциклопедія. № 16. 470頁

1) Статистический ежегодник на 1914 г. 126-7頁

た戰前年平均漁獲高は約一億留こも見られる。價格に依る統計數字の異なる二つの理由は、土地の異なるに應じて魚類及其他水產物の評價を異にする點にあつて、斯る差は往々四十割に及ぶ事さへある。[1] また一說によれば、一九一三年の漁獲高は七三、二一九、〇〇〇布度を示し、これは世界の漁獲高の一三%を成し、其金額は一億四千八百萬留に達したこしてゐる。[2]

左表は狩獵產額を含むものであるが、漁撈高の增加に關する大體の趨向を知ることが出來る。

（單位戰前百萬留）

年次			
一九二三―二四年度[3]	一四九	一九二六―二七年度[5]	二〇九
一九二四―二五年度[4]	一七三	一九二七―二八年度[5]	二〇六
一九二五―二六年度[5]	一九二		

ソウェート小百科辭典に依るこ、一九一三年の露國の漁獲高は現在ソウェート聯邦の領土面積に於て八三五、五〇〇噸を示し（註）、一九二八年のそれは一、〇三〇、〇〇〇噸である。[6]

（註）布度に換算すると、五一、八〇〇、〇〇〇布度となり、前揭數字と大差を生ずるが、その理由は判然しない。

一九二九年及一九三〇年の漁獲成績に關しては『イズウェスチャ』紙の發表があるが、それによるこ、一九二九年の漁獲高は九三三、三〇〇噸にして、一九三〇年には前年に對し四〇%を增し、一、三〇六、六〇〇噸を示してゐる。[7]

以上を綜合して戰前及戰後の漁業の發達狀況を探るに、一九〇〇年乃至一九一三年の期間に於ける漁獲高の增加率は九・二%である。これは上揭一九〇〇年頃の漁獲高が亞露を含まざるが故に、勿論條件的なる數字に過ぎないが、假りに一九〇七年（日露戰爭後）の極東の漁獲高を一九〇〇年に加算するも、五・五%强の增加を示してゐる。次に戰後に於ては一九一三年乃至一九三〇年をこつて見るこ五六・四%の增加を示し、ソ聯の生產

1) Статистический ежегодник на 1914 г. 126頁
2) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウエート聯邦の輸出入貿易　132頁
3) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1926-1927 год. 287頁
4) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928 г. 464頁
5) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928-1929 г. 435頁
6) Малая советская энциклопедия. Т. 7. 538頁
7) „Известия" 4 янв. 1931.

第六章　狩獵業

一九一〇年ウイン市に於ける國際狩獵博覽會の作成せる一九〇七年乃至一九〇九年の世界の毛皮總取引高に關する統計は露國の領分を七二—七五パーセントとし價格にして四千萬留と見てゐる。[1]

一九一三年ロシアに於ける毛皮產額は數量にて四千二百五十萬枚、價額にて三千六百萬留を示した。[2]

一九二三—二四年度に於ける毛皮の總產額は三九、二七一、四二九留にして、その翌年一九二四—二五年度の生產額は三五、一〇五、八九四留である。[3]

一九二五—二六年度以降一九二七—二八年度に至る三箇年に對する資料がないが、この年間に於ける狩獵產額の增加は相當めざましく、一九二八—二九年度に及んでこれは一躍八千萬留に上つてゐる。[2]

最近の狩獵產物の內容は戰前のそれと稍々趣を異にしてゐる。即ち左表の如くである。[2]（單位千枚）

	一九一三年	一九二八—二九年度
兎	一六、〇〇〇	九、〇〇〇
栗鼠	一五、〇〇〇	一五、九〇〇
タルバカン（スリク）	六、〇〇〇	五、三〇〇
土撥鼠（スロー）	三、〇〇〇	五一九
臭猫	一、二〇〇	一、六〇〇
白イタチ	四五〇	九三七
狐	二五〇	三二〇
北極狐	七二	四八

なほ一九二八—二九年度には戰前の產額に於て極めて僅小なるもの並に當時皆無のものが含まれてゐる。即ち腮鼠（五・四百萬枚）、鼠（二・七百萬枚）、モグラ（二・四百萬枚）、猫（三・七百萬枚）、モルモット（百萬枚）の如きである。[1]

露國の毛皮は大部分國外へ輸出せられ、毛皮業の消長は其の輸出高に最も良く表はれてゐる。一九一一年乃至一九一四年の毛皮輸出數量及價格は左の如くである。[2]（單位布度及留）

年次	數量	價格
一九一一年	七三七、五〇二	一五、七五六、九二〇
一九一二年	九四七、八一〇	二二、八七六、一五二
一九一三年	八一五、五二三	一七、〇五二、〇四七（註）
一九一四年	五三七、〇〇〇	一二、六七九、〇〇一

（註）一說に一九一三年の毛皮輸出高は二千七百萬留とある。[1]

革命後の毛皮輸出高を見るに左の如くである。[3]（單位百萬留）

一九二一—二二年度	一六	一九二三—二四年度	五一
一九二二—二三年度	三一	一九二四—二五年度	六四

一九二四—二五年度は毛皮輸出の順調に向へる第一年であつて、爾來對外輸出は異常の進步を示し、一九

1) П. Дербер и М. Шер. Очерки хозяйственной жизни Дальнего Востока. 1927 г. 171頁
2) Малая советская Энциклопедия. № 7. 66頁
3) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウエート聯邦の資源と產業毛皮編 150—1頁

1) Малая советская энциклопедия. № 7. 66頁
2) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウエート聯邦の資源と產業毛皮編 149頁
3) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウエート聯邦の資源と產業毛皮編 150—1頁

二八―二九年度に於ては一億一千六百萬留に及び、輸出品も鞣製又は染毛等の加工品を加へ、所謂輸出の工業化が窺はれるに至つた。[1]

戰前の毛皮と最近の毛皮業との業態を比較するに、戰前の狩獵業に依る年平均收獲は、國内市場に於ける價格に依れば二千五百萬留乃至三千萬留、國際市場に於ける價格に依れば三千二百六十萬留乃至三千八百六十萬留にして、今若し現在の露國の狩獵業が戰前の程度に恢復せるものとすれば、市價の昂騰等の事情により、その年平均收入は國内市場に於ける價格に依れば五千萬留乃至六千萬留、國際市場に於ける價格に依れば六千四百六十萬留乃至七千七百六十萬留でなければならないと言はれる。[2] 然らば一九二八―二九年度に關する上記の成績はソ聯の毛皮業――狩獵業が戰前の成績を既に突破せる事を示すものでなければならぬ。

1) Малая советская энциклопедия № 7. 66頁
2) Торгово-промышленный и финансовый словарь. II. 867頁

第七章　工　業（鑛業を含む）

第一節　總生產額

十九世紀末は露國の工業の資本主義的發達の傾向の最も顯著な頃であつて、當時の鑛業及工業の總生產額並に勞働者數は左の如き增加を示してゐる。[1]（單位百萬留、千人）

	總生產額	勞働者數
一八八七年	一、三三五	一、三一七
一八九〇年	一、五〇三	一、四二四
一八九三年	一、七三五	一、五八二
一八九六年	二、五九〇	一、八一八
一八九七年	二、八四〇	二、〇九六

即ちこの十箇年に生產額は一一三パーセント、勞働者は五九パーセント增加したわけである。

戰前十箇年に關する工業總產額に關する統計を缺くため、これを補ふ目的で左記部門別によりこの間の發達狀況を窺ふ事とする。即ち一九〇〇年を一〇〇とし一九一三年の鑛業及工業の生產額を企業別に比較するに左の如くである。[2]

1) Торгово-промышленный и финансовый словарь. II. 811頁
2) Торгово-промышленный и финансовый словарь. II. 812頁

採炭量	二二四	銅鑛採掘量（一九〇六年との比）	三七七
採油量	八九	石綿採掘量（一九〇一年との比）	三五五
鉄鑛製造量	一六二	亜麻紡績量	一三八
鐵及鋼製造量	一八四	製紙量	一四五
農業機械製造量	五〇〇	製糖量	二九二
南露の鐵鑛採掘量	二〇〇	煙草加工量	一七七

而してこれを露國の輕工業の主體である棉花工業及毛織工業に就いて見るとき上記年間の發達は左の如くである。(%)

棉花工業			
紡績糸	一四一（一九一三年）	粗布	一四六（一九一二年）
綿糸	四九一（同上）	染布	二五九（同上）
毛織工業			
毛織糸	一四五（一九一二年）	精製品	一三四（一九一二年）
粗布	一四〇（同上）		

上記の部門について見るに一九〇〇年乃至一九一三年の期間に於ける工業生産額の増加率は大約二三二パーセントと見てよい。

一九一三年乃至一九一七年に於ける大規模鑛業及工業の生産額を一九一三年の市價に見積るならば左の如くである。[1]（單位百萬留）

一九一三年	五、六二〇・八
一九一四年	五、六九〇・四
一九一五年	六、三八九・七
一九一六年	六、八三一・四
一九一七年	四、三四四・一

戰後のロシアの工場數、勞働者數及び生産高は革命後波蘭、リトワ、ラトヴィヤ及エストニヤの如き小共和國が露國から分離したために著しく減少した。右の分離に依る減少を一九一二年現在の價値に於て見積るに左の如くである。[1]

種別	工場數		勞働者數		生産額		一工場當	
	實數	%	實數（千人）	%	實數（百萬留）	%	勞働者數	生産額（留）
現在の版圖（註）分離したる地方	二三、七五	六八・九	一、九六・七	八二・七	六、〇五九・二	八一・四	二九	四九九、八六九
計	六、二九六	三二・一	四〇三・七	一七・三	一、三八三・四	一八・六	六六	三三三、三三三
	一九、九七二	100.0	二、三二四・四	100.0	七、四四二・六	100.0	二六	三三二、六一〇

（註）西比利及びトルケスタンを含まず。

左表は右表に表はれたる數字を企業別せるものである。

工業別	工場數			勞働者數（單位千）			産額（單位百萬留）			分離せる諸縣に屬する百分比	
	現時の露國	分離せる諸縣	計	現時の露國	分離せる諸縣	計	現時の露國	分離せる諸縣	計	勞働者數	産額
綿織工業	五九二	二四六	八三七	四三九・六	七九・八	五〇九・五	一、三八八・八	三六四・四	一、七五三・二	一六・五	二〇・三
食料品工業	四、二九三	三、〇〇〇	七、二九三	二三六・七	四四・九	二八一・六	一、五八八・五	一五八・九	一、七四七・四	一五・九	九・三

1) Энциклопедический словарь „Гранат". 41-II. 181頁

1) На новыхъ путяхъ. Итоги новой экономической политики 1921-1922 гг. Вып. 3. 161-2頁

年	一九一三年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
大工業														
實數	九六〇	四四〇	三九〇	一四〇	一〇〇	一四〇	一七〇	二〇〇	二四〇	二七〇	三〇〇	三三〇	三六〇	四〇〇
A1) 一九一三年に對する百分比	100.0	四五・八	四〇・〇	一四・六	一〇・三	一四・六	一七・五	二〇・六	二四・七	二七・八	三〇・九	三四・〇	三七・一	四一・二
實數	100.0	四五・八	四〇・〇	一四・六	一〇・三	一四・六	一七・五	二〇・六	二四・七	二七・八	三〇・九	三四・〇	三七・一	四一・二
B2) 一九一三年に對する百分比	100.0	四五・八	四〇・〇	一四・六	一〇・三	一四・六	一七・五	二〇・六	二四・七	二七・八	三〇・九	三四・〇	三七・一	四一・二
實數	100.0	四五・八	四〇・〇	一四・六	一〇・三	一四・六	一七・五	二〇・六	二四・七	二七・八	三〇・九	三四・〇	三七・一	四一・二
C3) 一九一三年に對する百分比	100.0	四五・八	四〇・〇	一四・六	一〇・三	一四・六	一七・五	二〇・六	二四・七	二七・八	三〇・九	三四・〇	三七・一	四一・二
實數	100.0	四五・八	四〇・〇	一四・六	一〇・三	一四・六	一七・五	二〇・六	二四・七	二七・八	三〇・九	三四・〇	三七・一	四一・二
D4)														

次に歷年に依る最近三年間の工業成績を現に年々約三八パーセントの增加を示してゐる。5)

第七章　工業

次に歷年に依る最近三年間の工業成績を現に年々約三八パーセントの增加を示してゐる。5)

第七章　工業

1) Большая советская энциклопедия Т. 8. 327. 334-5頁
2) 滿鐵調査課發行露語經濟調査雜誌ソヴェート聯邦經濟十年史　150頁
3) Энциклопедический словарь „Гранат." 41-II. 181頁
4) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917-1927 гг. 230頁
5) „Пути индустриализации." № 5-6. 1931

帝政時代の比較的發展せるソヴェート聯邦事情

合計	木材加工業	化學工業	毛織業	製油業	石炭工業
三七五	三九	四八	一	一	三〇
一〇〇・〇	一〇・四	一二・八	〇・三	〇・三	八・〇
三七五	三九	四八	一	一	三〇
一〇〇・〇	一〇・四	一二・八	〇・三	〇・三	八・〇
三七五	三九	四八	一	一	三〇
一〇〇・〇	一〇・四	一二・八	〇・三	〇・三	八・〇
三七五	三九	四八	一	一	三〇
一〇〇・〇	一〇・四	一二・八	〇・三	〇・三	八・〇

合計	鑛物ソリヤス工業	製帽業	亞麻紡織業	絹織業	皮革業	採鑛及冶金業	木材加工業	化學工業	毛織業	製油業	石炭工業
三七五	三八	三六	八四	三五	三五	三二	三九	四八	一	一	三〇
一〇〇・〇	一〇・一	九・六	二・二	九・三	九・三	八・五	一〇・四	一二・八	〇・三	〇・三	八・〇
三七五	三八	三六	八四	三五	三五	三二	三九	四八	一	一	三〇
一〇〇・〇	一〇・一	九・六	二・二	九・三	九・三	八・五	一〇・四	一二・八	〇・三	〇・三	八・〇
三七五	三八	三六	八四	三五	三五	三二	三九	四八	一	一	三〇
一〇〇・〇	一〇・一	九・六	二・二	九・三	九・三	八・五	一〇・四	一二・八	〇・三	〇・三	八・〇
三七五	三八	三六	八四	三五	三五	三二	三九	四八	一	一	三〇
一〇〇・〇	一〇・一	九・六	二・二	九・三	九・三	八・五	一〇・四	一二・八	〇・三	〇・三	八・〇

革命後殊にその直後に於ける工業に關する統計は農業に於けるが如く全部に於て、出所に於て相當信用ある事を示してゐる。左に大中工業に關し重要なる二の資料を比較してみる。

（單位百萬留爾）

（單位百萬留、一九二六—二七年度の市價による）

年度	實數 生產手段	實數 日用品	實數 計	前年度に對する百分比 生產手段	前年度に對する百分比 日用品	前年度に對する百分比 計
一九二八年度	四、七八九・二	六、三三六・二	一一、一二五・四	一二四・二	一二一・七	一二三・七
一九二九年度	六、一五五・七	七、五七二・五	一三、七二八・二	一二八・五	一一九・五	一二三・四
一九三〇年度	八、六五三・九	八、二三〇・九	一六、八八四・八	一四〇・六	一〇八・七	一二三・〇

一九二九—三〇年度の工業產額は、ソ聯の全產業生產額の五三パーセント、商品總額の七六パーセント、勞働者數三百九十萬人（中、特許工業—三百五十萬人）を占めた。[1]

ソ聯の工業生產額は主として特許（大規模）工業に係り、これは一九二九—三〇年度に於て總產額の七六・七パーセント、商品生產額の八〇・七パーセント、勞働者數の八八・九パーセントを占めてゐる。[2]

上述せるところはソ聯の所謂大規模工業に關する數字であつて、小規模工業を含まない。小規模工業の產額は、一九二九年—四、九九二・六百萬留、一九三〇年—五、三六八・九百萬留、一九三一年（統制數字）—五、七七三百萬留であつて、[3] ソウェート小百科辭典によると、一九一三年及最近の總產額は左の如くである。[4]

1) Малая советская энциклопедия. Т. 8. 340頁
2) Малая советская энциклопедия. Т. 8. 340頁
3) „Плановое хозяйство." № 12. 1931. 357頁
4) Малая советская энциклопедия. Т. 8. 340頁

年度	實數（單位百萬留） 總生產額	實數（單位百萬留） 內、鑛山及工場產額（註）	總生產額の一九一三年に對する百分比
一九一三年	八、四〇〇	六、四〇〇	一〇〇・〇
一九二四—二五年度	五、七〇〇	四、〇〇〇	六七・〇
一九二五—二六年度	七、六〇〇	五、七〇〇	八九・九
一九二六—二七年度	八、七〇〇	六、七〇〇	一〇三・九
一九二七—二八年度	一一、二〇〇	八、三〇〇	一三三・九
一九二八—二九年度	一三、一〇〇	一〇、二〇〇	一五六・〇
一九二九—三〇年度	一六、三〇〇	一三、四〇〇	一九六・四

（註）鑛山及工場產額とあるは專ら特許（大規模）工業であると解せられる。

工業產額が戰前の程度に恢復したのは一九二六—二七年度であつて、當年度に於て戰前一九一三年に對する一〇三・九パーセントを示した。

上記の資料を綜合して戰前及戰後の鑛業及工業の發達を比較するに、產物を石炭、石油、鐵鑛、鐵及鋼、農業機械、南露の鐵鑛、銅鑛、石綿、紡績糸、綿糸、毛織物、亞麻紡績、紙類、砂糖、煙草に限定する場合、一九〇〇年に對する一九一三年の增產率は約一四〇パーセントにして、一九一三年に對する一九二九—三〇年度のそれは九六・四パーセントを示してゐる。

第二節　重工業

第一項　石炭

一九一三年トロント（加奈陀）に開催せられたる第十二回萬國地質學會議に際して行はれたる世界の埋炭量に關する專門的調査によるこ、現在迄に發見せられたる世界の石炭資源は七、三九三、五五〇百萬佛噸であつて、うち戰前露國の（波蘭のドムブロフスキイ炭田を除く）埋炭量は二三一、四〇〇百萬佛噸又は世界の埋炭量の三・一％を占め、世界諸國中埋炭量に於て第五倍を占めてゐる。[1]

一九〇〇年乃至一九〇七年に至る採炭高は左表に示す如くであるが、[2] 現在のソウェート聯邦の領土に於ける採炭高を得るには波蘭を除外せねばならぬ。（單位千布度）

年次	ドン炭田	波蘭	其他	合計
一九〇〇年	六七一、六五二	二五一、八二五	六二、八五〇	九八六、三二七
一九〇一年	六六四、八一一	二五六、六七九	八七、四六二	一、〇〇八、九五二
一九〇二年	六五四、九〇二	二五九、二七〇	九一、〇六七	一、〇〇五、二四〇
一九〇三年	七〇七、一四一	二九二、四一六	九一、三一六	一、〇九〇、八七三
一九〇四年	七九八、五七〇	二八八、一〇〇	一一〇、四三七	一、一九七、一〇七
一九〇五年	七九五、九三〇	二一八、八八〇	四六、四九〇	一、〇六一、三〇〇
一九〇六年	九〇八、六八〇	二八二、七六〇	六九、〇九〇	一、二六〇、五三〇
一九〇七年	一、〇八〇、〇〇〇（註）	三三〇、〇〇〇（註）	九〇、〇〇〇、（註）	一、五〇〇、〇〇〇（註）

（註）概數

一九〇八年乃至一九一三年の採炭量は左の如くである。[1] 但し左表の數量は戰前の露國の面積に關するものであつて、革命後の面積の變化を考慮してゐない。（單位千布度）

一九〇八年	一、六〇九、〇五九	一九一一年	一、七三九、一三八
一九〇九年	一、五九〇、六八五	一九一二年	一、九〇三、五八四
一九一〇年	一、五二一、九八四	一九一三年	二、二一三、八一二

左に掲げたる一九一三年の採炭量に關する資料は總計に於て前掲資料こ多少異つてゐるが、ドムブロフスキイ炭田（波蘭）の採炭量を明かにし、現時のソウェート聯邦の版圖に於ける採炭量を知り得る點に興味がある。[2]（單位百萬布度）

ウラル地方	七〇	ドン	一、五六一
西比利	一四五	ドムブロフスキイ（波蘭）	四二六
高架索	四	合計	二、二二四
モスクワ附近	一七		

即ち總計二十二億二千四百萬布度よりドムブロフスキイ炭田の四億二千六百萬布度を差引くに、ソウェート聯邦の領土面積に於ける一九一三年の採炭量は十七億九千八百萬布度こなる。

1) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウェート聯邦の資源と產業石炭業編 1頁
2) Хрулевъ С. С. Финансы Россіи въ связи съ экономическимъ положеніемъ ея населенія. 附表 XXVI.

1) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. XXVII頁
2) Ракетовъ А. Очеркъ экономическаго и финасоваго положенія современной Россіи по офиціальнымъ даннымъ. 6頁

革命後に於ける石炭産額は各資料を綜合すること大體左の如くである。（單位千噸）

年次	ドン炭田	ウラル炭田	東部西比利炭田	合計
一九一三年	二九一・五	三〇	一・一	二九二・八
一九一九年	三一二・二	一〇	一・三	三二三・六
一九二〇年	三一〇・〇	〇	一・〇	三一一・〇
一九二一年	三七・八	〇	一・〇	三八・八
一九二二年	三五・〇	〇	一・〇	三六・〇

右の中無煙炭採掘高は左の如くである。（單位千布度）

年次	ドン炭田	炭フドスムアロ田イ	炭ウラル田	附モスクワ近炭田	炭高架田泰	タトンルケ炭田ス	利西部炭比田	利東部炭比田	合計
一九一三年	一、四三五・〇	四六、一一〇	七、四八〇	八、一四〇	四、三五七	八、四〇六	五、六〇〇	七、七五〇	二、一〇〇、〇〇五
一九一九年	一、六九三・〇	三一、〇一〇	八、一〇〇	一〇、〇〇〇	四、〇八四	九、四〇一	六、四〇〇	八、一五四	二、一七五、四三五
一九二〇年	一、六五六・五	一	六、八六〇	一二、〇六六	三、八六八	一〇、三四一	六、一六四	八、四九六	一、九四四、六六
一九二一年	一、三七六・四	一	四、三三	八、三四八	一	八、六四〇	五、六四八	七、一五〇	一、七四、六六
一九二二年	九七、三〇〇	一	二、〇〇〇	四、〇〇〇	一	二、三四〇	一、四〇〇	一、八〇〇	一〇、三〇〇

帝政時代との比較に於けるソヴエート聯邦鑛業事情

一九一三年乃至一九一七年の各炭田別採炭量は左の如くである。[1]（單位千布度）

年次	ドン炭田	炭フドスムアロ田イ	炭ウラル田	附モスクワ近炭田	炭高架田泰	タトンルケ炭田ス	利西部炭比田	利東部炭比田	合計
一九一三年	一、四三五・〇	四六、一一〇	七、四八〇	八、一四〇	四、三五七	八、四〇六	五、六〇〇	七、七五〇	二、一〇〇、〇〇五
一九一九年	一、六九三・〇	三一、〇一〇	八、一〇〇	一〇、〇〇〇	四、〇八四	九、四〇一	六、四〇〇	八、一五四	二、一七五、四三五
一九二〇年	一、六五六・五	一	六、八六〇	一二、〇六六	三、八六八	一〇、三四一	六、一六四	八、四九六	一、九四四、六六
一九二一年	一、三七六・四	一	四、三三	八、三四八	一	八、六四〇	五、六四八	七、一五〇	一、七四、六六
一九二二年	九七、三〇〇	一	二、〇〇〇	四、〇〇〇	一	二、三四〇	一、四〇〇	一、八〇〇	一〇、三〇〇

1) Статистический сборник за 1913–1917 гг. Вып. I. 78頁

年次	一九二三年十二月特別期	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
實數 A[1]	—	一六、六〇〇	一一、一四五	一三、四六〇	一六、四〇〇	一八、六〇〇	二六、〇〇〇	三五、〇〇〇	四五、〇〇〇	六〇、〇〇〇	七五、〇〇〇
實數 B[2]	—	一六、〇四五	一一、一四五	一三、四六〇	一六、四〇〇	一八、六〇〇	二六、〇〇〇	三五、〇〇〇	四五、〇〇〇	六〇、〇〇〇	七五、〇〇〇
實數 C[3]	—	一六、六〇〇	一一、一四五	一三、四六〇	一六、四〇〇	一八、六〇〇	二六、〇〇〇	三五、〇〇〇	四五、〇〇〇	六〇、〇〇〇	七五、〇〇〇
實數 D[4]	三六、二一一・五（註三）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九一三年に對する百分比 A[5]	—	一〇〇	六九・三	八一・〇	九八・四	一一二・〇	一五六・六	二一〇・八	二七〇・〇	三六一・四	四五〇・〇
一九一三年に對する百分比 B[6]	—	一〇〇	六九・三	八一・〇	九八・四	一一二・〇	一五六・六	二一〇・八	二七〇・〇	三六一・四	四五〇・〇
一九一三年に對する百分比 C[7]	（註二）六・八	一〇〇	六九・三	八一・〇	九八・四	一一二・〇	一五六・六	二一〇・八	二七〇・〇	三六一・四	四五〇・〇

（註一）括弧數字は百萬布度單位數量である。

（註二）本表括弧内數字は百萬布度單位數量である。

（註三）豫炭一、九七一・五を含まず。

1) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウエート聯邦經濟十年史 150頁及155頁
2) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927–1928 г. 498頁
3) 2 год пятилетки. Коммунистическая академия. 15頁
4) „Пути индустриализации." № 5–6. 1931.
5) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウエート聯邦經濟十年史 150頁及155頁
6) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927–1928 г. 498頁
7) 2 год пятилетки. Коммунистическая академия. 15頁

石炭業の成績の最も惡化せる一九二〇—二一年當時の採炭量に關しては斷片的ではあるが、左の數字がある。（單位千噸）

年度	A1)	B2)	C3)
一九二〇—二一年度	七、六一七・七（四七二・三）	七、四七一・〇（四六三・二）	八、二三五・八（五一〇・〇）
一九二一—二二年度	九、四七九・〇（五八七・七）	九、五〇三・三（五八九・二）	一、〇〇〇・六（六二〇・四）

（註）本表括弧內數字は百萬布度單位數量である。

一九三一年よりソ聯の會計年度は曆年度に改正せられた。左表は曆年による石炭產額を示すものである。（單位千噸）

年次	國家計畫院調4)			最高國民經濟院調5)	
	石炭	炭骸	泥炭	石炭及無煙炭	炭骸
一九二八年	三五、七〇〇	四、二〇〇	五、三〇〇	三四、六二六	四、一八四
一九二九年	四一、三〇〇	五、〇〇〇	五、五〇〇	四〇、三四九	四、九七七
一九三〇年	五六、七〇〇	六、三〇〇	六、四〇〇	四六、九九〇	六、一五八
一九三一年（註）	八三、六〇〇	九、四〇〇	一二、五〇〇	—	—

（註）統制數字

1) На новыхъ путяхъ. Итоги новой экономической политики 1921-1922 гг. Вып. 3. VII頁
2) Экономическое обозрение. Вып. 5. 10頁
3) Экономическое положение СССР и неурожай. 8頁
4) „Плановое хозяйство“. Госплан. №12. 1930. 343頁
5) „Пути индустриализации“. № 5-6. 1931.

これを要するに一九〇三—一三年に於いて石炭の產額は約二倍（一〇二・九パーセント增）に達し、一九一三年乃至一九三〇年に於ける增產率は九六・二パーセントである。

第二項　石油

露國は世界有數の石油國であつて、二十世紀初葉にはその產額に於て世界中の首位を占めてゐた。即ち一九〇一年の其の採油量は世界の採油量の五三パーセントをなし、米國の採油量は三九パーセント、其他の諸國は合せて八パーセントであつた。一九〇〇年乃至一九〇七年の採油量は左の如くである。1)（單位千布度）

年次	全國	バクー油田
一九〇〇年	六三三、五七八	—
一九〇一年	七〇二、七二三	六七二、〇〇〇
一九〇二年	六七二、九六九	六三八、〇〇〇
一九〇三年	六三〇、一二五	五九八、〇〇〇
一九〇四年	六六四、六七九	六一七、〇〇〇
一九〇五年	四一〇、〇〇〇	四一〇、〇〇〇
一九〇六年	四四七、〇〇〇	四四九、〇〇〇
一九〇七年	五一六、五五九	—

1) Хрулевъ С. С. Финансы Россіи въ связи съ экономическимъ положеніемъ ея населенія. 附表 XXVI.

年次	實數						數					
	A[2]	B[3]	C[4]	D[5]	E[6]	F[7]	A[8] すべて九百一分三比年に對する	B[9]				
一九一三年	九三五・一					九四・九	100					
一九一九年	八四六・一						八九・六	100				

革命後の採油量に關し出所を異にする各種數字を綜合するに、何れも略々相似たる點あり、大體に於てその眞相を把握する事が出來る。即ち左の如くである。（單位千噸　括弧内一百萬布度）

年次	全國	バクー油田	グロズヌイ油田	世界採油量に對する百分比 露國	世界採油量に對する百分比 米國
一九一一年	六三一・一	六〇〇・〇	三〇・七	五〇	四二
一九一二年	七〇六・三	六七一・〇	三四・八	五三	四六
一九一三年	六七〇・五	六三六・〇	三二・一	四四	四六
一九一四年	六三〇・二	五九七・〇	三三・八	四二	四九
一九一五年	六五六・四	六一五・〇	四〇・一	三九	五二

一九〇五年の第一革命は露國の石油業の根幹であるバクー油田の石油業の財産の約四分の三を奪つたと謂はれ、その結果後年のバクー油田乃至はロシア全國の採油量は著しく減少を示してゐる。[2] 一九〇九年乃至一九一三年の全國採油量及バクー油田の採油量は左の[3]如くである。（單位百萬布度）

年次	全露油田	バクー油田
一九〇九年	五六三	四九二
一九一〇年	五八八	四八二
一九一一年	六三一	五一〇
一九一二年	七〇六	六七一
一九一三年	六七〇	六三六

別途の資料に據るに多少の差異はあるが大體に於て前掲數字に似てゐる。[1]（單位百萬布度）

帝政時代との比較に於けるソヴェート聯邦經濟事情　九四

一九一三年乃至一九一七年の採油量は歐洲戰爭に禍されて稍低下の傾向にあり、[1]

年次	バクー油田	グロズヌイ油田	ムウバラル油・田エ	海クバン油・田黒	合計
一九一三年	四七四・六	七三・七	五・三	四・〇	五三・四
一九一四年	四三六・二	九八・四	七・二	五・三	五六三・九
一九一五年	四四五・八	八八・二	一六・六	四・〇	五五六・一
一九一六年	四四七・九	一二・七	一六・五	七・六	五四九・二
一九一七年	四〇三・八	七・八	五・六	三・三	四四九・六

（單位百萬布度　括弧内數字一單位千噸）

1) Статистический сборник за 1913–1917 гг. Вып. I. 78頁
2) 調査課發行露邦經濟調査叢書ソヴェート聯邦經濟十年史 150頁及155頁
3) На новых путях. Итоги новой экономической политики 1921-1922 гг. Вып. 3. 66頁
4) Статистический сборник за 1913–1917 гг. Вып. I. 203頁
5) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927–1928 г. 498頁
6) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928–1929 г. 466頁
7) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927–1928 г. 498頁
8) 滿鐵調査課發行露邦經濟調査叢書ソヴェート聯邦經濟十年史 150頁及155頁
9) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927–1928 г. 498頁

年次	實數	百分比	年次	實數	百分比
一九一三年	九・三	一〇〇	一九二七―一八年度	一一・八	一二六・九
一九二五―一六年度	八・五	九一・四	一九二八―一九年度	一三・七	一四七・三
一九二六―一七年度	一〇・三	一一〇・八	一九二九―三〇年度(註)	一六・二	一七四・二

(註) 統制數字。

次に最近三年間に於ける採油量(原油)に關しては勝邦最高國民經濟院及勝邦國家計畫院の數字があるが、左に兩者を對照して見る。(單位千噸)

年次	勝邦最高國民經濟院調[1]	勝邦國家計畫院調[2]
一九二九年	一二、〇三六・二	一二、四〇〇
一九三〇年	一四、一〇五・〇	一四、四〇〇
一九三一年	一八、四九五・一	一八、九〇〇
一九三二年特設會計期	五、二七〇・三	
一九三三年(註)	一	三五、五九〇

(註) 統制數字。

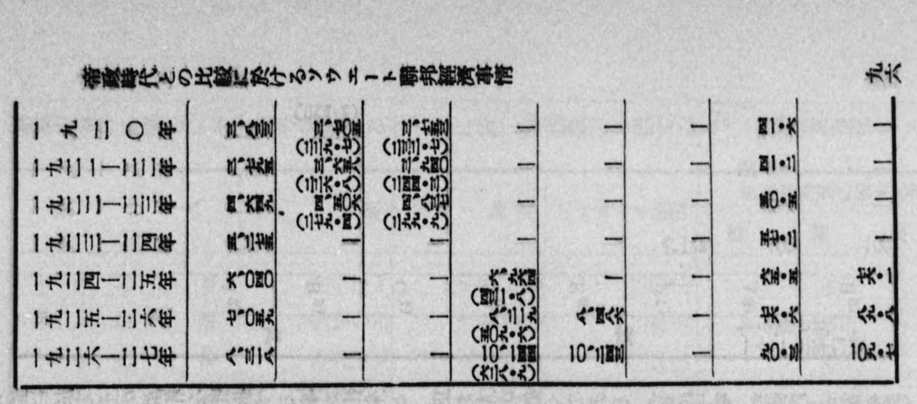
上記の資料を綜合するに、一九〇三―一三年に於ける採油量は一〇・六パーセントの減少を示してゐるが、一九一三年乃至一九三〇年の期間に於けるその增産率は約一〇〇パーセントを成してゐる。

第三項　金

一九〇一年乃至一九〇三年の採金高は左の如くである[3]。

年次	布度	ア	ン	ト
一九〇一年	二二、三六九	二三一九		
一九〇二年	二、二二八			
一九〇三年	二、一一九			

尙共產主義アカデミイの調査によると、一九二五―二六年度乃至一九二八―二九年度の採油量並にその一九二三年との比較は左の如くである[1]。(單位百萬噸)



1) „Пути индустриализации." № 5–6. 1931.

2) „Плановое хозяйство." № 12. 1930. 343頁

3) Большая энциклопедия. № 21. 394頁

1) 2 год пятилетки. 15頁

一九一三年乃至一九一七年の採金高は左の如くである。[1]（單位布度）

一九一三年(註)	三、七一四・六
一九一四年	四、〇五六・〇
一九一五年	二、九三六・〇
一九一六年	一、八五八・〇
一九一七年	一、八八五・五

（註）ソウェート小百科辭典によると一九一三年の採金高は三、〇〇三・五布度（四九、二〇〇キログラム）である。[2]

戰時共產主義時代の產金に關しては全然資料を見ない。新經濟政策實施後に於ける產金額は左の如くである。[3]（單位布度）

一九二一―二二年度	三、二七四・四キログラム）
一九二二―二三年度	七〇〇（一一、四六六・〇キログラム）
一九二三―二四年度	一、〇五五（一七、二八〇・九キログラム）

西比利百科辭典[4]によると、一九一三年の露國の產金は三五、七九七キログラムであつて、一九二二年乃至一九二六年の產額は左の如くである。

一九一三年	三五、七九七
一九二二年	六、二五六
一九二三年	九、八八四
一九二四年	一四、〇四二
一九二五年	二一、七三〇
一九二六年	二四、九三八

上記年代以後に於ける產金額は全く公表せられてゐないが、大體に於て戰前の產額に達せざる事は察するに難くない。

第二項　鐵

ケ・イ・ボグダノーウイチ敎授に據れば、ソウェート聯邦を通じ、その鐵鑛の埋藏量は千二十億布度、即ち約四百三十億布度の鐵を埋藏し、その一半は確定的數量にして他の一半は想定に依るものである。[1]

まづ一九〇三年乃至一九一三年の銑鐵製造高を示すに左の如くである。[2]（單位百萬布度）

一九〇三年	一五〇・二	一九一一年	二一九・四
一九〇八年	一七一・一	一九一二年	二五六・三
一九〇九年	一七五・三	一九一三年	二八二・四
一九一〇年	一八六・五		

左表の數字はトルケスタン地方及波蘭を除きたる銑鐵製造高を示したものである。トルケスタン地方は褐鐵鑛及磁鐵鑛に富んでゐるが、その產業的價値は頗る低い。從つて左の數字は大體に於て波蘭のみを除外せるものゝ見做し得るのであつて、現在のソウェート聯邦の領土に於ける戰前の銑鐵生產高を示せる點に於て興味があるこゝ思ふ。[3]（單位百萬布度）

一九〇九年	一六三・一	一九一二年	二三二・四
一九一〇年	一七〇・〇	一九一三年	二五七・四
一九一一年	一九八・三		

一九一三年乃至一九一七年の銑鐵製造高は左の表に於て窺はれる。[4]（單位千布度）

一九一三年	二八二、九六〇	一九一六年(註)	二三一、八六五
一九一四年	二六四、二五〇	一九一七年(註)	一九〇、五四七
一九一五年	二二五、二九一		

1) Статистический сборник за 1913-1917 гг. Вып. I. 80頁
2) Малая советская энциклопедия. Т. 3. 333頁
3) Записки института изученія Россіи. I. 159頁
4) Сибирская советская энциклопедия. Т. II. 179頁

1) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウェート聯邦の資源と產業　鐵・滿俺編 1頁
2) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. XXXI頁
3) Экономическое обозрение. Вып. 12. 43頁
4) Статистический сборник за 1913-1917 гг. Вып. I. 77頁

（註）一九一六年及び一九一七年に關しては波蘭を除く。

左表は上記年間に於ける產地別數量を示すと共に、ソ聯の鉄鐵生產額を示すものである。[1]（單位百萬布度）

年次	合計（波蘭を除く）	南露	ウラル	モスクワ附近
一九一三年	二五七	一九〇	五六	一二
一九一六年	二三二	一七六	四五	一〇
一九一七年	一九〇	—	—	—
一九二〇年	六	〇・八	四・八	〇・五

前表には一九一八年と一九一九年が落ちてゐるが、兩年の生產高は、一九一八年三一、九六一、〇〇〇布度（一一三、三〇〇噸）にして、一九二〇年に向つて減少の傾向を示してゐる。[2]

新經濟政策實施後に於て鉄鐵製造高は漸次恢復の途を辿りつゝある。即ち左の諸表の示す如くである。[3]

	（單位百萬布度）
一九二二―二三年度	一〇・五
一九二三―二四年度	一八・三
一九二四―二五年度以後に關する數字並にその一九一三年に對する百分比は左の如くである。（單位千噸）	四〇・〇

1) Ракетовъ А. Очеркъ экономическаго и финансоваго положенія современной Россіи по офиціальнымъ даннымъ. 14頁
2) Экономическое положение СССР и неурожай. 9頁
3) Записки института изученія. Россіи. I. 159頁

年度	實數	一九一三年に對する百分比
一九一三年[1]	四、二〇六	一〇〇・〇
一九二四―二五年度[1]	一、二九二	五四・五
一九二五―二六年度[1]	二、一〇三	五二・四
一九二六―二七年度[1]	二、九六五	七〇・五
一九二七―二八年度[2]	三、二〇〇	七九・一
一九二八―二九年度[2]	四、一七〇	九九・一
一九二九―三〇年度（註一）	五、五〇〇	一三〇・六

（註一）脚註（2）は共產主義アカデミイの編纂に係り、本文獻による一九一三年の生產高は四・二一百萬噸であつて、同資料による一九二五―二六年度の產額は二・二二百萬噸、一九二六―二七年度のそれは二・九六百萬噸である。

（註二）統制數字。

聯邦最高國民經濟院及び聯邦國家計畫院の資料による歷年度の最近三年間の鉄鐵產額は左の如くである。（單位千噸）

年次	最高國民經濟院調[3]	國家計畫院調[4]
一九二八年	三、三七二・九	三、三七三
一九二九年	四、三二一・八	四、三二二
一九三〇年	五、〇一四・〇	五、〇三〇

1) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928 г. 498頁
2) 2 год пятилетки. 15頁
3) „Пути индустриализации." № 5-6. 1931. г.
4) „Плановое хозяйство." № 12. 1930. г. 343頁

一九三〇年特設會計期	一、二三一・二	五、三三〇
一九三一年(註)	—	八、〇〇〇

(註) 統制數字。

上記の數字を綜合するに、一九一三年の銑鐵產額は一九〇三年を一〇〇として一八八・四パーセントであるが、一九三〇年のそれは一九一三年を一〇〇として一一九・二パーセントに當り、確實なる復興の地歩を占めてゐる。

第五項　鐵及鋼

鐵及鋼の生產高に關しては遺憾ながら一九〇八年以前の資料を缺いでゐる。一九〇九年乃至一九一三年のその生產高は左の如くである。[1] (單位百萬布度)

年次	鐵及鋼	半製品
一九〇九年	一六三	一九一
一九一〇年	一八四	二一六
一九一一年	二〇三	二四一
一九一二年	二二七	二七五
一九一三年	二四六	三〇〇

一九一三年乃至一九一七年の鐵及鋼の製造高は左の如くである。[2] (單位千布度)

年次	鐵及鋼	半製品
一九一三年	二四六、五五二	三〇〇、二三二
一九一四年	二四〇、〇三三	二九四、一一八
一九一五年	一九九、四三三	二五一、三八八
一九一六年(註)	二〇五、八六二	二六〇、八八六
一九一七年(註)	一五五、五八七	—

(註) 一九一六—一七の兩年に關しては波蘭を除く。

一九二〇—二一年度以後に關する數字を綜合するに左の如くである。(單位千布度、括弧內千噸)

年度	A 1)	B 2)	C 3)	D 4)
一九一三年	—	二五九、二〇〇 (四、一八〇・六)	二五九、〇〇〇 (四、一七七・四)	一〇〇%
一九二〇—二一年度	一〇、五〇〇 (一、六九・三)	九、八四〇 (一、五八・七)	—	—
一九二一—二二年度	一九、六〇〇 (三一六・一)	一九、四四〇 (三一三・五)	一九、四〇〇 (三一二・九)	七・九%
一九二二—二三年度	—	四二、〇〇〇 (六七七・四)	三六、〇〇〇 (五八〇・六)	一五・四%
一九二三—二四年度	—	—	六〇、二〇〇 (九七一・〇)	二四・九%

『一九二七—二八年度國民經濟統制數字』に依れば、一九一三年及一九二四—二五年度乃至一九二七—二八年度のマルテン鋼及展鐵の產額は左の如くである。[5] (單位千噸)

1) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. XXXII頁
2) Статистический сборник за 1913-1917 гг. Вып. I. 77頁

1) На новыхъ путяхъ. Итоги новой экономической политики 1921-1922 гг. Вып. 3. VIII頁
2) Экономическое положение СССР и неурожай. 9頁
3) Записки института изученія Россіи. I. 159頁
4) Базаров В. Капиталистические циклы и восстановительный процесс хозяйства СССР. 162頁
5) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928 г. 498頁

年度	マルテン鋼 實數	マルテン鋼 一九一三年に對する百分比	壓延鐵 實數	壓延鐵 一九一三年に對する百分比
一九一三年	四、二四七	一〇〇・〇	三、五〇九	一〇〇・〇
一九二四―二五年度	一、八六八	四四・〇	一、三九〇	三九・六
一九二五―二六年度	二、九一一	六八・五	二、二五〇	六四・一
一九二六―二七年度	三、四四一	八一・〇	二、六七七	七六・三
一九二七―二八年度[1]	—	—	三、一九四	九一・〇

鋼及壓鐵に關する聯邦最高國民經濟院及び聯邦國家計畫院の歷年度資料を左に揭げる。（單位千噸）

年次	最高國民經濟院調[2]	國家計畫院調[3]
一九二八年	四、二七八・一	四、二七八
一九二九年	四、九〇六・六	四、九〇七
一九三〇年	五、六八九・六	六、〇二三（註二）
一九三〇年特設會計期	一、四六九・〇	—
一九三一年（註一）	—	八、八二六

（註一）統制數字。　（註二）推定。

上記の資料を綜合するに、一九〇九年乃至一九一三年の鐵及鋼の增産率は五一・三パーセントにして、一九一三年乃至一九三〇年の期間に於ては三四パーセントを增加してゐる。

1) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928-1929 г. 461頁
2) „Пути индустриализации." № 5-6. 1931.
3) „Плановое хозяйство." № 12. 1930. 343頁

第三節　輕工業

第一項　紡績

紡績業の消長を物語るものは錘數の動態である。武藤山治氏は一九〇〇年、一九〇七年、一九一四年、一九二一年及一九二八年の露國の錘數を左の如く算定してゐる。[1]（單位千）

一九〇〇年	七、五〇〇	一九二一年	七、一〇〇
一九〇七年	六、五〇〇	一九二八年	七、一六六
一九一四年	九、一一一		

露國の文獻に據る錘數は左の如くである。[2]（單位千）

一九〇〇年[2]	六、六四五	一九〇一年[2]	六、八六三	一九〇二年[2]	六、九九六	一九〇三年[2]	七、一四五	一九〇四年[2]	七、二八五
一九〇九年[3]	七、八二九	一九一〇年[3]	八、二〇〇						
一九一一年[3]	八、六〇〇	一九一二年[3]	八、八〇〇	一九一三年[3]	九、二一三	一九一三年[4]	七、六六八	一九一四年[5]	七、一〇〇
一九二七年	六、九四五								

棉花工業は露國の工業中の主なるものであるが、その產額に關する資料は比較的乏しく、殊に革

1) 評論社發行現代產業叢書第五卷紡績糸6頁
2) Экономическое развитие России. Вып. 1. 267頁
3) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 167頁
4) Энциклопедический словарь "Гранат" № 40. 19頁
5) Энциклопедический словарь "Гранат" № 41. VII. 207頁

命後の資料は區々にして正確なる算定は困難である。

二十世紀初頭に於ける木綿織粗布の產額は左の如くである。[1]（單位千布度）

一九〇〇年	一一、七〇三	
一九〇一年	一二、二六〇	
一九〇二年	一三、〇七八	
一九〇三年	一三、三九六	
一九〇四年	一三、五六八	

一九一三年の綿織物產額は二十二億三千八百萬米、[2]粗布產額は十九億米[3]であつて、紡績糸の產額は千八百十萬八千布度[4]である。紡績糸の產額は千八百三十萬布度[5]とも云はれ、此等の數字は何れも波蘭を含むものと思はれる。波蘭を除きたる一九一三年の紡績糸の產額は千二百二十九萬六千布度[6]である。

一九二〇、二一、二二の三箇年の棉花工業の成績は左の如くである。[7]

（單位紡績糸＝千布度・織物＝百萬アルシン）

	紡績糸	粗布	精製品
一九二〇年	八三三・一	一二七・五	一五五・一
一九二一年	一、三三二・〇	一五一・七	二一七・〇
一九二二年	四、三六五・〇	五〇二・〇	五〇〇・〇

前記の紡績糸の產額は多額に失するにあらずやと思はれる。即ち他の資料に依れば左の如くである。（單位千布度）

1) Экономическое развитие России. Вып. 1. 267 頁
2) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928 г. 498 頁
3) Записки института изученія Россіи. I. 159 頁
4) Экономическое обозрение. Вып. 5. 10 頁
5) Экономическое положение СССР и неурожай. 9 頁
6) Государственные финансы. Товарные цены. Статистический сборник. 172.
7) Сборник статистических сведений по Союзу ССР. 1918-1923 гг. 203 頁

年度	A[1]	B[2]	C[3]	D[4]
一九一九—二〇年度	—	—	—	—
一九二〇—二一年度	一、〇六八	一、〇七四	七二〇	一、二三〇
一九二一—二二年度	二、八六七	三、〇〇六	三、〇六〇	—
一九二二—二三年度	—	—	四、五三六	—

新經濟政策實施直後に於ける綿織物產額は左の如くである。（單位百萬米）

一九二一—二二年度	三〇二[5]	三五八[6]
一九二二—二三年度	五八一	六五二
一九二三—二四年度	八三六	八八二

一九二四—二五年度乃至一九二六—二七年度の綿織物產額及び一九一三年のそれに對するその百分比は左の如くである。[7]（單位百萬米）

	實數	一九一三年に對する百分比
一九一三年	二、二三八	一〇〇・〇
一九二四—二五年度	一、四九九	六七・〇
一九二五—二六年度	二、〇二八	九〇・六
一九二六—二七年度[8]	二、四五二	一〇九・六
一九二七—二八年度[8]	二、六九五	一二〇・四

第七章　工　業

1) На новыхъ путяхъ. Итоги новой экономической политики 1921-1922 гг. Вып. 3. VIII 頁
2) Экономическое обозрение. Вып. 5. 10 頁
3) Экономическое положение СССР и неурожай. 9 頁
4) Государственные финансы. Товарные цены. Статистический сборник. 172頁
5) Записки института изученія Россіи. I. 159 頁
6) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソヴェート聯邦經濟十年史6頁
7) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928 г. 498 頁
8) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928-1929 г. 466 頁

一九二四―二五年度以降の紡績糸産額は左の如くである。[1]（單位千噸）

一九一三年[2]	三〇四・一	一九二六―二七年度	二七七・〇
一九二四―二五年度[2]	一七八・五	一九二七―二八年度	三一二・〇
一九二五―二六年度	二四〇・〇		

上記の資料を綜合するに、先づ錘數は一九〇三―一三年に於て二八・九パーセントを增加し、一九一三―二七年に於ては九・四パーセントを減じてゐる。織物産額に關しては一九一三年以前の增加率は不明であつて、一九一三年乃至一九二七―二八年度の增産額は二〇・四パーセントになる。

第二項　製紙

露國はその森林資源を以て優に年々千五百萬噸の製紙を行ひ得るに拘らず、その製紙業は極めて不振にして、一九〇八年及一九一三年の製紙高は左の如き狀況にある。[3]（單位千噸）

一九〇八年	二二三	一九一三年	三三八

一九一八年乃至一九二〇年の製紙高は左の如くである。[4]（單位百萬布度）

一九一八年	四・六	一九二〇年	二・〇
一九一九年	二・六		

一九二〇年及一九二一年の國營工場の製紙高は左の如くである。[5]（單位千布度）

一九二〇年	一、九〇〇	一九二一年	二、〇六〇

一九二一―二二年度乃至一九二三―二四年度の製紙高は左の如くである。[6]（單位千布度）

一九二一―二二年度	二、一一八
一九二二―二三年度	四、〇七一
一九二三―二四年度	六、四七八

他の資料によるに一九二一―二二年度乃至一九二六―二七年度の製紙業の狀況は左表に於て窺はれる。[1]（單位千噸、包裝を含まず）

年度	書用紙	厚紙	繊維素	パルプ
一九一三年	二〇五・〇		四三・〇	三八・〇
一九二一―二二年度	三一・一		一二・八	九・一
一九二二―二三年度	五九・七		二一・四	一八・八
一九二三―二四年度	一〇五・五		三五・三	三八・六
一九二四―二五年度	一九二・〇		五四・五	五三・七
一九二五―二六年度	二四七・〇		六八・四	六八・〇
一九二六―二七年度	二九三・〇		七八・二	八四・七

最近に於ける製紙業狀態は左の如くである。[2]（單位千噸）

	書用紙	厚紙
一九二八年	二八七・〇	六九・三
一九二九年	三九四・七	六六・二
一九三〇年	五〇一・八	
一九三一年（註）	六〇五・五	

（註）統制數字。

1) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928-1929 г. 466 頁
2) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928 г. 498 頁
3) Торгово-промышленный и финансовый словарь. I. 160 頁
4) Ракетовъ А. Очеркъ экономическаго и финансоваго положенія современной Россіи по офиціальнымъ даннымъ. 25 頁
5) Торгово-промышленный и финансовый словарь. I. 160 頁
6) Записки института изученія Россіи. I. 159 頁

1) Большая советская энциклопедия. № 8. 54 頁
2) „Плановое хозяйство." 1930. 12. 344頁

即ち上記の資料によるに、一九〇八―一三年の期間に於ける製紙高の増加率は五一・六パーセントにして、一九一三年乃至一九三〇年の書用紙及厚紙製造高の増加率は一五三・八パーセントである。

第三項　煙草製造

一九〇三年乃至一九一二年の煙草製造高は左表に於て窮はれる[1]

年次	上等煙草 合計（千布度）	上等煙草 刻煙草（千布度）	上等煙草 葉巻（百萬本）	上等煙草 吸口附紙巻（百萬本）	上等煙草 両切紙巻（百萬本）	下等煙草（千布度）
一九〇三年	一、三五五	六四一	一六五	一〇、八三	三三	三、〇九八
一九一〇年	一、三九八	六四一	一五五	一一、八八	三五	三、一七一
一九一一年	一、二八二	六四九	一三四	一一、五五	三〇	三、〇五三
一九一二年	一、三五六	六四九	一三五	一一、五五	三三	三、〇五三
一九一三年	一、三五五	六四九	一三五	一一、五五	三三	三、〇五三
一九一四年	一、三五五	六四九	一三五	一一、五五	三三	三、〇五三
一九一五年	一、三五五	六四九	一三五	一一、五五	三三	三、〇五三
一九一六年	一、三五五	六四九	一三五	一一、五五	三三	三、〇五三
一九一七年	一、三五五	六四九	一三五	一一、五五	三三	三、〇五三

なほ喫煙草産額は左の如くである[2]

年次	刻煙草（単位布度）	吸口附紙巻煙草（千本）	煙草葉巻及両切紙巻（千本）	噛煙草用マホルカ（単位布度）	其他マホルカ煙草（単位布度）	加工煙草総額（単位布度）
一九一三年	六、六八〇	三四、六四四	八、六三	五、〇一〇、六五〇	三六、八五二	六、七四〇、六八二
一九一四年	五、三四九	二七、七一〇、六五六	八、三五	四五八、五六六	二九、七四六	六、三〇一、七五二
一九一五年	五、三四九	二七、七一〇、六五六	八、三五	四五八、五六六	二九、七四六	六、三〇一、七五二

1) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 135 頁
2) 同　上　136 頁

特許（大規模）工業に屬する煙草工場の一九一四―一五年度乃至一九一六―一七年度の紙巻生産額は左の數字は多少異色あるものであらが、相當信憑し得るものなるため待に掲げるこゝにする[3]

年	紙巻（単位百萬本）
一九一一―一二年	三八、七三一
一九一二―一三年	一四、〇七七
一九一四―一五年	一九、八五二
一九一五―一六年	一八〇、九〇〇
一九一六―一七年	七二七、九〇〇

一九一三年乃至一九一五年の製造高は左の如くである[1]

年	刻煙草（単位布度）	吸口附紙巻煙草（千本）	煙葉巻及両切紙巻（千本）	噛煙草用マホルカ（単位布度）	其他マホルカ煙草（単位布度）	加工煙草総額（単位布度）
一九一三年	六、六八〇	三四、六四四	八、六三	五、〇一〇、六五〇	三六、八五二	六、七四〇、六八二
一九一四年	五、三四九	二七、七一〇、六五六	八、三五	四五八、五六六	二九、七四六	六、三〇一、七五二
一九一五年	五、三四九	二七、七一〇、六五六	八、三五	四五八、五六六	二九、七四六	六、三〇一、七五二

1) Статистический сборник за 1913–1917 гг. Вып. I. 63 頁
2) Сборник статистических сведений по Союзу ССР. 1918–1923 гг. 203頁
3) Записки института изученія Россіи. I. 159 頁

の如くである。[1] (單位百萬本)

	實數	一九一三年に對する百分比
一九一三年	二五、八八八	一〇〇・〇
一九二四—二五年度	二五、〇二二	九六・七
一九二五—二六年度	三五、一二五	一三五・七
一九二六—二七年度	三九、四四五	一五二・四

一九三〇年に關しては、紙卷六百三十億本、マホルカ三百二十九萬一千箱の數字がある。[2]

これを要するに露西亞の煙草工業の紙卷產額增加率は、一九〇三—一二年に於て一〇七パーセント、一九一三年乃至一九二六年度に於ては五二・四パーセントを示してゐる。

第四項 製糖

一九〇〇年乃至一九〇四年の製糖高は左の如くである。[3] (單位千布度)

		一九一三—一四年	六四、二五七
一九〇〇年	四八、四七七	一九一四—一五年	六三、五三八
一九〇一年	四九、二四〇		
一九〇二年	五八、五六七		

歐洲戰爭直前の製糖高は左の如くである。[4] (單位百萬布度)

		一九一三—一四年	九二・三
一九一一—一二年	一一二・一		
一九一二—一三年	七四・四		

革命當時の製糖高に關する資料は稀であるが、一九一七年及び一九二〇年の大露西亞及びウクライナ

1) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928 г. 498 頁
2) „Плановое хозяйство." 1930. 12. 344 頁
3) Экономическое развитие России. Вып. I. 267 頁
4) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. XVIII 頁

地方別	一九一三年	一九一七年	一九二〇年
大露西亞	一六・八	一三・二	〇・六
ウクライナ	六六・七	五九・四	四・一
計	八三・五	七二・六	四・七

の製糖高は左の如くである。[1] 參考のため一九一三年に於ける同地方の製糖高を示すこと、した。(單位百萬布度)

一九一九年乃至一九二三—二四年度の製糖高は左の如くである。(單位百萬布度)

一九一九年	四・七[2]	一九二二—二三年度	一二・二[3]
一九二〇年	五・四[2]	一九二三—二四年度	二三・〇[3]
一九二一年	三・六[2]		

一九二四—二五年度乃至一九二六—二七年度の製糖高は左の如くである。[4] (單位千噸)

年度	角砂糖 實數	角砂糖 一九一三年に對する百分比	粉砂糖 實數	粉砂糖 一九一三年に對する百分比
一九二四—二五年度	三〇〇・七	三一・二	四五一・〇	三三・二
一九二五—二六年度	四四九・〇	四六・六	一、〇五七・九	七八・〇
一九二六—二七年度	五六四・四	五八・六	八八三・九	六五・二
一九二七—二八年度	—	—	一、三四〇・〇[5]	九八・八

1) Ракетовъ А. Очеркъ экономическаго и финансоваго положенія современной Россіи по офиціальнымъ даннымъ. 26 頁
2) Экономическое обозрение. Вып. I. 88 頁
3) Записки института изученія Россіи. I. 159 頁
4) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928 г. 498 頁
5) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928-1929 г. 466 頁

共産主義アカデミイの調査によれば、一九一三年及び最近に於ける甜菜糖(粉砂糖?)の産額は左の如くである。[1]（單位千噸）

	實數	一九一三年に對する百分比
一九一三年	一、二九〇	一〇〇・〇
一九二五―二六年度	一、〇六三	八二・四
一九二六―二七年度	八七〇	六七・四
一九二七―二八年度	一、三四〇	一〇三・九
一九二八―二九年度	一、二八〇	九九・二
一九二九―三〇年度	一、〇七〇	八二・九

以上の資料を綜合して戰前及戰後の發達狀態を按ずるに、一九〇三―一三年に於ける製糖高の增加率は四三・六パーセントにして、一九一三年乃至一九二九―三〇年度の期間に於ける粉砂糖の産額は一七・一パーセントを減じてゐる。一九二七―二八年度の粉砂糖製造は最近數年に比較して極めて好成績であつて、多少不自然なる感があるが、同年度以後産額の低下せるは注目に値する。

1) 2 год пятилетки. 15 頁

第八章　外國貿易及國內商業

第一節　外國貿易

第一項　外國貿易總額

一九〇三―六年の四年間には外國貿易の上に大なる變化を齎してゐないが、然し大體に於て輸出超過額の增加の傾向が認められる。即ち左の如くである。[1]

年次	輸出		輸入		合計		出超額（百萬留）
	價額（百萬留）	一人當（留）	價格（百萬留）	一人當（留）	價格（百萬留）	一人當（留）	
一九〇三年	一、〇〇一	七・〇九	六八三	四・八二	一、六八四	一一・九六	三一九
一九〇四年	一、〇〇六	六・九八	六五二	四・五三	一、六五七	一一・五〇	三五五
一九〇五年	一、〇七二	七・三三	六三五	四・二六	一、七〇三	一一・九九	四三七
一九〇六年	一、〇九三	七・二〇	七九六	五・二五	一、八八九	一二・四五	二二九

右の中、一九〇六年の輸入額が急增して居るのは、日露戰爭當時浦鹽港の輸入稅を撤廢した結果、同港の輸入貨物が激增したためであつて、翌一九〇七年に於ても亦これと同樣の事情が認められる。

一九〇九―一三年平均及一九一三年の輸出入額は之を品種により大別せば左の如くである。[2]

1) Большая энциклопедія. № 22. Россія

2) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ, XXXVII-VIII 頁

種別		輸出					輸入				
		一九〇九―一三年平均	一九一三年				一九〇九―一三年平均	一九一三年			
工業生産品	食料品及煙草製品	八七九・六	八〇七・二				一一三五・一	一六三・〇			
	原料及半製品	四九〇・〇	五五〇・二				五一二・四	六〇〇・九			
	家畜	二二六・三	三三三・〇				二一・八	三一・一			
	製品	二六・九	三〇・四				三五三・四	四一・四			

（單位百萬留）

一九〇三年以前五箇年平均、一九〇四年以後五箇年平均及一九〇九年乃至一九一三年の貿易年額は左の如くである。[1]（單位百萬留）

年次	輸出	輸入	總額	出超額
一八九九―一九〇三年平均	五九・〇	五六・二	一一五・二	二・九
一九〇四―一〇年平均	九一・二	六四・五	一五六・七	二五・七
一九〇九年	一五七・三	一二五・九	二八三・二	三一・四
一九一〇年	一五五・九	一三〇・五	二八六・四	二五・四
一九一一年	一四四・〇	一三〇・七	二七四・七	一三・三
一九一二年	一四六・〇	一三〇・七	二七六・七	一五・三
一九一三年	一四〇・九	一三〇・五	二七一・四	一〇・四

一九〇九―一三年の五箇年の平均輸出年額を十三億又は十四億留として、その中鑛業及工業生産品は二億五千萬留（現領域上に於て）に過ぎず、他の十億五千萬留は農村經濟生産品より成る。即ち一九パーセントニ八パーセントの比である。[1]

一九一三年乃至一九二二年の輸出入高は左の如くである。[2]

（イ）實數

年次	輸出 百萬布度	輸出 百萬留	輸入 百萬布度	輸入 百萬留	バヲランス 百萬布度	バヲランス 百萬留
一九一三年	六三・二	一、四〇一	八二五	一、三〇一	(+)	六一
一九一四年	四四・一	九六五	一六五	一、三〇一	(+)	三四三
一九一五年	二四・三	五三六	一〇六・四	一、三〇一	(+)	三三〇
一九一六年	一三・〇	二八七	一二八・四	一、三〇一	(+)	一、〇〇一
一九一七年	一・八	四・〇	九六・六	一、三〇一	(+)	九二・四
一九一八年	(一一・五)	(二五・三)	(四・六)	一、三〇一	(+)	二一・七
一九一九年	(五・二)	(一一・五)	(一・五)	一、三〇一	(+)	一〇・〇
一九二〇年	(五・二)	(一一・五)	(四・六)	一、三〇一	(+)	六・九
一九二一年	(五・二)	(一一・五)	(一・五)	一、三〇一	(+)	一〇・〇
一九二二年	五六・八	一二四・〇	四・三	九・五	(+)	一一四・五
一九〇九―一三年平均	一三・八	三〇・四	一〇〇・三	一、三六・五	(+)	四九・一

1) Экономическая жизнь. 1923. 10. 21.

2) Экономический вѣстникъ. № 2. 1923 г. Берлинъ. 74 頁

一九一三年乃至一九一七年の輸出入額は之を大別せば左の如くである[1]　（單位百萬留）

年次	輸出		輸入	
	數量	價格	數量	價格
一九〇九―一三年平均	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四年	九四	九六	五四	六三
一九一五年	九・九	九八	九・九	一一六
一九一六年	九・五	一〇一	一三・六	一四・九
一九一七年	一三・九	一七二	一〇・一	一三・〇
一九一八年	一〇・一	二二・九	一〇・〇	一四・九
一九一九年	一〇・〇	二七・三	一〇・〇	一三・三
一九二〇年	一〇・四	三一・一	一〇・〇	一三・一
一九二一年	一〇・八	三四・一	一〇・〇	一三・七

（註）一九一八年より一九二〇年に至る括弧内の數字は概數である。輸出入額はソウェート聯邦の稅關統計に依るものであつて、一九一三年の價格に依るものである。一九一八年以前の資料は Обзоры внешней торговли から、一九一一―一三年の資料は一九一三年及一九一三年の外國貿易入超一九一七年の輸出入額は之を大別せば左の如くである[1]　（單位百萬留）

1) Статистический сборник за 1913-1917 гг. Вып. 2. 4 頁

（註）後掲數字と著しき相違あるも事情知るに由なし。

帝政時代との比較に於けるソウェート聯邦經濟事情

（ロ）百分比

年次	輸出		輸入	
	數量	價格	數量	價格
一九〇九―一三年平均	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四年	九四	九六	五四	六三
一九一五年	九・九	九八	九・九	一一六
一九一六年	九・五	一〇一	一三・六	一四・九
一九一七年	一三・九	一七二	一〇・一	一三・〇
一九一八年	一〇・一	二二・九	一〇・〇	一四・九
一九一九年	一〇・〇	二七・三	一〇・〇	一三・三
一九二〇年	一〇・四	三一・一	一〇・〇	一三・一
一九二一年	一〇・八	三四・一	一〇・〇	一三・七

右の中輸出入共一九一六年及一九一七年は歐羅巴國境を通過せるもの、みにして（黑海海岸及高架索地方を含む）芬蘭との貿易は之を含む。尙輸入に於ける一九一六年及一九一七年には表中の四大別に入ら

（イ）輸出

年次	食糧品	原料及半製品	畜産品	工業製品	合計
一九一一年	八三九・九	五六一・〇	三四・三	八四・九	一、五二〇・一
一九一二年	五三三・四	三四九・一	一四・五	六九・一	九五六・一
一九一三年	二〇一・七	一四四・七	〇・二	五五・二	四〇一・八
一九一四年	五一・五	三八三・八	〇・〇	二七・六	四七六・四
一九一五年	一五五・五	二九三・一	〇・二	二七・六	四七六・四
一九一六年	一二〇・一	一七三・一	〇・一	二七・六	三二八・八
一九一七年	一一六・二	一六七・一	〇・一	二七・六	三二二・〇

（ロ）輸入

年次	食糧品	原料及半製品	畜産品	工業製品	合計
一九一一年	二三七・九	六六八・〇	一七・六	四五〇・五	一、三七四・〇
一九一二年	一九八・二	五二〇・八	一三・五	三六五・五	一、〇九八・〇
一九一三年	一七九・二	四九九・七	一五・二	四四四・五	一、一三八・六
一九一四年	一二七・五	五八一・八	〇・六	六八八・六	一、七一六・五
一九一五年	一六・二	五一〇・七	〇・二	七四五・七	一、九六五・八
一九一六年	一一・一	四一・一	〇・一	一〇四・一	二六五・四
一九一七年	一〇・一	三七・一	〇・一	九四・一	二四一・三

ざる主として國家の用に當てられたる貨物を含んでゐる。これは一九一六年には三億一千八百萬留、一九一七年には五億九千二百九十六萬一千留をなしてゐる。

一九二一—二二年度以降最近に至る迄の貿易總額は左の如くである。[1]（單位百萬戰前留）

年度	輸出		輸入	
	實數	百分比	實數	百分比
一九一三年	一、三〇七	一〇〇・〇	（一、一四〇）	一〇〇・〇
一九二一—二二年度	六四	四・九	二七一	二三・八
一九二二—二三年度	一三三	一〇・二	一四八	一三・〇
一九二三—二四年度	三六九	二八・二	二三四	二〇・五
一九二四—二五年度	三七一	二八・四	四一一	三六・一
一九二五—二六年度	四七〇	三六・〇	四六四	四〇・七
一九二六—二七年度	五五四	四二・四	四三八	三八・四

前記の年間に於ける輸出入高を鑛業及工業品並に農村經濟生產品に區分するに左の如くである。[2]（單位百萬留、當該年度の市價による）

年度	輸出			輸入
	農村經濟生產品	鑛業及工業生產品	合計	
一九二四—二五年度	三三九	二二一	五五一	二四五
一九二五—二六年度	四三〇	二三八	六六八	二六二
一九二六—二七年度	四七二	二二九	七七一	六九九

1) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウエート聯邦經濟十年史 152 及 156 頁

2) Календарь коммуниста на 1929 г. 309 頁

一九二四—二五年度以後最近迄の輸入高は前に錄せる如くであるが、これを大別せば左の如くである。[1]（單位百萬留、當該年度の市價による）

年度	原料	半製品	機械	一般需要品
一九二四—二五年度	二四四・七	一一二・三	四八・八	二四八・四
一九二五—二六年度	二六一・九	一六六・八	八〇・六	一六一・八
一九二六—二七年度	三一八・五	一〇〇・五	九四・四	八一・〇

一九二六—二七年度及一九二七—二八年度の各十一箇月のソウエート聯邦の歐羅巴國境通過輸出額を比較するに左の如くである。[2]（單位千留）

年度	農村經濟生產品		鑛業及工業生產品	合計	
	總額	內、穀物を除く		總額	內、穀物を除く
一九二六—二七年度	四六、八七〇	二九、九七九	一九三、二四三	六三〇、一二三	四三三、二二一
一九二七—二八年度	三四一、二五九	三〇七、二九	二三九、六六七	五八〇、九二六	五四六、七九六

一九二七—二八年度の輸出高の減少は穀物の輸出の減少に基因するものであつて、穀物を除く場合に

1) Основные вопросы экономики СССР в таблицах и диаграммах. V-№9.

2) Экономическая жизнь. 1928. 10. 5.

品別		一九二八—二九年度	一九二九—三〇年度
輸出	食料品	三五・六	三五・四
	原料及半製品	五五・四	四八・六
	動物製品	三五・一	三〇・一
	合計	九四・一	八四・一
輸入	食料品	四五・〇	四二・五
	原料及半製品	四五・六	四一・五
	動物製品	一〇・三	一〇・四
	合計	一〇一・一	九四・四

上述の資料を綜合すると、戦前露西亞の外國貿易は一九〇三—一三年の期間に於て輸出は四・一九パー

計に據れば左の如くである。[1]

品別		一九二八—二九年度	一九二九—三〇年度
輸出	食料品	三五・六	三五・四
	原料及半製品	五五・四	四八・六
	動物製品	三五・一	三〇・一
	合計	九四・一	八四・一
輸入	食料品	四五・〇	四二・五
	原料及半製品	四五・六	四一・五
	動物製品	一〇・三	一〇・四
	合計	一〇一・一	九四・四

（註一）一九二七年度
（註二）見込を含む
（註三）一九二六—七年度

次に一九二八—九年度及一九二九—三〇年度の輸出入貿易を見るに、この間輸出を通じて僅大なる進展を示し、輸出に於ては二四・二%を、輸入に於ては二・八%を増加してゐる。即ちソ聯邦國民

	一九〇九—一三年平均	一九二六—二七年度	一九二七—二八年度
砂糖	三五・五	七五・二	五五・〇
石油	五〇・〇	一四・四	一四・五
綿花	三五・〇	三五・三	三五・五
毛織物	一一・五	一一・〇	一一・〇
木材	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇
亞麻	一〇・〇	一〇・〇	一〇・〇

（註一）一九二七—八年度
（註二）見込を含む
（註三）一九二六—七年度

上述の資料を綜合すると、戦前露西亞の外國貿易は一九〇三—一三年の期間に於て輸出は四・一九パーセントの増加を示したに過ぎないが、一九二七—八年度の貿易の状況を戦前に比較すると左の如くである。[2]

	一九〇九—一三年平均	一九二六—二七年度	一九二七—二八年度
繊維及工業生産品	一九・二	三三・四	四二・五
農村經濟生産品	八一・八	六七・六	五七・五

繊維及工業生産品の占むる比率の増加は實數の増加によるものにあらずして、農村經濟生産品の輸出は増加せる譯である。

一九〇九—一三年平均一九二六—二七年度及一九二七—二八年度に於て繊維及工業生産品並に農村經濟生産品が輸出高に於て占むる百分比率は左の如くである。[1]

	一九〇九—一三年平均	一九二六—二七年度	一九二七—二八年度
繊維及工業生産品	一九・二	三三・四	四二・五
農村經濟生産品	八一・八	六七・六	五七・五

帝政時代との比較に於けるソヴェート聯邦經濟論

減少の結果である事を忘れてはならない。

一九二七—二八年度の貿易の狀況を戦前に比較するに左の如くである。[2]

ジズニ紙による

品別		一九二七—二八年度の生産高に對する比率	一九〇九—一三年の輸出高に對する百分比
穀物		一九・二	一九・二
石油		一四・五	一四・四
木材		一〇・〇	一〇・〇
亞麻		一〇・〇	一〇・〇
砂糖		五五・〇	七五・二
綿花		三五・五	三五・三
毛織物		一一・〇	一一・〇

（前に對する比率は一九〇九—一三年＝一〇〇の百分比）

品別		一九二七—二八年度	一九二八—二九年度
穀物		一九・二	一九・二
石油		一四・五	一四・四
木材		一〇・〇	一〇・〇
亞麻		一〇・〇	一〇・〇
砂糖		五五・〇	七五・二
綿花		三五・五	三五・三
毛織物		一一・〇	一一・〇

（輸出高に對する百分比）

1) Правда. 1928. 11. 1

2) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1928-1929 г. 392 頁及 Экономическая жизнь. 1928. 9. 29.

セント、輸入は七九パーセントを增加し、貿易總額に於て五六・九パーセントを增加してゐる。然るに戰後即ち一九一三年乃至一九二九—三〇年度に於ては輸出は二三・三パーセント、輸入は六・三パーセント、貿易總額に於ては一五・四パーセントを夫々減少してゐる。

第二項　農產物

一九〇三年の穀物輸出高は四億三千九百萬留（五億九千七百萬布度）であつて、貿易總額（十億百萬留）に對するその割合は四三・八パーセント、穀物以外の農產物の輸出額は一億七千四百萬留、貿易總額に對するその割合は一七・五パーセントである。從つて輸出總額に對する農產物の占むる割合は六一・三パーセントである。[1]

一九〇九年乃至一九二四年の穀物輸出高は左の如くである。[2]（單位百萬布度）

年次	小麥	裸麥	大麥	燕麥	玉蜀黍	豌豆	小豆、大豆及扁豆
一九〇九年	三一四	三五・五	二一九	七四	四一	九・一	一〇・八
一九一〇年	三七四	四〇・五	二四四	八三	二七	一一・九	九・八
一九一一年	二四〇	五三・八	二六二	八五	八一	一七・〇	八・九
一九一二年	一六一	三〇・五	一六八	五一	四六	一四・四	七・四
一九一三年	二〇六	三九・四	二三九	三六	三五	一五・二	七・六
一九一四年	一四七	二三・〇	一三〇	一七	一七・四	五・九	一・四
一九一五年	一一・六	五・八	〇・四	〇・三	—	〇・四	〇・二
一九一六年	一四・三	六・二	〇・一	—	〇・一	〇・二	〇・六
一九一七年	一・五	〇・三	〇・一	—	〇・三	—	—
一九二三年	三三三	一、一九四	二一九	一〇三	三五	四・四	三三
一九二四年	二四八	六三五	三三六	四三	二三〇	一四	三七

1) Хрулевъ С. С. Финансы Россіи въ связи съ экономическимъ положеніемъ ея населенія. 286 頁

2) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウエート聯邦の輸出入貿易 93-105 頁

上記は數種の穀類に關するものであるが、今農產物全體の輸出數量及價格を見るに、一九〇六—一〇年平均は數量七一〇、三三〇、二〇〇布度、價格七三九、〇一六、〇〇〇留、一九一三年は數量七六三、三二二、七〇〇布度、價格八三四、五八六、八〇〇留、一九一五年は數量五九、九二〇、一〇〇布度、價格一六四、五七五、一〇〇留、一九一七年は數量一、三九三、七〇〇留、價格二四、三三七、五〇〇留、一九二一年は數量九〇七、三〇〇布度、價格不詳である。[1]

一九二一年以前に於ける農產物全體即ち小麥、裸麥、大麥、燕麥、蕎麥、黍、玉蜀黍其他の粒穀及穀粉、濃厚飼料、乾草、馬鈴薯、甜菜、砂糖、各種麻纖維及棉花、各種々子、植物性油、忽布、煙草、野菜、果實、茶、珈琲の輸入數量及價格は左の如くである。[2]（單位、數量—千布度、價格—千留）

年次	一九〇六—一〇年平均	一九一三年	一九一五年	一九一七年	一九一九年	一九二一年
數 穀物（註）	一五、五二九・二	二六、五〇二・八	七、八一八・三	—	三・〇	八、六六一・〇
數 棉花	一一、七四五・〇	一三、〇三一・一	八、四八二・八	—	—	二九・〇

1) Сельское хозяйство России в XX веке. 311. 315. 323. 325. 327 頁

2) 同上

量	其他農產物	四〇、四三八・九	四四、六九七・二	三四、九七四・六	一、二七一・七	—	七、三三六・一
	合計	六七、七二三・一	八三、二二二・一	五一、二七五・七	一、二七一・七	一七一・三	一六、〇二六・一
價格	穀物(註)	一四、四九九・四	二四、八七五・二	八、六五三・一	—	—	—
	棉花	一〇三、一三二・〇	一一四、〇四一・三	一〇一、九八二・三	八、六七八・七	—	—
	其他農產物	一四五、六三五・〇	一五八、四一五・六	七二、〇九四・九	—	—	—
	合計	二六三、二六六・四	二九七、三三二・一	二八二、七三〇・三	一八、四九一・一	—	—

(註) 小麥、裸麥、大麥、燕麥、蕎麥、黍、玉蜀黍を含む。

一九二七—二八年度の十一箇月の輸出高を掲げ、これを前年度の同期間の輸出高に比較するに左の如くである。[1] (歐露國境通過)

品別	一九二六—二七年度 數量(噸)	一九二六—二七年度 價格(千留)	一九二七—二八年度 數量(噸)	一九二七—二八年度 價格(千留)	一九二七—二八年度が一九二六—二七年度に對する百分比 數量	一九二七—二八年度が一九二六—二七年度に對する百分比 價格
穀物	二、五〇七、七九三	二三三、八一九	五四四、八一〇	五〇、四一八	二一・七	二三・六
亞麻	三六、九四五	一八、三四六	二八、四六八	二〇、一三八	七七・〇	一〇九・八
農村經濟生產品總計	—	四二六、八六〇	—	三四一、二五九	—	七九・九
同上(穀物を除く)	—	二二九、九七九	—	三〇七、一二九	—	一三三・五

一九二七—二八年度のソウェート聯邦の農村經濟生產品(農作物、畜產物及水產物)の對外輸出は穀物の輸出減のために著しく低下し、前年度の七九・九パーセントを示すに過ぎない。然し穀物を除外するならば、その輸出額は三三・五パーセントの增加であつて、十一箇月間に一九二六—二七年度は二二九、九七九、〇〇〇留、一九二七—二八年度は三〇七、一二九、〇〇〇留を示してゐる。

1) Экономическая жизнь. 1928. 10. 5.

一九二八—二九年度及び一九二九—三〇年度の農產物輸出入總額は不明であるが、これを穀物、亞麻及び棉花について見るに左の如くである。[1] (單位、數量—千噸、價格—百萬留)

品別	一九二八—二九年度 輸出 數量	一九二八—二九年度 輸出 價格	一九二八—二九年度 輸入 數量	一九二八—二九年度 輸入 價格	一九二九—三〇年度 輸出 數量	一九二九—三〇年度 輸出 價格	一九二九—三〇年度 輸入 數量	一九二九—三〇年度 輸入 價格
穀物	九八	一五	—	—	二、二六八	一三	—	—
亞麻	六二	四〇	—	—	一〇一	四八	—	—
棉花	—	—	一三三	一三一	—	—	六七	六四

露西亞の對外貿易のバランスは農作物の輸出によつてのみ從來保たれ來つたのであるが、戰後に於ては農業不振のため穀物の輸出は大打擊を受け、貿易の減少は國民經濟の發達に影響する所頗る大なるものがあると考へられる。上記の資料に依り農產物の輸出高の戰前戰後を比較するに、一九〇一—五年平均に對する一九一三年の穀物輸出高の增加率は二一・六パーセントであるが、戰後即ち一九一三年乃至一九二九—三〇年度に於ては一四・四パーセントを低下してゐる。然し最近の穀物輸出高は頗る安定を缺き、且又一九二九—三〇年度は穀物ダンピングの行はれた年であつて、この年度の成績を以て現代露西亞の

1) 露西亞事情調査會編ソウェート聯邦年鑑 1931 年版 268-9 頁

海々岸線通過を含む）

戰前五箇年の木材輸出數量及價格は左表に於てこれを窺ふ事が出來る[2]。（歐露國境通過、高架索地方の黑

年度	數量（單位千布度）			價格（單位千留）		
	加工品	未加工品	計	加工品	未加工品	計
一九一一—一二年度	一、四八六	五、三五二	六、八三八	一、六〇四、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	四、〇〇四、〇〇〇
一九一二—一三年度	一、六五〇	五、三〇〇	六、九五〇	一、七二二、八九一	二、四〇〇、〇〇〇	四、一二二、八九一
一九一三—一四年度	一、五八〇	四、三五〇	五、九三〇	一、六六〇、九八六	二、四〇〇、〇〇〇	四、〇六〇、九八六

1) Хрулевъ С. С. Финансы Россіи въ связи съ экономическимъ положеніемъ ея населенія. 附表 XIII.

2) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. 275 頁

一九〇〇年乃至一九〇六年の木材輸出高は左の如くである[1]。

輸出數量も亦逐年增加の傾向にある。

森林豐富なるロシアに於ては、木材は農作物と共に戰前及戰後を通じて主要なる輸出品にして、その

第三項　木　材

らならば、これは約半數を示してゐる。

穀物輸出の常態には見做し難い。從つて今試みに最近四箇年の平均數量を取りこれを一九一三年と比較す

帝政時代との比較に於けるソヴェート聯邦經濟事情

年次	數量（單位千布度）	價格（單位千留）
一九〇〇年	二三、七七九、五七九	一六、一三五、七七八
一九〇一年	二二、三六八、二五二	一五、八二二、九八一
一九〇二年	二二、三一六、三四三	一五、二五三、〇四三
一九〇三年	二一、七二二、八九一	一四、六六八、九八六
一九〇四年	二三、二八三、〇三〇	一六、〇四四、〇〇〇
一九〇五年	一九、九一一、九四五	一三、一八七、八五二
一九〇六年	一八、一一一、一一一	一二、〇九七、一四三

次に一九一三年乃至一九一七年の木材輸出數量は左の如くである[1]。

年	數量（單位千布度）	價格（單位千留）
一九〇九—一三年平均	四二、九一九、九四五	一一、一一一、一一一
一九一三年	三四、六三一、八二二	一五、八二七、八四〇
一九一四年	二七、八一一、一一一	一一、一一一、一一一
一九一五年	一九、九九一、一一一	一一、一一一、一一一
一九一六年	一七、六五五、一八七（註）	一〇、三四九、三五五（註）

（註）歐露國境通過數量

一九一一—一二年度乃至一九一四—一五年度の木材輸出高は左の如くである[2]。

斯の如く一九〇八—一三年に於て價格に於ては四八パーセント、數量に於ては一四パーセントを增加してゐる。

1) Статистическій сборникъ за 1913-1917 гг. Вып. 2. 28 頁

2) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソヴェート聯邦の輸出入貿易 195-6 頁

一九二二—二三年度	二〇、三二	二九、六四四	五九、八六五	二九、〇〇〇	九、八〇〇	三八、八〇〇
一九二三—二四年度	—	—	一一四、〇〇〇	—	—	六〇、五〇〇
一九二四—二五年度	六四、〇一八	六一、六三六	一三五、六五四	四九、七八三	二〇、四一九	二〇、二〇二

一九二六—二七年度及一九二七—二八年度十一箇月間の木材輸出數量及價格は左の如くである。[1]

（單位、數量—噸、價格—千留）

年次	數量	價格
一九二六—二七年度	一、七六七、九二四	五七、七二九
一九二七—二八年度	二、一〇五、五七〇	六八、四五一

一九二八—二九年度及び一九二九—三〇年度の木材輸出額は左の如くである。[2]

（單位、數量—千噸、價格—百萬留）

年次	數量	價格
一九二八—二九年度	四、七七八	一三八
一九二九—三〇年度	七、三六七	一八〇

以上の資料を綜合するに、木材の輸出は、一九〇三年乃至一九一三年の期間に七九・七パーセントを增加し、一九一三年乃至一九二九—三〇年度に於ては約二・四パーセントを低下してゐる。この外林產物による化學製品の輸出高の動態をパーセンテージを以て表示することは困難であるが、明かに減少の傾向を示してゐる。

1) Экономическая жизнь. 1928. 10. 5.

2) 露西亞事情調査會編ソウエート聯邦年鑑 1931年版268-9 頁

第四項　石炭

一九〇〇年乃至一九〇六年の石炭及コークス輸入額は左の如くである。[1]（但し關稅を含まず）

年次	數量（單位千布度）	價格（單位千留）
一九〇〇年	二四〇、〇四二	三三、九三二
一九〇一年	一九二、四九六	一七、七六六
一九〇二年	一七八、七八〇	一九、五五一
一九〇三年	二一三、四四七	二三、四七四
一九〇四年	二三七、二一三	二六、〇九二
一九〇五年	二五二、七九〇	二七、八〇〇
一九〇六年	二六七、九七四	二九、四六九

一九〇九年乃至一九一七年の石炭及コークス輸出入高は左の如くである。[2]（單位千布度）

年次	輸出		輸入	
	石炭及コークス		石炭	コークス
一九〇九年	五、一七八		二四〇、九六三	二四、六九〇
一九一〇年	六、四四九		二五九、三四八	二七、七三二

1) Хрулевъ С. С. Финансы Россіи въ связи съ экономическимъ положеніемъ ея населенія. 附表 XXVI.

2) Статистический сборник за 1913-1917 гг. Вып. 2. 11. 12. 31 頁

帝政時代との比較に於けるソウエート聯邦經濟事情

	全國々境	歐洲國境
一九一一年	五、九三五	二八〇、五八〇
一九一二年	一二、七二八	三二四、二四六
一九一三年	五、九五一	四七三、六一二
一九〇九—一三年平均	七、一二四八	三一五、七五〇
一九一四年	二、七四八	二九八、二六四
一九一五年	一一、四四〇	四〇、二三五
一九一六年	四、七八五	五七、九三〇
一九一七年	八六八	四六、〇二四

一九一三年乃至一九二二年に於ける石炭需給狀態は左の如くである。[1] (單位百萬布度)

年次	國內生產高	輸入高	輸出高	需要高	外國炭が總需要量に對する百分比
一九一三年	二、一〇〇・〇	三五・〇	六・〇	二、一二九・〇	一九・五
一九一四年	二、一八二・〇	三二・二	二・七	二、二一〇・五	一・三
一九一五年	一、九八〇・〇	四〇・五	一二・四	一、九四七・一	二・一
一九一六年	二、〇六〇・〇	六一・八	四・八	二、一一三・〇	二・九
一九一七年	四五六・〇	二・三	一	四五八・三	〇・五
一九二〇年	三、四一・七	一六・三	一	三二一・〇	三・一
一九二一年	六六〇・〇	二七・九	一	六八七・九	四・一

1) Торгово-промышленный и финансовый словарь. 1. 693-4 頁

一九二一年及一九二二年の石炭及コークスの輸出入高及價格は左の如くである。[1] (單位千布度及千留)

年次	輸出 石炭 數量	輸出 石炭 價格	輸出 コークス 數量	輸出 コークス 價格	輸入 石炭 數量	輸入 石炭 價格	輸入 コークス 數量	輸入 コークス 價格
一九二一年	—	—	九〇六	一三	一五、三六七	二、四五八	九〇六	一三
一九二二年	五二	三	八六三	一六四	二六、九五七	五、九二九	八六三	一六四

一九二五—二六年度及一九二六—二七年度の石炭輸入數量及價格(歐露國境通過)は左の如くである。[2]

年次	數量 (單位佛噸)	價格 (單位千留)
一九二五—二六年度	三〇六、一〇〇	三、三七五
一九二六—二七年度	四七一、六〇〇	五、二一二

一九二八—二九年度及び一九二九—三〇年度に及んで石炭の輸入は皆無の狀態となり、輸出は異數の發達を示してゐる。即ち左の如くである。[3] (單位 數量—千噸 價格—百萬留)

年次	數量	價格
一九二八—二九年度	一、一五〇	一〇
一九二九—三〇年度	一、七九九	一七

1) Сборник статистических сведений по Союзу ССР. 1918-1923 гг. 274. 276. 277. 278 頁
2) 駐日ソウエト一聯邦通商代表部編纂ソウエート聯邦最近經濟統計要覽 62 頁
3) 露西亞事情調査會編ソウエート聯邦年鑑 1931 年版 268-9 頁

上記の資料によるに、露國の石炭の輸出高は一九〇九―一三年に於て約一五パーセントを增加してゐる。更に一九一三―二二年の十年間に於ては十分の一以下に低下してゐるが、一九二九―三〇年度に於ては一九一三年に對し一躍十八倍半の增加を示すに至つてゐる。この輸出は國內に於ける石炭の缺乏を背景とせるが故に國內の餘力を以てする輸出とは認め難い性質のものである。輸入に於ては、一九〇三―一三年に於て二倍以上に增加し、一九一三年乃至一九二六―二七年度に於て約五パーセントに低下してゐる。

第五項　石　油

戰前ロシアの石油業は專ら外資に依つて經營せられ、その石油輸出も英米に壓倒せられ、資源に比較して概して振はなかつた。然るに革命後石油業の國營化せられるに及んで、その業態は頓に革まり、石油は主要國產品として對外貿易の決濟上重要視せらるゝに至り、最近に至つては歐米諸國は素より極東に迄その販路を擴張するに至つた。

ロシアの石油輸出の發達を明かにするため先づ一九〇〇年乃至一九〇七年に於ける原油及製油品の輸出高を示さう。[1]

年次	數量（單位千布度）	價格（單位千留）
一九〇〇年	八七、九六三	四六、五〇六

1) Хрулевъ С. С. Финансы Россіи въ связи съ экономическимъ положеніемъ ея населенія. 附表 XXVI.

年次	數量（單位千布度）	價格（單位千留）
一九〇一年	九五、〇七九	五三、〇六〇
一九〇二年	九三、六二七	四二、三六六
一九〇三年	一〇八、八〇二	五二、六八六
一九〇四年	一一二、〇六三	五九、五七五
一九〇五年	五七、六六〇	二九、二一六
一九〇六年	四〇、三四二	二四、五三六
一九〇七年	四〇、〇〇〇（概數）	二七、〇〇〇（概數）

一九〇九年乃至一九一七年の原油及其諸加工品の輸出高は左の如くである。[1]（單位千布度）

年次	數量	價格
一九〇九―一三年平均	四八、五六〇	五二、四二六
一九一四年	五二、四〇二	三二、二七七
一九一五年	五二、一六一	四、七三九
一九一六年	五一、一九〇	二、五三四
一九一七年	五七、八一四	二、一〇五

（註）右の中一九一六年及一九一七年は歐露國境通過數量である。

一九二一年及一九二二年の原油及石油製品の輸出高は左の如くである。[2]（單位千布度、千留）

年次	數量	價格
一九二一年	四五一	一、四三三
一九二二年	四、〇〇二	一一、三八九

1) Статистическій сборникъ за 1913-1917 гг. Вып. 2. 33 頁

2) Сборникъ статистическихъ свѣдѣній по Союзу ССР. 1918-1923 гг. 277-8 頁

これを以て見るに、石油の輸出高は一九〇三―一三年に於て約五三パーセントに減少した。然るに一九二九―三〇年度に於ては露國に於て未曾有の大量の輸出を行ひ、一九一三年に對し實に三八〇パーセントの增加を示し、石油はソヴェート聯邦の輸出貿易の不振の間に介在して一異彩を放つてゐる。

一九二六―二七年度、一九二七―二八年度（十一箇月間）、一九二八―二九年度及一九二九―三〇年度の石油輸出數量及價格は左の如くである[2]。（單位、數量一噸、價格一千留）

年度	數量	價格
一九二六―二七年度	一、七五五、九九三	七三、五二〇
一九二七―二八年度	二、三七〇、七四五	八八、二三四
一九二八―二九年度	三、六四二、〇〇〇	一三三、〇〇〇
一九二九―三〇年度	四、五四〇、〇〇〇	一五七、〇〇〇

一九二九―三〇年度及一九三〇―三一年度に於ける石油輸出高は左の如くである[1]。（單位千噸）

年度	石油燃料	其他石油製品	合計
一九二九―三〇年度	一〇九・八	五九三・一	七〇二・九
一九三〇―三一年度	四七〇・二	九四一・一	一、四一一・三

第六項　鐵及鐵製品

一九一三年以前十年間の露國の幼稚なる鐵產業の輸出量を見るに大體左の如くである[1]。（單位千布度）

年次	銑鐵	鐵及鋼製品	鑄鐵製品	鐵及鋼製品	機械及其部分品
一九〇三年	三五、三〇二	四三、六二〇	一〇、五二〇	三四、〇〇〇	一、〇〇〇
一九〇四年	三五、五〇〇	四六、三〇〇	一〇、四〇〇	三六、〇〇〇	一、〇〇〇
一九〇五年	三四、〇〇〇	四五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	一、〇〇〇
一九〇六年	三三、〇〇〇	四四、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三四、〇〇〇	一、〇〇〇
一九〇七年	三二、〇〇〇	四三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三三、〇〇〇	一、〇〇〇
一九〇八年	三一、〇〇〇	四二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三二、〇〇〇	一、〇〇〇
一九〇九年	三〇、〇〇〇	四一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三一、〇〇〇	一、〇〇〇
一九一〇年	二九、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一、〇〇〇
一九一一年	二八、〇〇〇	三九、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二九、〇〇〇	一、〇〇〇
一九一二年	二七、〇〇〇	三八、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二八、〇〇〇	一、〇〇〇
一九一三年	二六、〇〇〇	三七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二七、〇〇〇	一、〇〇〇

輸出は輸入に比較して少額であつて、僅に鐵及鋼製品に於て多少增加の傾向を看取するを得るも、概して不安定なるを免れない。

一九〇九年乃至一九一七年に於ける鐵鑛、滿俺鑛及軌條の輸出數量は左の如くである[2]。（單位千布度）

1) Весь СССР. 1226 г. Ч. I. 16 頁
2) Экономическая жизнь. 1928. 10. 5. 露西亞事情調查會編ソヴェート聯邦年鑑 1931年版 268-9 頁

1) Дербер П. и Шер. М. Очерки хозяйственной жизни Дальнего Востока. 1927 г. 40 頁
2) Статистический сборник за 1913-1917 гг. Вып. 2. 31-2 頁

次に輸入狀態は左の如くである。[1]（單位千布度）

年次	銑鐵	鐵及鋼	鑄鐵製品	鐵及鋼細工品	白熾瓦斯及鐵其他針金機械及	製鎖鐵、鐵及鋼
一九〇九年	一、〇四〇	三、四二六	二五六	一、二五一	一、二五六	六、三五六
一九一〇年	一、〇四〇	三、四二六	二五六	一、二五一	一、二五六	六、三五六
一九一一年	一、〇四〇	三、四二六	二五六	一、二五一	一、二五六	六、三五六
一九一二年	一、〇四〇	三、四二六	二五六	一、二五一	一、二五六	六、三五六
一九一三年	一、〇四〇	三、四二六	二五六	一、二五一	一、二五六	六、三五六
一九〇九—一三年平均	一、〇四〇	三、四二六	二五六	一、二五一	一、二五六	六、三五六

（註）一九一六年及一九一七年に關するものは歐露國境通過の輸出數量である。

年次	鐵	滿俺鐵	軌條
一九〇九年	二、五九九	三七、八八七	八、七七一
一九一〇年	五一、七一五	四一、七五一	四、一八九
一九一一年	五四、〇八七	三八、七五九	三、三三二
一九一二年	四〇、四八六	六一、五二七	三〇
一九一三年	二八、六七四	七二、八七九	六二〇
一九〇九—一三年平均	四一、三一二	五〇、五六一	三、三六七
一九一四年	一五、四一八	四五、八七七	二、九三
一九一五年	一九〇	二五六	一、三七二
一九一六年	一〇四	一、〇五八	一、五八七
一九一七年	一七、五九九	三七、八八七	八、七七一
一九一八年	五一、七一五	四一、七五一	四、一八九
一九一九年	五四、〇八七	三八、七五九	三、三三二
一九二〇年	四〇、四八六	六一、五二七	三〇
一九二一年	二八、六七四	七二、八七九	六二〇
一九〇九—一三年平均	四一、三一二	五〇、五六一	三、三六七
一九一四年	一五、四一八	四五、八七七	二、九三
一九一五年	一九〇	二五六	一、三七二
一九一六年	一〇四	一、〇五八	一、五八七

1) Дербер П. и Шер М. Очерки хозяйственной жизни Дальнего Востока. 1927 г. 41 頁

一九〇九年乃至一九二七年に至る鐵鑛業製品の輸入狀況は左の如くである。[1]（單位千布度）

年次	銑鐵	鐵	鋼	鑄鐵製品	鐵及鋼製品
一九〇九年		二、四三四	二、四三五		
一九一〇年		二、五六四	二、五六八		
一九一一年		二、四三四	二、八四〇		
一九一二年		二、六五六	二、九四〇	九六〇	一、一三五
一九一三年		二、三四八	二、三四四	一、〇三五	一、二四六
一九〇九—一三年平均		二、四三五	二、四三五	一、〇三五	一、二四六
一九一四年		二、三四四	二、三四四	一、〇三五	一、二四六
一九一五年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六
一九一六年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六
一九一七年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六
一九一八年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六
一九一九年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六
一九二〇年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六
一九二一年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六
一九〇九—一三年平均		二、四三五	二、四三五	一、〇三五	一、二四六
一九一四年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六
一九一五年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六
一九一六年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六
一九一七年		一、一四六	一、一四六	一、〇三五	一、二四六

前表に依るに露國の銑鐵の輸入は比較的少額であつたが、一九一一年に及び銑鐵の著しき不足を告ぐるに至り、その輸入數量は忽ち十倍に達した。

1) Статистический сборник за 1913-1917 гг. Вып. 2. 14-16 頁

一九一四年	二、五四八	六、〇二六	二、九二七	五三三	二、〇一〇
一九一五年	一、三一一	一、七一六	四、四四三	一一八	四、一二三
一九一六年（註）	一、五〇一	一、四〇六	三、四四一	一〇三	三、六二八
一九一七年（註）	九四三	四八七	二、四七四	八四	二、八八八

（註）一九一六年及一九一七年に關する數字は歐露國境通過の輸入數量である。

本表に依る鐵及鋼製品の輸入額は前掲資料の數字との間に著しき懸隔を示してゐるが、これは恐らく採算の基礎の相違に發するものと思はれる。

一九一三年及び一九二一年乃至一九二四—二五年度の鐵の輸入狀態は左の如くである。[1]

年次	數量（單位千布度） 銑鐵	鐵	白葉鐵	鋼	計	價額（千戰前留） 銑鐵	鐵	白葉鐵	鋼	計
一九一三年	一、九四二	三、八〇八	九一四	二、一〇三	八、七六五	三、〇八四	五、一五八	二、二五七	二、一六八	一二、六六七
一九二一年	—	二九六	三	八七	三八六	—	四〇二	九	一三六	五四七
一九二二年	—	一六六	一〇三	九九	三六八	—	二一二	六三三	一四一	九八六
一九二三—二四年度	一五・五	三〇八・五（鐵・白葉鐵・鋼）			三二四	三一	四八六（鐵・白葉鐵・鋼）			五一七
一九二四—二五年度	一四・四	五八三（鐵・白葉鐵・鋼）			五九七・四	六三一	二、七七一（鐵・白葉鐵・鋼）			三、四〇二

一九二六—二七年度及一九二七—二八年度十一箇月の滿俺鑛及鐵鑛の歐羅巴國境通過輸出數量及價格は左の如くである。[2]（單位 數量噸、價格千留）

1) 滿鐵調査課發行露亞經濟調査叢書ソウエート聯邦の輸出入貿易 284 頁

2) Экономическая жизнь. 1928. 10. 5

品別	一九二六—二七年度 數量	價格	一九二七—二八年度十一箇月 數量	價格
滿俺鑛	七五二、二五八	二三、一二六	四六五、五三八	一二、八二七
鐵鑛	三七八、六二八	三、九一〇	三八五、一七五	四、〇五一

一九二八—二九年度及び一九二九—三〇年度の鐵及其製品の輸出數量及價格は左の如くである。[1]（單位、數量—千噸、價格—百萬留）

品別	一九二八—二九年度 數量	價格	一九二九—三〇年度 數量	價格
滿俺鑛	八九九	一九	八七四	一五
電機	一七	七	一三	七
鐵鑛	五五一	五・六	四四六	四・四

上述年度に於いてソウェート聯邦は五年計畫の進展に伴ひ旺に機械類を輸入した。即ち鑛石、金屬及び同製品の輸入額は左の如くである。[2]（單位、數量—千噸、價格—百萬留）

品別	一九二八—二九年度 數量	價格	一九二九—三〇年度 數量	價格
鑛石、金屬及同製品	六三〇	二九四	一、二二四	五八三

1) 露西亜事情調査會編ソウエート聯邦年鑑 1931 年版 268-9 頁

2) 同　上

内譯									
機械器具部分品	八五	一〇六	一八一	二三二					
トラクター	二三	二三	八一	七八					
農業用機械	六一	四三	一四二	一一三					
電氣機械器具及同附屬品	一五	三三	二四	四八					
銑鐵、鐵鋼製品	一〇三	四二	一四五	六五					
黒色金屬	二五〇	二九	五三三	六一					

第二節　國内商業

統計學者ヴェ・ボクロフスキイ氏の算定によるに、十九世紀末の露國に於ける物資生産年額は九十億留である。而してこの中市場に搬出せられたるものは僅に半數であつて、他の半數（主として農村生産品）は生産者自身に於て消費せられてゐる。從つて十九世紀末に國内に於て取引せられたる商品はヴェ・ボクロフスキイ氏に依れば、四十五億留を算し、諸税金の徴收額を基礎としても亦これに近い數字を得るのである。然しこの數字は極めて過少に見積られてゐるものと言はれる。

戰前十年間には國内の農業及工業の發達と共に國内商業も亦頗る發達した。中央統計局長官ペ・ポポフ氏の算定法に依り、戰前の農村生産品の販賣額を總生産品（一九一二年―六十一億一千七百萬留）の約三分の一即ち二十億留強とし、鑛業及工業生産額の全部四十四億五千百萬留が市場へ搬出せられたるものとすれば、戰前露西亞の領土に於ける國内商取引高は約六十五億留である。[1]

革命露西亞の商取引に關する統計は新經濟政策實施の第二年以降に屬するものである。

一九二二―二三年度のソウェート聯邦の總生産額は戰前價格によれば六十四億五千萬留又は當年價格にて六十億六千五百萬商品留（差異は農村生産品の價格下落の結果である）である。而してこの中農村生産品は當年價格にて三十四億四千萬商品留、鑛業及工業生産品は二十六億二千五百萬商品留（當年價格による）である。今若し農村生産品の販賣高の總産額に對する比率を戰前と同樣に見るならば（三分の一）ソウェート聯邦に於ける同年度の國内商品取引高は約三十七億七千五百萬商品留（農村生産品―十一億五千萬留及鑛業及工業生産品―二十六億二千五百萬留）となる。然しながら農村生産品の販賣額は戰前に比し遙に少額なる筈であつて、それがため上記の取引高は當然割引かねばならぬものである。殊に工業生産品に關しては軍需品の如き市場に搬出せられざるものをも含んでゐる。この外戰前の數字との對照上注意を要する點は工業製品の騰貴であるが、これは當に同年度に限らず最近の取引高を著しく增大せしめてゐる。[2]

一九二三―二四年度の國内取引高は左の如くである。[3]（單位百萬留）

種別	戰前留	商品留	チエルヴオネツ留
（一）農村生産品			

1) Торгово-промышленный и финансовый словарь. 1. 245 頁
2) Торгово-промышленный и финансовый словарь. 1. 246 頁
3) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1926-1927 год. 294-7頁

(イ)農業	二、五二二	一、九五〇	二、七七七
內、農民購買高	一、二六六	九六三	一、三七二
(ロ)林業	三二〇	三〇一	四二九
內、農民購買高	一〇三	九七	一三八
(ハ)漁業及狩獵業	八八	八三	一一八
內、農民購買高	二〇	一九	二七
合計	二、九三〇	二、三三三	三、三二四
內、農民購買高	一、三八九	一、〇七九	一、五三七
同上(國家計畫委員會の卸値指數に依る)	—	二、二四六	三、九三二
(二)鑛業及工業生產品			
(イ)大規模	二、〇二〇	二、四〇七	三、四三〇
(ロ)小規模	七八六	九九六	一、四一九
合計	二、八〇六	三、四〇三	四、八四九
同上(消費税共)	二、九四八	三、五七二	五、〇九〇
同上(國家計畫委員會の卸値指數に依る)	—	三、六三二	六、三五九
(三)農業・鑛業及工業生產品合計			
(イ)生產價格	五、七三六	五、七三六	八、一七三
(ロ)同上(農村生產品の農民購買高を除く)	四、三四七	四、六五七	六、六三六
(ハ)同上(消費税共)	五、八七八	五、九〇五	八、四一四
(ニ)同上(國家計畫委員會の卸値指數に依る)	—	五、八七八	一〇、二九一

上記の各產業部門の生產價格に消費税を加へたるものに更に輸入額を加へる時は左の如くである。

(單位百萬留)

種別	戰前留	商品留	チェルヴォネッ留
生產價格(消費税共)	五、八七八	五、九〇五	八、四一四
輸入額	二四〇	二五〇	四三九
合計	六、一一八	六、一五五	八、八五三

一九二四—二五年度乃至一九二六—二七年度の國內取引貨物の總價格は左の如くである。[1)]

(單位百萬戰前留、消費税を含まず)

(イ) 農村生產品

年度	農產物 穀物	農產物 工藝作物	農產物 畜產物	農產物 其他	農產物 計	林產物	漁業及狩獵產物	合計
一九二四—二五年度	三九九	二七八	六三七	二〇七	一、五二一	二六四	六三	一、八四八
一九二五—二六年度	五二三	三五六	七五七	二一七	一、八五三	三〇五	八四	二、二四二
一九二六—二七年度	五七五	三五八	八四五	二三六	二、〇一四	三四五	八八	二、四四七

(ロ) 鑛業及工業生產品

1) Контрольные цифры народного хозяйства СССР на 1927-1928. 466 頁

年度	大規模工業 原料	大規模工業 日用需要品	大規模工業 計	小規模工業（製粉業を含まず）	合計 原料	合計 日用需要品	合計 計
一九二四—二五年度	一、二五三	二、〇九五	二、二四八	九七九	一、二五三	二、〇十四	四、三二七
一九二五—二六年度	一、八三七	二、〇二四	四、八六一	一、一三〇	一、八三七	四、一五四	五、九九一
一九二六—二七年度	二、二八二	二、三〇八	五、五九〇	一、二〇九	二、二八二	四、五一七	六、七九九

（ハ）總　計

年度	農村經濟生產品	鑛業及工業生產品	合計
一九二四—二五年度	一、八五二	四、三二七	六、一七九
一九二五—二六年度	二、二四一	五、九九一	八、二三二
一九二六—二七年度	二、四四七	六、七九九	九、二四六

上記の農村經濟生產品の取引高は農民の購買高（現物交換を含む）を含んでゐないが、その價格は左の如くである。（單位百萬戰前留、消費稅を含まず）

年度	穀物、工藝作物、畜產物、其他	林產物	漁業及狩獵產物	合計
一九二四—二五年度	一、八四七	八三	二八	一、九五八
一九二五—二六年度	一、八九八	九九	三一	二、〇一八
一九二六—二七年度	二、〇三八	一〇〇	二七	二、一六五

今若し市場及農村に於ける農村生產品及鑛業・工業生產品の取引總額（生產價格）、消費稅を課したる總取引高並に之に輸入高を合するならば、ソウエート聯邦の國內商業の全般を俯瞰し得るこ思ふ。

（イ）戰前の價格（單位百萬留）

年度	總取引高 農村生產品	總取引高 鑛業及工業生產品	總取引高 計	同上（消費稅共）	同上（輸入額共）
一九二四—二五年度	三、八一〇	四、三二七	八、一三七	八、四一七	八、八六六
一九二五—二六年度	四、二五九	五、九九一	一〇、二五〇	一〇、七二五	一一、二六三
一九二六—二七年度	四、六一二	六、七九九	一一、四一一	一二、〇三五	一二、五六五

（ロ）チエルヴオネツ留に依る價格（單位百萬留）

年度	總取引高 農村生產品	總取引高 鑛業及工業生產品	總取引高 計	同上（消費稅共）	同上（輸入額共）
一九二四—二五年度	五、五六五	七、四七四	一三、〇三九	一三、五四七	一四、三五三
一九二五—二六年度	六、三六六	一〇、四三七	一六、八〇三	一七、七〇五	一八、五九六
一九二六—二七年度	六、六七二	一一、四三九	一八、一一一	一九、二四八	二〇、一一七

一九二七―二八年度の國內取引高は左の如くである。[1] 但し輸入高を除く。

（單位百萬チェルヴォネッ留、生產價格による）

上記の外、農民購買高			三、一〇五
農村生產品取引總額			六、九五六
（二）鑛業及工業生產品			
（イ）大規模工業			一一、七八三
內、原　料			四、一四二
一般需要品			七、六四一
（ロ）小規模工業			二、六九五
合計（消費稅を含まず）			一四、四七八
同上（消　費　稅　共）			一五、九八三
（三）農村經濟・鑛業・工業生產品			
取引總額（消費稅共）			二二、九三九
（一）農　業	一、四四〇		
內、穀　物	四七五		
工藝作物	五八三		
（ロ）畜　業	一、四〇三		
內、原　料	三二七		
一般需要品	一、〇七六		
（ハ）漁業及狩獵業	一七五		
（ニ）林　業	七七〇		
合　計（農業年度）	三、七八八		
同上（經濟年度十月―九月）	三、八五一		

以上を綜合して戰前戰後の國內取引高を比較するに、戰前に於ては約四五パーセントを增加せるに對し、一九一三年乃至一九二六―二七年度に於ては戰前留採算にて七五・五パーセントの增加を示し、チェルヴォネッ留採算にては一九一三年乃至一九二七―二八年度に於て二五三パーセントの大增加を示してゐる。

1) Экономическая жизнь. 1928. 10. 16

第九章　交　通

第一節　鐵　道

第一項　軌　道

一九〇三年乃至一九一三年に於ける年平均鐵道營業露里數は左の如くである。[1]（單位露里）

一九〇三年	五四、九二八	一九〇九年	六二、六一三
一九〇四年	五六、四五〇	一九一〇年	六三、五二四
一九〇五年	五七、六一八	一九一一年	六四、一三七
一九〇六年	六〇、〇九五	一九一二年・	六五、一七六
一九〇七年	六一、七二五	一九一三年	六六、三一五
一九〇八年	六二、二六三		

右の中一九〇五年平均鐵道全長を地方別し面積三の對比を取るに左の如くである。[2]

地方別	延長（單位露里）			面積千平方露里當延長
	幹線	支線	計	
歐露	四三、〇〇一		四五、三五九	一〇・二
波蘭	二、三五八		三、〇二七	三七・一
	二、八二九		一九八	

1) Струмилин С. Г. Очерки советской экономики. 196-7 頁

2) Большая энциклопедія. №22. Россія.

芬蘭	三、〇〇六	一〇一	三、一〇七	一〇・九
後高架索	一、九二二	六二	一、九八四	九・一
西比利	五、〇四二	六九	五、一一一	〇・五
草原地方	四〇七	八	四一五	〇・二
中央亞細亞	二、〇五九	一九	二、〇七八	一・九
ブハラ・ヒワ地方	三〇九	二	三一一	—
合計	五八、五七五	二、八一七	六一、三九二	三・二

一九一一年末現在の鐵道の延長を區分して、歐露及芬蘭—六一、〇七八粁（一九〇〇年—四八、一〇七粁）、中央亞細亞—六、五四四粁、西比利及滿洲（東支鐵道）—一〇、八四六粁（一九〇〇年亞露—八、八六九粁）とし、これを百平方粁當に計算するならば、歐露及芬蘭—一・一粁、中央亞細亞—一・二粁、西比利及滿洲（東支鐵道）—〇・〇九粁となる。[1]

私有鐵道の露里數を示すに左の如くである。[2]（單位露里）

一九〇八年	一七、九〇四	一九一一年	一八、四〇五
一九〇九年	一七、九三二	一九一二年	一八、四九八
一九一〇年	一七、九四一	一九一三年	一九、〇二三

一九一三年の線路全長は六六、三五五・五露里にして、營業露里數を六六、〇八一・九露里とせば、その中一般用鐵道の營業露里數は六三、八二九・四露里、殘餘の二、二五二・五露里は所謂地方的意義を有するものである（主として狹軌にして他線との接續不可能）。露西亞の鐵道の全價格は、一九一四年一月一日現在にて七十六億二千萬留にして、その中四十五億三千萬留は政府の保障せる鐵道公債によるものである。[1]

右に示せる鐵道露里數は戰前露西亞の鐵道の發達の極めて緩慢なるを示してゐる。一九一三年以前に於ける鐵道事業の不振乃至鐵道敷設の緩慢の由つて來る原因は日露戰爭と第一革命に基因する財政難である。[2]

一九一四年一月一日現在の露西亞の鐵道の營業露里數は六三、六九三露里を算し、その中四四、六一三露里は官有鐵道である。同年前十年間の增設率は一七・三パーセントであつて、一九一三年には九一七露里が增設せられた。[3]

一九一五—一七の三箇年の鐵道營業露里數は左の如くである。[4]（單位露里）

一九一五年	五九、九四五	一九一七年	五九、二八一
一九一六年	五一、七八七		

歐洲戰爭直前は露國の鐵道敷設の全盛期であつたが、更に歐洲戰爭の勃發すると共に、軍事用の必要に出で新線の增設を見、一方狹軌は擴大せられ、斯て一九一七年一月一日現在にては正式に開通せるもの七三、八九八露里、臨時運轉を目的とするもの五、二五七露里、敷設中のもの一〇、四四九露里を算した。この外官費に依る敷設の決定せるもの一、二七二露里、民間利權會社の經費を以てする敷設を許可せるもの八、五九五露里、合計九、八六七露里の敷設計畫があつた。[5]

1) Новый энциклопедическій словарь. №17. Желѣзнодорожная статистика.
2) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. XL 頁

1) Торгово-промышленный и финансовый словарь. I. 494-5 頁
2) Энциклопедический словарь "Гранат" № 20. Жел. дор.
3) Народное хозяйство въ 1913 году. Министерство финансовъ. XXIX 頁
4) Статистический сборник за 1913-1917 гг. Вып. 2. 142 頁
5) Торгово-промышленный и финансовый словарь. III. 495 頁

波蘭及其他小共和國の獨立の結果露國が喪失した鐵道は延長九、五四八露里であつて、一九一四年一月一日現在の價格に見積り一、〇七二、〇一三、一四四留である（註）。從つて喪失した鐵道の延長は一九一四年七・三パーセントにして、これは一九〇三年後十年間の增加數に相當し、歐露の全鐵道（五四、五二〇露里）の六分の一强に當る。價格に於ても殆ど之と同樣にして一七・二パーセントを成してゐる（一九一四年一月一日現在歐露の全鐵道の價格は六、二三二、〇八八、〇六二留である[1]。）

（註）この數字は一露里を基準として算出せらるゝものであつて、官有と私有とを含む。

一九一七年以降の營業露里數は左の如くである[2]。（單位粁、括弧内一露里）

一九一七年	一九二〇—二一年度	一九二一—二二年度	一九二二—二三年度	一九二三—二四年度	一九二四—二五年度	一九二五—二六年度	一九二六—二七年度	一九二七—二八年度
（五五四、八五八四九）	（三六、七三四、〇三一）	（五三六、八二五、〇二八）	（二二五六、七〇八五）	（二三一九、五一八七）	（五五三六、二五〇二八）	（五六七九、四九五、九二四）	（五六七九、四九五、九二四）	（五七〇五、四三〇）

一九二七—二八年度より最近年に至る營業粁數は左の如くである[3]。（單位千粁）

一九一三年	一九一九—二〇年度	一九二七—二八年度
七七・六	七六・八	七六・〇

第二項　車輛

一九〇〇年乃至一九〇四年の機關車及車輛數は左の如くである[1]。（單位輛）

年次	機關車	貨車
一九〇〇年	一四、二七二	三六五、一〇〇
一九〇一年	一四、三三六	三五一、八〇〇
一九〇二年	一三、六一三	三三三、九〇〇
一九〇三年	一三、一四四	三一五、〇〇〇
一九〇四年	一二、九〇八	三〇一、八〇〇

一九一三年乃至一九二七年に於ける車輛數は左の如くである。（單位輛）

年次	機關車[2]	客車[3]	貨車[4]
一九一三年	二〇、三三〇	三一、八七八	五〇七、六七二
一九二〇年	二〇、〇七二	三一、三〇〇	五〇二、〇〇〇

上記を綜合するに、營業露里數は戰前十箇年に二〇・七パーセントを增加し、一九一三年乃至一九二九—一三〇年度に於ては三三・二パーセントの增加を示し、これにより鐵道の建設が相當旺であることが窺はれる。

1) Экономическое развитие России. Вып. I. 264 頁
2) Статистический сборник за 1913–1917 гг. Вып. 2. 143. 148 頁
3) Сборник статистических сведений по Союзу ССР. 1918–1923 гг. 440 頁
4) Весь ССР. 1926 г. Ч. I. 21 頁

1) Закъ А. Н. Разверстка государственныхъ долговъ. 55 頁
2) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917–1927 гг. 436–7 頁
3) 2 год пятилетки. 21 頁

委員部統計局の發表に係る稍詳細なる數字がある。即ち左の如くである。[3]

年度	貨車			客車			合計		
	實數	百破損車分比の		實數	百破損車分比の		實數	百破損車分比の	
一九一六—一七年度	四七、三五九	一〇・五		二、九四四			四九、三〇三		
一九一七—一八年度	四二、六九〇	一四・二		二、六八〇			四五、三七〇		
一九一八—一九年度	三八、八五二	一九・四		二、四一六			四一、二六八		
一九一九—二〇年度	三五、四〇〇	二二・〇		二、二〇〇			三七、六〇〇		
一九二〇—二一年度	三四、〇〇〇	二三・〇		二、〇〇〇			三六、〇〇〇		
一九二一—二二年度	三四、〇〇〇	二三・〇		二、〇〇〇			三六、〇〇〇		
一九二二—二三年度	三四、〇〇〇	二三・〇		二、〇〇〇			三六、〇〇〇		
一九二三—二四年度	三四、〇〇〇	二三・〇		二、〇〇〇			三六、〇〇〇		
一九二四—二五年度	三四、〇〇〇	二三・〇		二、〇〇〇			三六、〇〇〇		
一九二五—二六年度	三四、〇〇〇	二三・〇		二、〇〇〇			三六、〇〇〇		
一九二六—二七年度	三四、〇〇〇	二三・〇		二、〇〇〇			三六、〇〇〇		

更に前掲一九二八—二九年度並に一九二九—三〇年度の五箇月（十月—二月）に關しては、交通人民委員部統計局の發表に係る稍詳細なる數字がある。即ち左の如くである。[3]

年度	機關車總數（單位輛）	貨車總數（軸單位千輛）	客車總數（單位輛）	總數に對する完全車輛の%：機關車	貨車	客車
一九二七—二八年度	二七、五四	四三	二五、六五	五六・二	五九・八	六七・二
一九二八—二九年度	二七、五五	四五	二五、七五	五九・五	六二・五	六九・三

前掲數字に異るが、一九一七年以降に於ける車輛數は左の如くである。[1]（貨車單位二軸車、客車單位個）

年	帝政時代との比較に於けるソヴェト聯邦經濟事情
一九一六年	二〇、七三一
一九一七年	一六、八三七
一九一八年	九、二〇一
一九一九年	一七、四一三
一九二〇年	二三、四一七
一九二一年	七、六六三
一九二二年	一四、一四〇
一九二三年	一六、六八四
一九二四年	一五四

一九二〇—二一年度乃至一九二四—二五年度の機關車總數並に使用し得る機關車の百分比は左の如くである。[1]（單位輛）

年度	數	使用し得る機關車の百分比
一九二〇—二一年度	二〇、三三〇	八三
一九二一—二二年度	一八、七五七	
一九二二—二三年度	一九、〇六七	
一九二三—二四年度	一九、五〇〇	
一九二四—二五年度	二〇、〇〇〇	四三・六
一九二五—二六年度	二〇、三〇〇	四五・四

一九二七—二八年度及び一九二八—二九年度の車輛統計は左の如くである。[2]

年度	機關車總數（單位輛）	貨車總數（軸單位千輛）	客車總數（單位輛）	總數に對する完全車輛の%：機關車	貨車	客車
一九二七—二八年度	二七、五四	四三	二五、六五	五六・二	五九・八	六七・二
一九二八—二九年度	二七、五五	四五	二五、七五	五九・五	六二・五	六九・三

1) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917-1927 гг. 436-7 頁
2) Весь СССР. 1926 г. Ч. I. 21 頁
3) Экономическое обозрение. № 2. 1930 г. 170 頁
4) Ежемесячный бюллетень транспортной статистики. № 7. 1930 г.

（イ）機關車總數及其使用輛數　（單位輛）

年度	機關車總數	鐵道局所管機關車數			使用機關車數	
		總數	完全機關車數	總數に對する完全機關車數の%	總數	完全機關車數に對する%
一九二八—二九年度	二七、六五	二五、九五	二三、三三	八九・〇	九、三五	五九・七
同年度（五箇月）	二七、八六	二五、九六	二三、六五	八九・〇	九、六九	五七・七
一九二九—三〇年度五箇月	二七、九三	二六、四七	二三、九五	八九・九	八、四一	五二・一

（ロ）豫備機關車數　（單位輛）

年度	封鎖せる完全機關車		豫備機關車
	總數	交通人民委員部所管	
一九二八—二九年度	三、八四〇	一	一、七〇四
同年度（五箇月）	三、一〇七	一、四八八（註）	三、〇五七
一九二九—三〇年度五箇月	二、八一三	一、一七六	九六三

（註）六月乃至九月平均。

（ハ）貨車統計　（單位二軸車）

年度	貨車總數	鐵道局所管貨車數			使用貨車數		豫備車
		總數	完全貨車數	總數に對する完全貨車の%	總數	完全貨車に對する%	
一九二八—二九年度	四五、三四	四五、九六	四四、七三	九八・四	三九、二四	八七・五	四五、七二
同年度（五箇月）	四五、〇三	四五、二三五	四四、一三五	九八・三	三九、四四五	八七・四	四五、〇三
一九二九—三〇年度五箇月	四五、六五	四五、三五	四四、六七	九八・三	四二、六六	九三・四	三、〇五

第九章　交通

第一項　運輸

第一節　概觀

一九〇四年に於ける鐵道輸送高は左の如くであつた。[1]

鐵道別	貨物（單位百萬噸）	旅客	
		人員（單位百萬人）	一人平均走行（單位粁里）
歐露			
官有	七、三一〇、三六八	三、一四〇、〇三一	三〇八・三

1) Большая энциклопедія. № 22. Россія.

至一九二九—三〇年度に於て約四・二パーセントを增加してゐる。次に貨車は一九〇一—一三年に於て二八パーセント、一九一三年乃至一九二九—三〇年度に於て一六・六パーセントを夫々增加し、客車は一九一三年乃至一九二九—三〇年度に於て約四〇パーセントを增加してゐる。

（ニ）客車統計　（單位輛）

年度	客車總數	完全客車數		使用客車數	
		實數	客車總數に對する%	實數	完全客車に對する%
一九二八—二九年度	二二、七〇五	二一、三八	八三・〇	一五、三〇四	七二・八
同年度（五箇月）	二二、八九七	二〇、九〇六	八〇・七	一四、三九九	六八・九
一九二九—三〇年度五箇月	二二、二二〇	二一、二〇四	八八・〇	一五、六八五	七〇・六

上記の資料に依れば、機關車總數は一九〇一—一三年の期間に約四〇パーセント增加し、一九一三年乃至一九二九—三〇年度に於て約四・二パーセントを增加してゐる。次に貨車は一九〇一—一三年に於て二八パーセント、一九一三年乃至一九二九—三〇年度に於て一六・六パーセントを夫々增加し、客車は一九一三年乃至一九二九—三〇年度に於て約四〇パーセントを增加してゐる。

第三項　運輸及運輸成績

一九〇四年に於ける鐵道輸送高は左の如くである。[1]

1) Большая энциклопедія. № 22. Россія.

年次	合計	亜露 小計	官有鉄道 私有	官有鉄道 小計	同上（地方用）	私有（一般用）
一九一一年	六六、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三
一九一二年	六四、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三
一九一三年	六四、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三
一九一四年	六四、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三
一九一五年	六四、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三
一九一六年	六四、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三
一九一七年	六四、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三
一九一八年	六四、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三
一九一九年	六四、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三
一九二〇年	六四、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三
一九二一年	六四、四三	三五、三四	一五、三四	一五、三四	一一、三	一一、三

（註一）ロッデーズダルジスキイ支線及びロッデーバヒヤニッキイ支線を含む。
（註二）地方的鉄道を含まず。

一九〇八年乃至一九二一年の貨物輸送状況は左の如くである。[1]

年次	急行貨物 (単位千布度)	普通貨物 総数 (単位千布度)	普通貨物 布度露里 (単位百万)	普通貨物 収入 (単位千留)	普通貨物 平均 一布度当留 (単位留)	普通貨物 一布度露里需 (単位哥)	鉄道用貨物 (単位千布度)
一九〇八年	二五、五四	一〇、一〇、〇四六	一一、〇一〇、〇六六	五六、二二	〇、〇五	〇、〇二	三一、〇一〇、三五
一九〇九年	二五、〇〇	一〇、五六、八三	一一、八三、一九	五九、五五	〇、〇五	〇、〇三	三一、〇九、二八
一九一〇年	二六、四三	一一、〇〇、一〇二	一二、一〇、一〇四	六四、四三	〇、〇五	〇、〇三	三一、五一、〇四

一九〇八年乃至一九二一年の機関車及車輛走行は左の如くである。[2]

年次	機関車走行 列車引 (単位千車軸露里)	機関車走行 総走行 (単位千機関車露里)	車輛走行 客 (単位千車軸露里)	車輛走行 貨 (単位千車軸露里)
一九〇八年	二八、五二、三六三	四一、六、三五四	三、四九、六、五一四	二一、〇一七、五二三
一九〇九年	二七、九、六六	四〇、二、〇三七	三、五一一、一六九	二一、〇七三、九〇六
一九一〇年	二七、〇、一八二	三八、三、一六四	三、六三九、四七八	一一、七三五、六六四
一九一一年	二八、〇九八、八	三九、二、一八八	三、八一一、五四六	二二、三〇四、九一六

一九〇八年乃至一九二一年の旅客輸送状況は左の如くである。[1]

年次	旅客 単位千人数	旅客 単位百万露里	旅客収入 千留	旅客一人平均収入 単位留
一九〇八年	一六、〇六五	一八、九七八	一四二、七七七	〇、八九
一九〇九年	一七三、五〇八	一九、九七七	一五七、五三七	〇、九一
一九一〇年	一九三、一九七	二二、六一一	一六九、二〇一	〇、八八
一九一一年	二一三、八六五	二二、四六五	一七四、五六六	〇、八二
一九一二年	二三七、五七六	二四、七八二	二〇二、五六〇	〇、八五

1) Статистический ежегодник на 1914 г. 690 頁

2) 同上 678. 690 頁

一九一三年の輸送貨物數量は百七十四億九千八百萬布度であつた[1]。

一九一四年乃至一九一七年に於ける旅客及貨物の走行は左の如くである[2]。

年次	旅客（單位千人）	及旅貨客物列車輛送（單位千布度）	貨急物行（單及普位通千列布車輛度）送	鐵道（單位）千用布貨度物
一九一四年	二一四、六六三	九七、二六一	一一、三四一、三三四	一一、四九三、五三七
一九一五年	二二五四、三四三	一五一、八六一	一一、〇六六、三〇二	一一、六二四、三五三
一九一六年	二二二二、八三四	一〇八、八〇〇	一一、九六五、八七二	一一、三九〇、九四九
一九一七年	一三五、五七九	九〇、五七二	七、九七〇、六〇三	一一、四五、六九三

一九一三年及一九一七年乃至一九二六—二七年度の機關車及車輛走行は左の如くである[2]。

年度	機關車走行（單位千機關車粁）列車牽引	機關車走行（單位千機關車粁）總數	列車車輛走行（單位百萬車軸粁）貨車	列車車輛走行（單位百萬車軸粁）客車	列車車輛走行（單位百萬車軸粁）總數
一九一三年	四五、六二	五三、五五	六四五	五、六五	二三、二五〇
一九一四年乃至一九一七年に於ける旅客及貨物の走行は左の如くであつた[1]。					
一九一四年	四、三六八、〇九二、五九〇	五五三、三三三、一四六	四、九五七、九九七、〇八七	四、七八五、〇八九、七四七	八、六三〇、八九六
一九一五年	三八一、六一五	五三三、一四六	四、七八五、〇八七	四、七二一、四三七	八、五一一、一五四
一九一六年	三七二、〇七二	五四一、九六五	四、六七二、〇五六	四、六九五、九四七	八、六七一、一五四
一九一七年	三六八、〇九二	五五三、三三二	四、九五七、三九八	四、七八五、〇八七	八、七四二、九六五

一九一三年及一九一七年乃至一九二六—二七年度の機關車及車輛走行は左の如くである[2]。

年次	旅客（單位千人）及旅貨客物列車輛送（單位千布度）物	貨急物行（單及普位通千列布車輛度）送	鐵道（單位）千用布貨度物
一九一四年乃至一九一七年に於ける旅客及貨物走行は左の如くである[1]。			
一九一四年	二一四、六六三	一一、三四一、三三四	一一、四九三、五三七
一九一五年	二二五四、三四三	一一、〇六六、三〇二	一一、六二四、三五三
一九一六年	二二二二、八三四	一一、九六五、八七二	一一、三九〇、九四九
一九一七年	一三五、五七九	七、九七〇、六〇三	一一、四五、六九三

1) Торгово-промышленный и финансовый словарь. I. 495 頁

2) Статистический сборник за 1913–1917 гг. Вып. 2. 139 頁

1) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917–1927 гг. 436–7 頁

一九一三年及一九一七年乃至一九一六―一七年度の營業貨物數量，旅客數，貨物及旅客の走行，列車の效率は左の如くである[1]。

年度	運輸高 營業貨物（單位千噸）	運輸高 旅客（單位千人）	平均走行（單位千粁） 貨物	平均走行（單位千粁） 旅客	效率 貨物（單位千噸粁）	效率 旅客（單位千人粁）
一九一三年	一三四、四〇〇	一六、〇〇〇	四五六	一三六	一、一八〇・〇	四三〇・〇
一九一七年	一一二、五〇〇	一一、九〇〇	三五六	一一五	四〇・一	一三・四
一九一六―一七年度	八三、四〇〇	一〇、八〇〇	三五六	一一五	三〇・〇	一二・四
一九一七―一八年度	四五、六〇〇	五、四〇〇	二四〇	七二	一〇・九	三・九
一九一八―一九年度	一四、〇〇〇	二、〇〇〇	一五〇	四八	二・一	〇・七
一九一九―二〇年度	一五、〇〇〇	二、〇〇〇	一五〇	四八	二・二	〇・七
一九二〇―二一年度	一九、〇〇〇	二、五〇〇	一九〇	六〇	三・六	一・二
一九二一―二二年度	二六、〇〇〇	三、五〇〇	二六〇	八四	六・八	二・九
一九二二―二三年度	三二、〇〇〇	四、〇〇〇	二八〇	九〇	八・九	三・六
一九二三―二四年度	三八、〇〇〇	四、五〇〇	二八〇	九〇	一〇・六	四・一
一九二四―二五年度	四五、〇〇〇	五、〇〇〇	二八〇	九〇	一二・六	四・五
一九二五―二六年度	五六、〇〇〇	六、〇〇〇	二八〇	九〇	一五・七	五・四
一九二六―二七年度	六三、〇〇〇	七、〇〇〇	二八〇	九〇	一七・六	六・三

1) Итоги десятилетия советской власти в цифрах. 1917–1927 гг. 438–9 頁

第九章　交通

(イ) 機關車作業

一九二八―二九年度及び一九二九―三〇年度の運轉及運輸成績は左の數箇の統計に於て窺はれる[1]。

作業別	一九二八―二九年度	一九二九―三〇年度
機關車總走行粁（千粁）	五、三二二、三三七	六、〇二二、六五九
列車牽引走行粁（千粁）	三、六四四、一一一	四、二六八、三〇
鐵道用列車內貨物列車	二四四、〇六五	二七〇、二二九
鐵道用列車內旅客列車	一一、九五六	一三、七八八
八、〇九〇		

1) Ежемесячный бюллетень транспортной статистики. № 11. 12. 1930 г.